岩手県文化財調査報告書 第149集

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成27年度　復興関係）

平成29年３月

岩 手 県 教 育 委 員 会

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成27年度　復興関係）

岩 手 県 教 育 委 員 会

序

本県沿岸市町村に甚大な被害をもたらした東日本大震災津波の発災から６年が経過し、「復興道路」の一つとして位置づけられた三陸沿岸道路の建設、集団移転地の造成、被災した道路や農地の復旧等、被災地住民の生活再建に向けた大規模開発事業が着実に進展しています。また、被災地では、個人住宅や企業店舗･施設の再建等、民間開発事業も進められています。

当教育委員会では、埋蔵文化財の保護と復興事業の推進を両立させるため、平成24年度から文化庁の調整により、他道府県の専門職員の派遣をいただき、復興事業に伴う膨大な埋蔵文化財調査に対応するとともに、沿岸市町村教育委員会が実施する調査へ支援を行ってまいりました。

本書は、当教育委員会が平成27年度に実施した諸調査の記録をまとめたものです。本書が広く活用され、埋蔵文化財保護に役立てば幸いです。

最後になりましたが、調査及び報告書作成に御指導と御協力をいただきました関係機関・各位に厚く感謝申し上げます。

平成29年３月

岩手県教育委員会

教育長　高　橋　嘉　行

目　　次

序
例言
岩手県沿岸市町村位置図 …… 1
岩手県内復興道路・復興支援道路全体図 …… 2
調査位置図 …… 3
試掘調査
【三陸沿岸道路・国道45号改良】
1　南川尻遺跡（新規発見 旧可能性あり９；洋野町） ……11
2　北玉川遺跡（新規発見 旧可能性あり21；洋野町） ……13
3　八森遺跡（洋野町） ……17
4　芦ケ沢Ⅱ遺跡（新規発見 旧可能性あり29；久慈市） ……19
5　向新田XX遺跡（新規発見 旧可能性あり・レベルバンク；宮古市）……22
【宮古盛岡横断道路】
6　腹帯配石遺構群（宮古市）……24
7　腹帯Ⅴ遺跡（新規発見 旧可能性あり・腹帯第３トンネル施工ヤード；宮古市）……30
8　岩井沢遺跡（新規発見 旧可能性あり３・施工ヤード；宮古市）……32
本発掘調査
【三陸沿岸道路】
9　サンニヤⅡ遺跡（新規発見 旧可能性あり・２号工事用道路；洋野町） ……37
10　小成Ⅱ遺跡（新規発見 旧可能性あり４；岩泉町） ……45
11　乙部遺跡（宮古市） ……53
12　荷竹日影Ⅱ遺跡（新規発見範囲拡大 旧可能性あり２・機能補償道路；宮古市）……77
【宮古盛岡横断道路】
13　腹帯Ⅳ遺跡（新規発見 旧可能性あり６；宮古市） ……87
平成27年度 派遣専門職員 ……97
調査一覧
1　分布調査一覧 …… 101
2　試掘調査一覧 …… 102
3　本発掘調査一覧 …… 103
4　工事立会一覧 …… 103
報告書抄録…… 104

例　　言

1　本書は岩手県教育委員会が平成27年度に実施した県内遺跡発掘調査事業（復興関係）に係る調査成果の概要報告である。なお､本事業は復興庁復興交付金の交付を主に受けて実施したものである。

2　本事業は岩手県教育委員会が調査主体となり、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。野外調査・室内整理・報告書作成・編集は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課埋蔵文化財担当（復興事業担当）が行った。

3　遺跡位置図は国土地理院発行の1/50,000地形図（数値地図画像）を使用し、一部加筆・改変したものである。

4　調査区位置図等は各事業者から提供された工事図面・地形図等を原図として作成した。

5　本書では試掘調査により本調査対応となった主な事業予定箇所の成果概要について記載した。

6　遺構・遺物実測図の掲載はページごとに縮尺を記載し、特徴的な表現については図版ごとに注釈を付した。

7　遺構・遺物写真は、紙幅の関係から主な遺構・遺物を選択して遺跡ごとに掲載した。

8　平成27年度は、復興事業に伴う埋蔵文化財調査の著しい増加が予想されたことから、文化庁による調整の下、当教育委員会では８道県から各１名、計８名の専門職員の派遣を受けた。平成27年度の埋蔵文化財担当は計17名で、調査体制は以下のとおりである。

＜埋蔵文化財担当＞　上席文化財専門員 菅常久（全体総括）

＜予算・経理担当＞　主任 藤村フサ子

＜復興事業担当＞　文化財専門員 半澤武彦（復興事業総括）・鳥居達人　文化財調査員 長屋敷淳史

【他道府県教育委員会からの派遣専門職員】

上席文化財専門員 友岡信彦（大分県）・篠宮正（兵庫県）文化財専門員 赤井文人（北海道）・新海和広（秋田県）・岩名建太郎（静岡県）・小竹森直子（滋賀県）・上床真（鹿児島県）

文化財調査員 具志堅清大（沖縄県）

＜通常事業担当＞ 文化財専門員 千葉正彦（通常事業総括）・佐々木務　文化財調査員 高橋祐

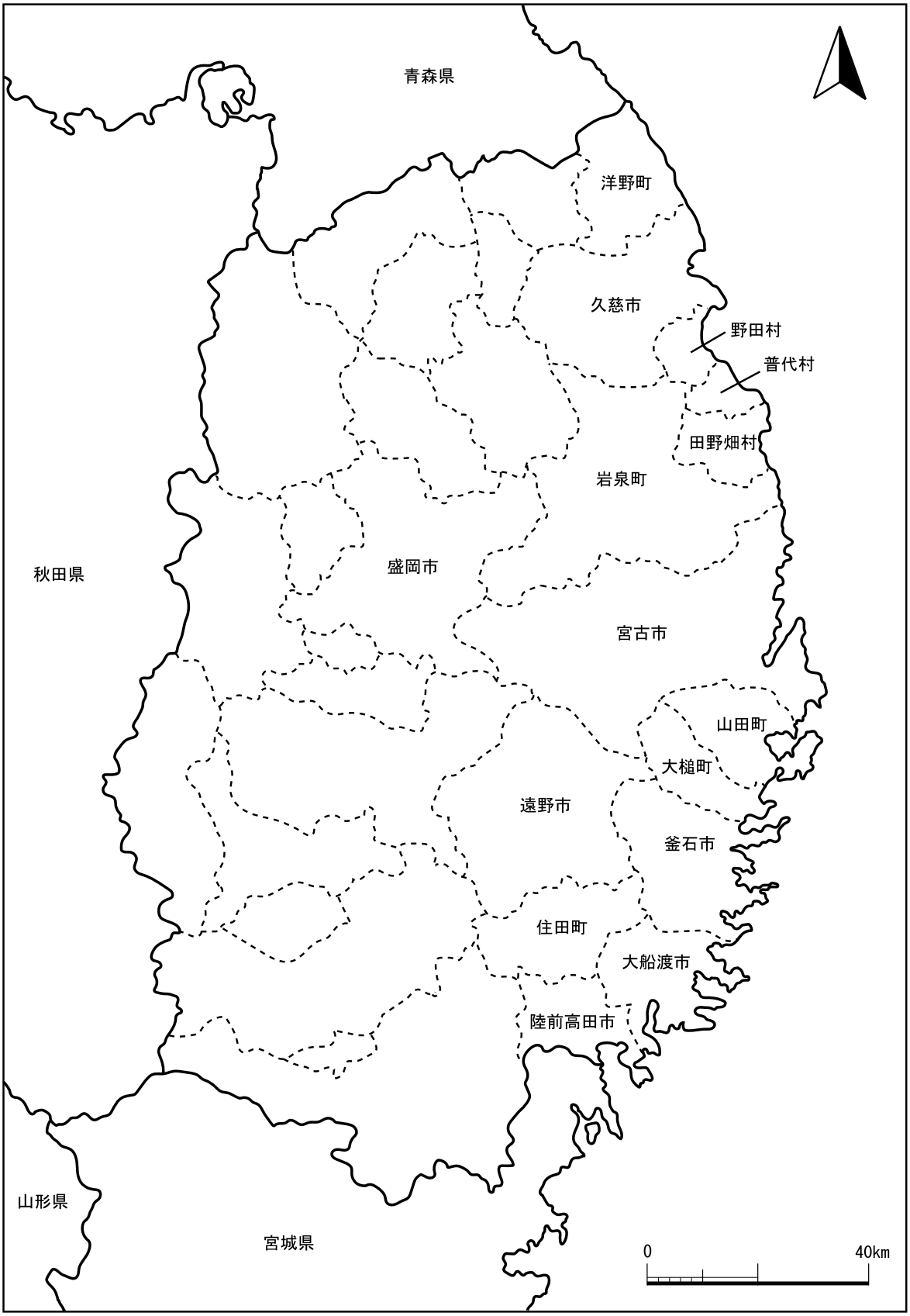
＜市町村支援＞ 文化財専門員 佐藤淳一（山田町教育委員会へ派遣）

9　本書における各遺跡の調査報告文末には、執筆者名を記した。

10　本書は復興事業関係の調査を収録し、調査は主に復興事業担当が実施した。なお、通常事業関係の調査については、第148集として別途刊行している。

11　本事業の調査記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

岩手県沿岸市町村位置図

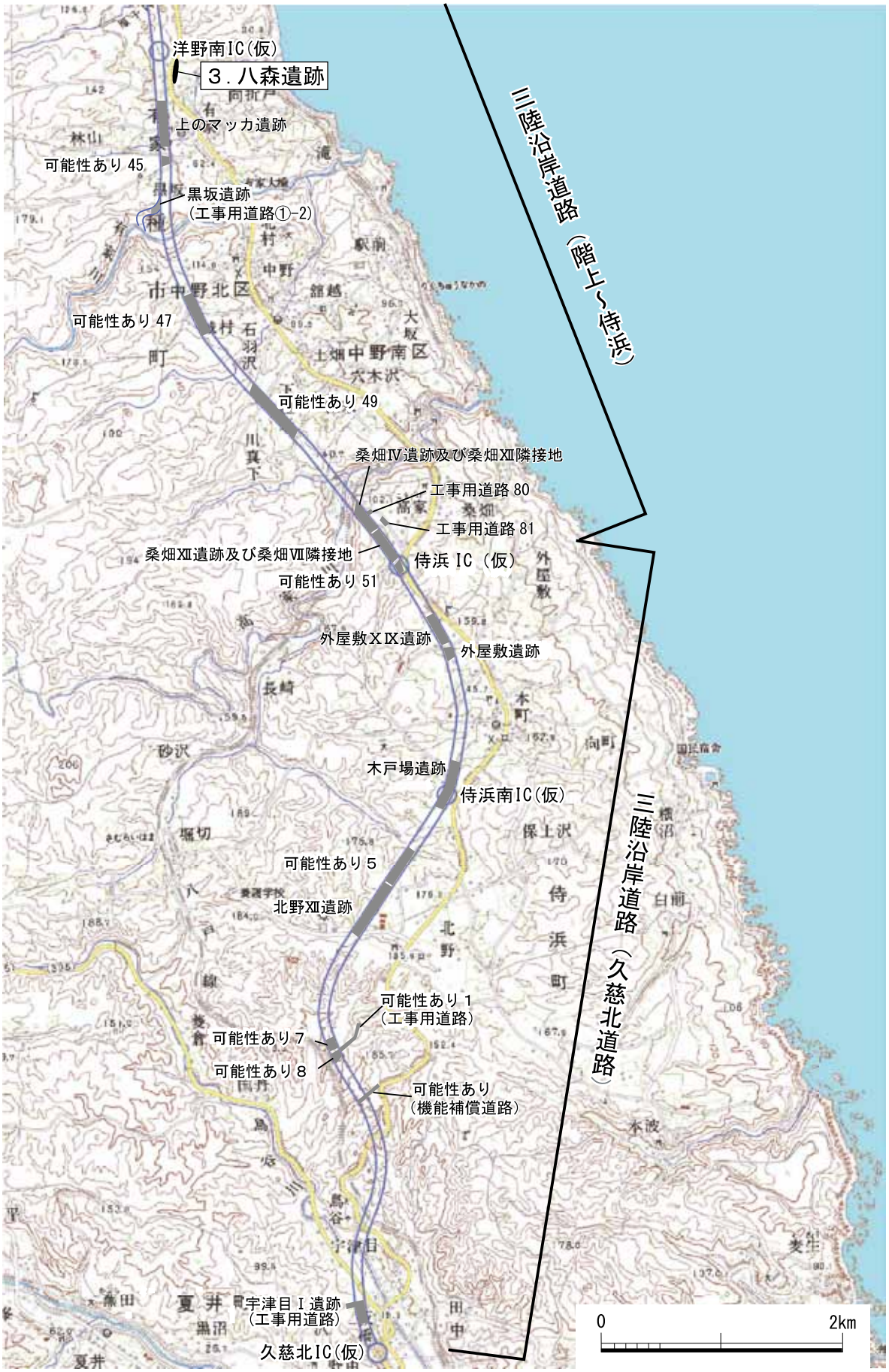


国土交通省三陸国道事務所HPより引用、一部加筆(H28年度末現在)

岩手県内　復興道路・復興支援道路全体図（国土交通省関係）

□は掲載遺跡

三陸沿岸道路（青森県階上～洋野）調査位置図

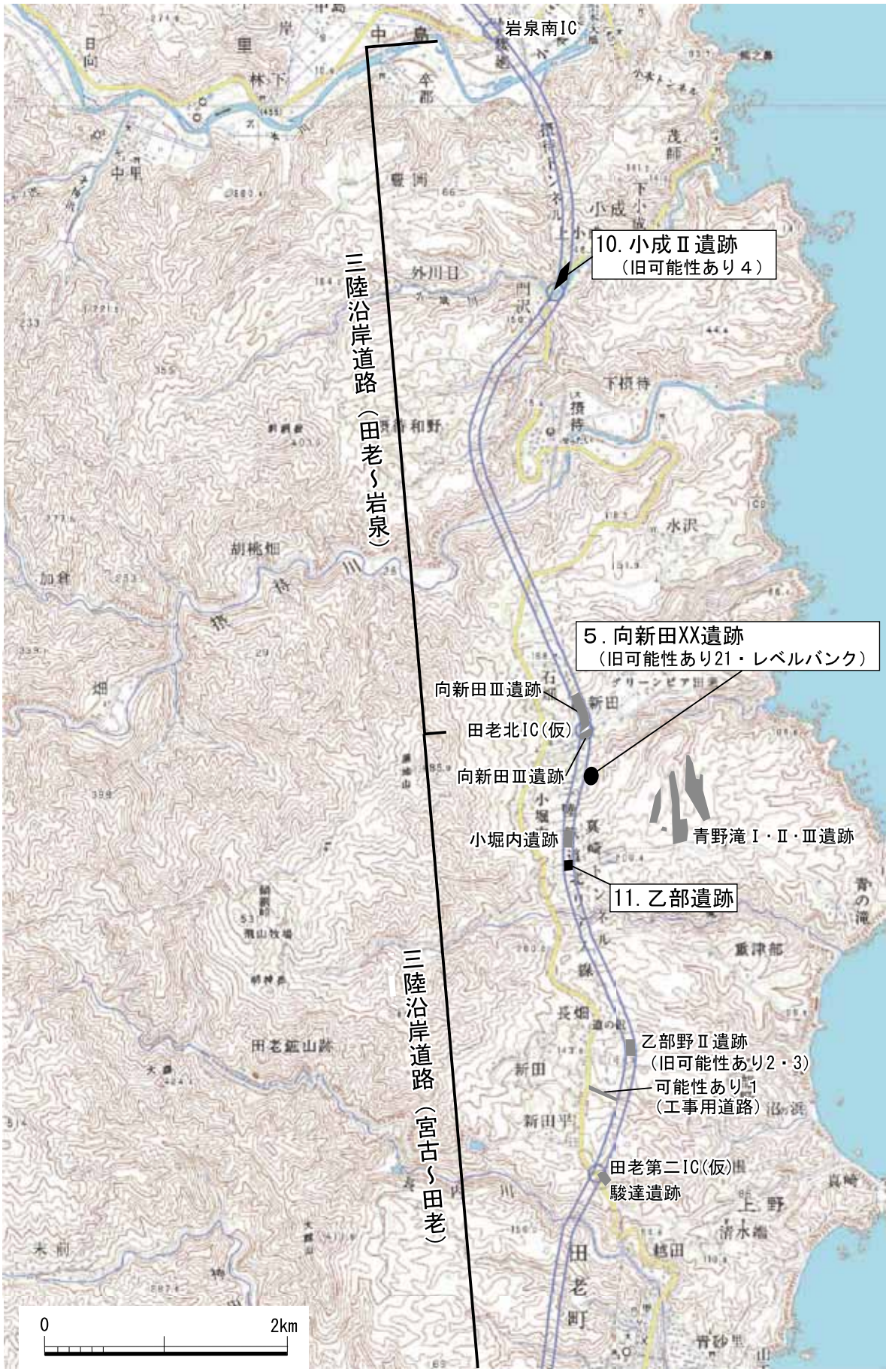


は掲載遺跡

三陸沿岸道路（洋野～侍浜）調査位置図

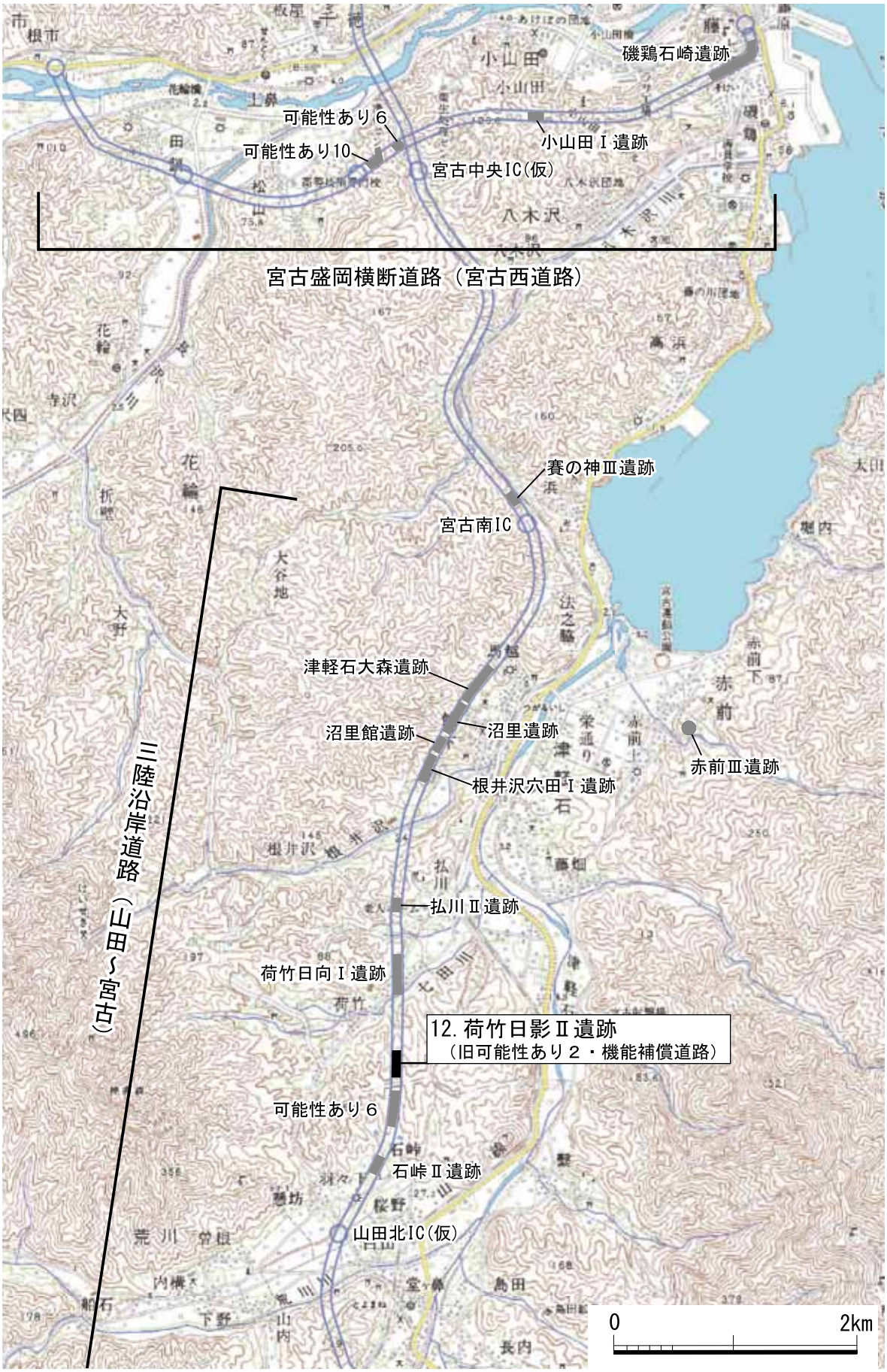
は掲載遺跡

三陸沿岸道路（普代～久慈）調査位置図



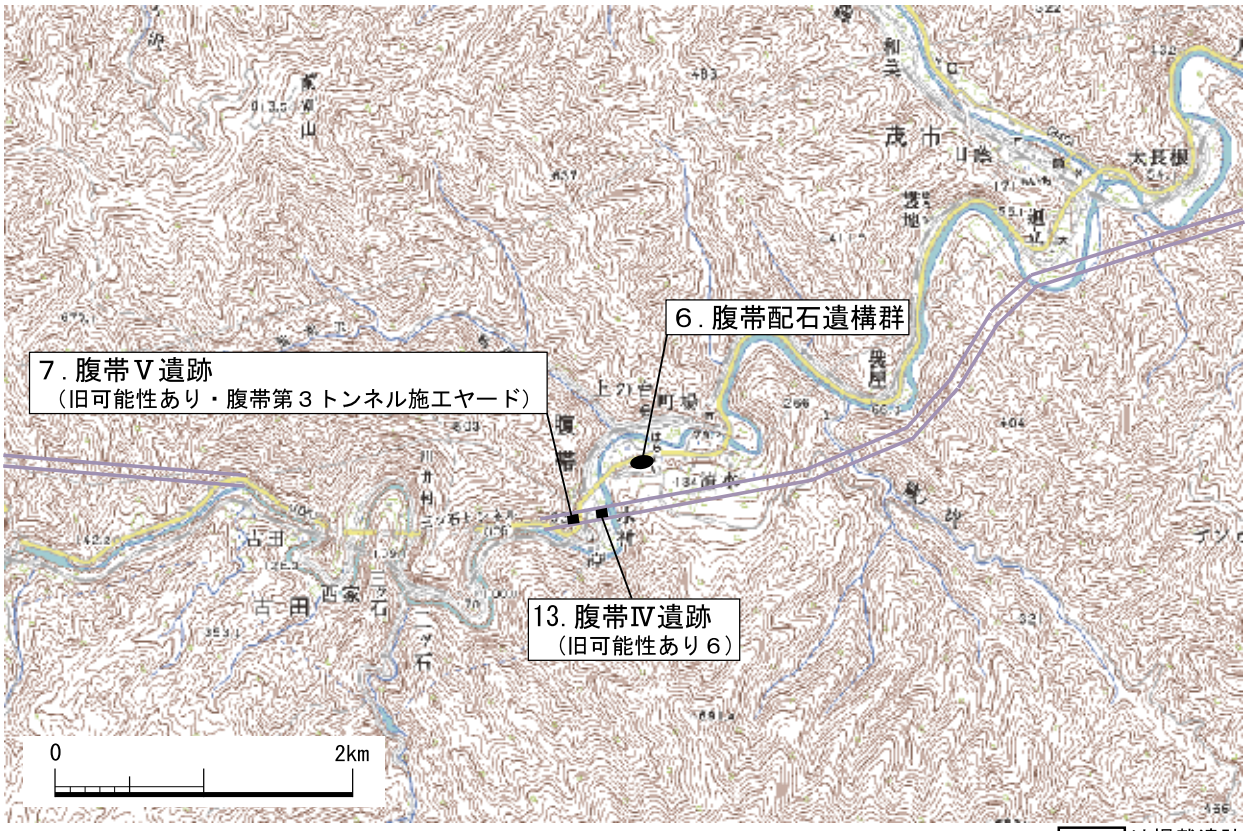
□は掲載遺跡

三陸沿岸道路（田老～岩泉・宮古～田老）調査位置図



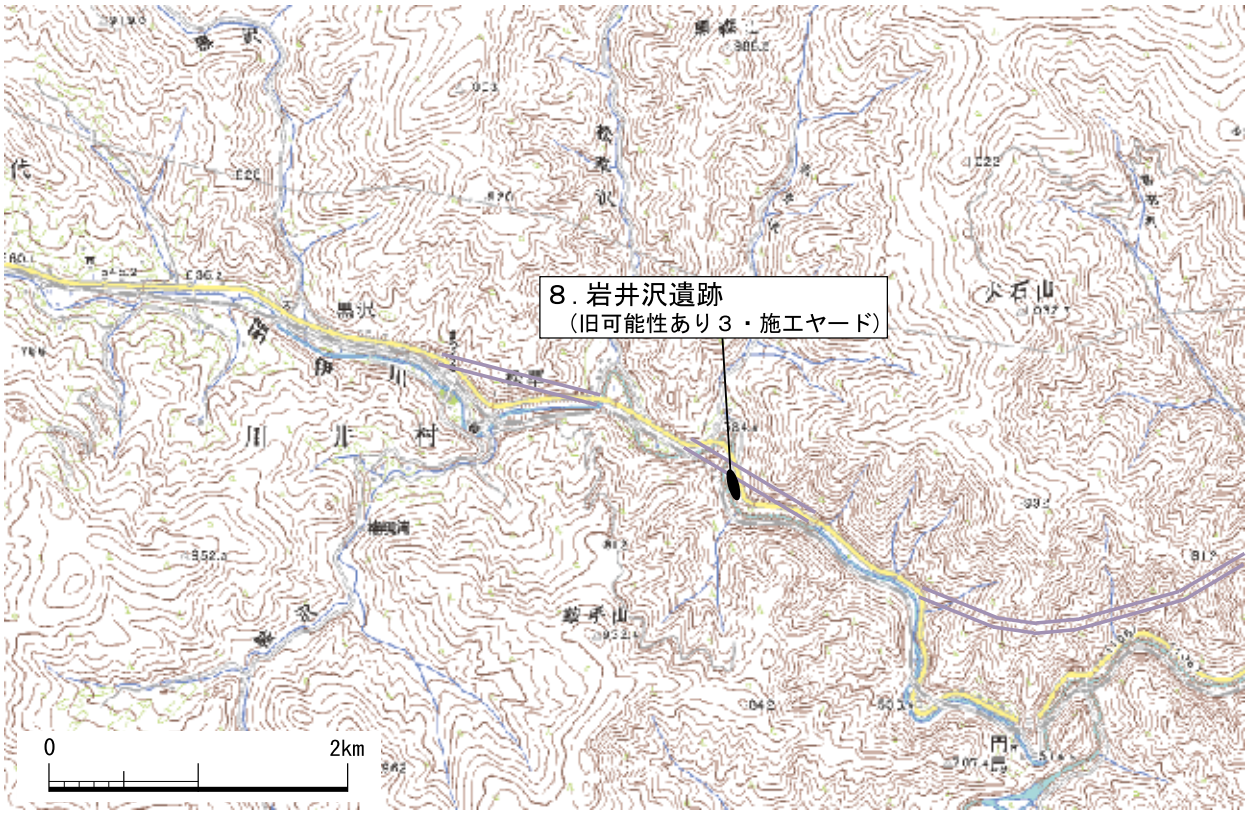
□は掲載遺跡

三陸沿岸道路（山田～宮古）・宮古盛岡横断道路（宮古西道路）調査位置図



□は掲載遺跡

宮古盛岡横断道路（宮古箱石道路）調査位置図



□は掲載遺跡

宮古盛岡横断道路（平津戸松草道路）調査位置図

試　掘　調　査

１　三陸沿岸道路（階上～侍浜）

南川尻（みなみかわしり）遺跡

（IF48-1179：新規発見 旧可能性あり９）

【所 在 地】　九戸郡洋野町種市第28地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成28年３月10日（木）

【調査結果】　調査地はＪＲ八戸線種市駅から北西に約1.5㎞、国道45号から延びる町道川尻・柳沢線と川尻川に挟まれた舌状の丘陵上部に位置しており、現況は山林である。今回の調査地は、平成26年９月４日～10月30日に（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した発掘調査により、縄文時代後期の竪穴住居跡２棟、土坑５基、焼土１基、陥し穴状土坑11基が検出された区域の南側隣接地である。合計12箇所のトレンチ（Ｔ１～12）を設定し、未伐採地内のＴ１～３は人力で、Ｔ４～12は重機で表土を掘削した後、人力で精査を行った。

南川尻遺跡 位置図

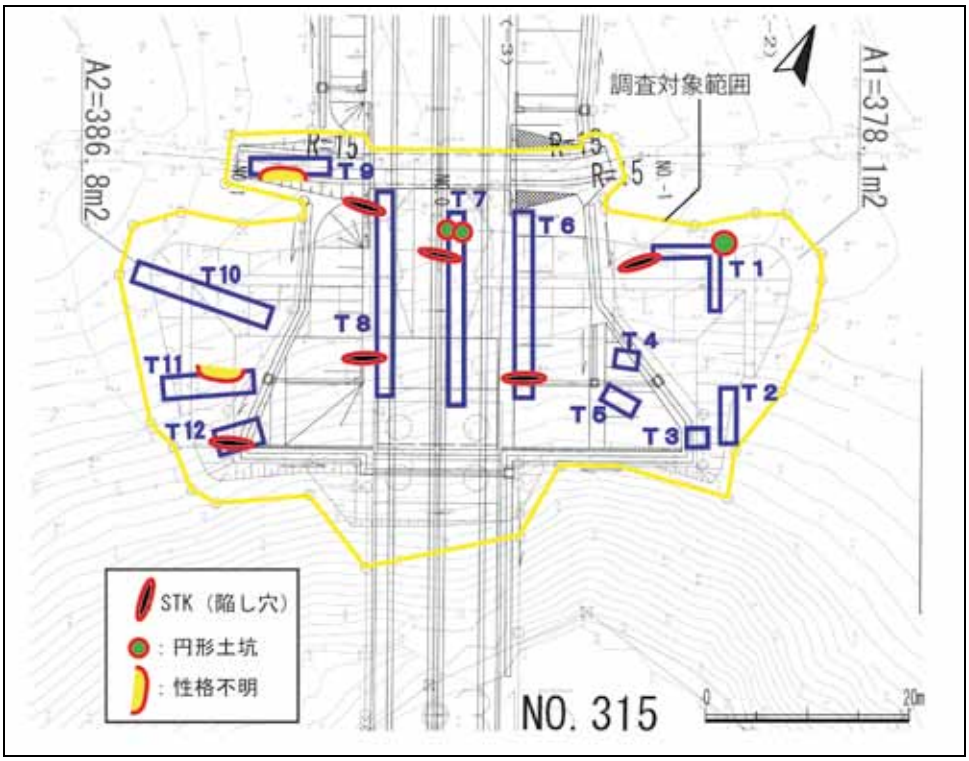
基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層	暗茶褐色腐植土	層厚５～10㎝
Ⅱ層	暗灰色黒ボク質土	層厚20～35㎝
Ⅲ層	暗灰褐色土・黄茶色土混合	層厚20～50㎝
Ⅳ層	黄茶～暗黄茶色土	層厚不明（黄褐色土火山灰粒が混合）

遺構検出にあたっては、本来は基本層序Ⅲ層の上面ではあるが、遺構埋土との判別が難しくⅣ層上面で検出した。調査の結果、Ｔ１・７において直径1.2m前後の円形土坑３基、Ｔ１、Ｔ６～８、Ｔ12において計６基の平面が長楕円形となる陥し穴状土坑を検出した。陥し穴状土坑は、長軸を等高線に沿った形での配列が特徴的である。ほかに調査対象地の西端にあたるＴ９・11では、楕円形状の性格不明大型プラン２基を検出している。

今回の調査では遺物は出土していないが、平成26年度の調査結果と同様に縄文時代後期の遺構である可能性が高い。また、円形土坑と陥し穴状土坑の埋土が異なることから、２時期の遺構が存在すると考えられる。

なお、調査範囲の南端から東側にかけての急傾斜地については、既にかなり崩壊していることから、遺構が残存している可能性は低く、要発掘調査範囲からは除くこととした。（小竹森）



南川尻遺跡　トレンチ位置図

調査地遠景（サンニヤⅠ遺跡から）

Ｔ７　円形土坑

Ｔ１　陥し穴状土坑

Ｔ７　陥し穴状土坑

２　三陸沿岸道路（階上～侍浜）

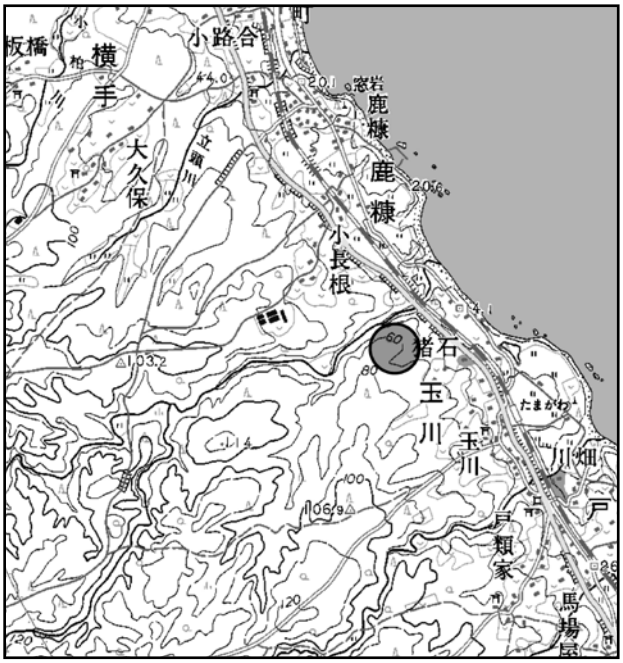
北玉川遺跡（IF59-2021：旧可能性あり21）

【所 在 地】　九戸郡洋野町種市第14地割
　　北玉川地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成27年６月24日（水）
　　～25日（木）

【調査結果】　調査地は、洋野町役場から南に約2.7km離れた地点に位置し、和座川等の河川及び小規模の沢によって浸食された舌状の丘陵緩斜面地上にあり、標高は約60～70mである。



北玉川遺跡 位置図

調査地付近に周知の埋蔵文化財包蔵地は所在しないものの、少し離れた同様な地形上に遺跡が散在している。

試掘トレンチは30箇所（Ｔ１～30）設定し、重機により遺構や遺物の有無を確認しながら掘り下げを行った。

当該地の基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　黒褐色土　層厚10～20cm（表土）

Ⅱ層　黒褐色土　層厚20～70cm（粘土質シルト層・遺構掘込み面）

Ⅲ層　暗褐色土　層厚20～30cm（粘土質シルト層・南側谷部で上位に南部浮石層）

Ⅳ層　黄褐色土　層厚不明（粘土質シルト層・遺構検出面）

調査範囲は広いものの、おおよそ堆積層は同一の様相を呈していた。遺構の検出はⅣ層上面で行い、調査区全域の６箇所のトレンチで遺構と考えられる黒褐色土の落込みが確認され、３箇所のトレンチで遺物が出土した。Ｔ109・111はⅢ層上面で遺構が検出されたため、今回検出された遺構の本来の検出面はⅢ層であると考えられる。

出土した遺物は縄文時代のものであるため、事業地内及び周辺に同時代の埋蔵文化財が包蔵されている可能性が高い。（半澤・高橋）

北玉川遺跡　トレンチ位置図

調査区全景（南から）

Ｔ７　土坑検出状況

Ｔ12　柱穴検出状況

Ｔ111　土坑検出状況

Ｔ４　遺物出土状況

Ｔ５　遺物出土状況

出土遺物１

出土遺物２

３　一般国道45号改良（種市登坂車線）

八森（はちもり）遺跡（IF89-0314）

【所 在 地】　九戸郡洋野町有家第３地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成27年８月25日（火）
　　～26日（水）

八森遺跡 位置図

【調査結果】　調査地は、ＪＲ八戸線有家駅の西南西約１㎞、丘陵地および東側に緩やかに傾斜する谷底平野および氾濫平野に位置し、現況は山林・原野および道路法面である。調査対象地は、縄文時代の遺物散布地である八森遺跡の西縁辺部から北側隣接地にあたり、北からＡ区～Ｃ区とし、今回はＡ区に12箇所（ＡＴ１～12）、Ｃ区に４箇所（ＣＴ１～４）の計16箇所のトレンチを設定して調査を実施した。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　腐植土および黒ボク土　　層厚20～140㎝（表土および黒ボク土）

Ⅱ層　黒ボク・南部軽石混合土　層厚15～50㎝（混入程度により３層に細分）

Ⅲ層　暗茶灰色粘質土　　層厚 20㎝～（遺構検出面１）

Ⅳ層　黄茶色土　　層厚不明（地山・最終検出面）

Ａ区の丘陵南側（ＡＴ１～６）では、十和田南部軽石を含む二次堆積層直下の地山層において、焼土遺構･ピットを検出した。現況では急斜面であるが、Ⅱ層黒色土が厚く堆積し検出面は平坦面である。遺物は上層で磨石が１点のみ出土し、縄文時代の住居跡などの遺構が検出される可能性がある。丘陵上および北側斜面地（ＡＴ７～10）には、郭状の平坦地が見られたが、斜面崩落および森林管理に伴う地形改変であると判断した。また北端の平坦地は、花崗岩起源の細礫層（マサ土）を中心とした混合土が厚く堆積し、谷を埋めた地形であることが判明した。

Ｃ区は、西側上流の渓流周辺から崩落し流出したと考えられる、一辺１ｍ以上の巨石をかなり多く含む堆積であり、遺物が流入する可能性は考えられるものの、遺構が存在する可能性は極めて低いと判断した。

以上の結果から、密度は薄いものの遺構が存在することを確認した、旧渓流と北側丘陵裾部の間の緩斜面地（トレンチ位置図黄色部分）については、本調査が必要と判断される。（鳥居・小竹森）

八森遺跡　トレンチ位置図

ＡＴ４　焼土・ピット検出状況

Ａ区　南側全景（遺構検出区域）

Ｃ区　礫検出状況

４　三陸沿岸道路（普代～久慈）

芦ケ沢Ⅱ遺跡

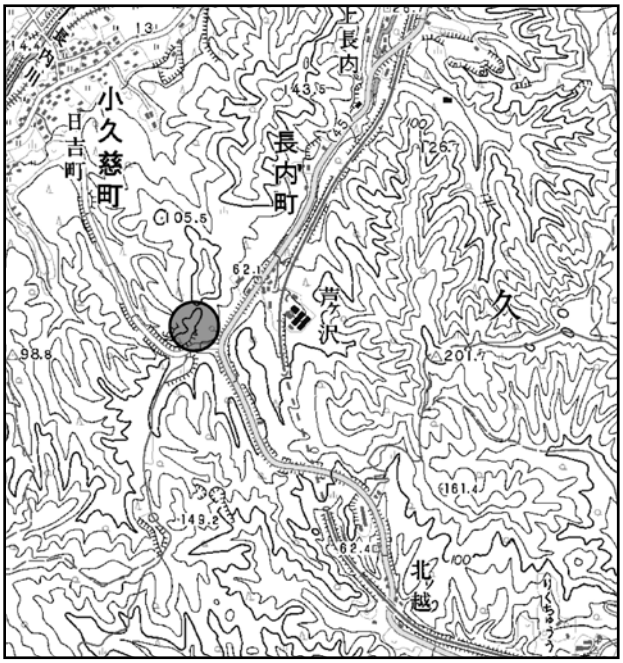
（JF49-1304：新規発見 旧可能性あり29）

【所 在 地】　久慈市長内町第17地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成27年10月20日（火）
　　～21日（水）・12月３日（木）

【調査結果】　調査地は、久慈市役所の南西約4.6㎞に位置し、国道45号の西側に面した標高約75ｍの丘陵地及び起伏のある小規模な東向きの緩斜面地である。調査区の東側には、一部に平坦面も存在し、市道を挟んだ南側で芦ケ沢Ⅰ遺跡（JF49-1313：旧可能性あり29）と隣接しており、現況は山林である。



芦ケ沢Ⅱ遺跡 位置図

対象地にトレンチを15箇所設定し、重機及び人力による掘削によって調査を行った。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　暗褐色土　　層厚10～20㎝（表土）

Ⅱ層　明灰褐色土　層厚10～20㎝

Ⅲ層　暗褐色土　　層厚20～40㎝（重機撹乱土）

Ⅳ層　淡黄灰色土　層厚20㎝～（遺構検出面）

Ⅴ層　灰褐色土　　層厚不明（基盤層・地山）

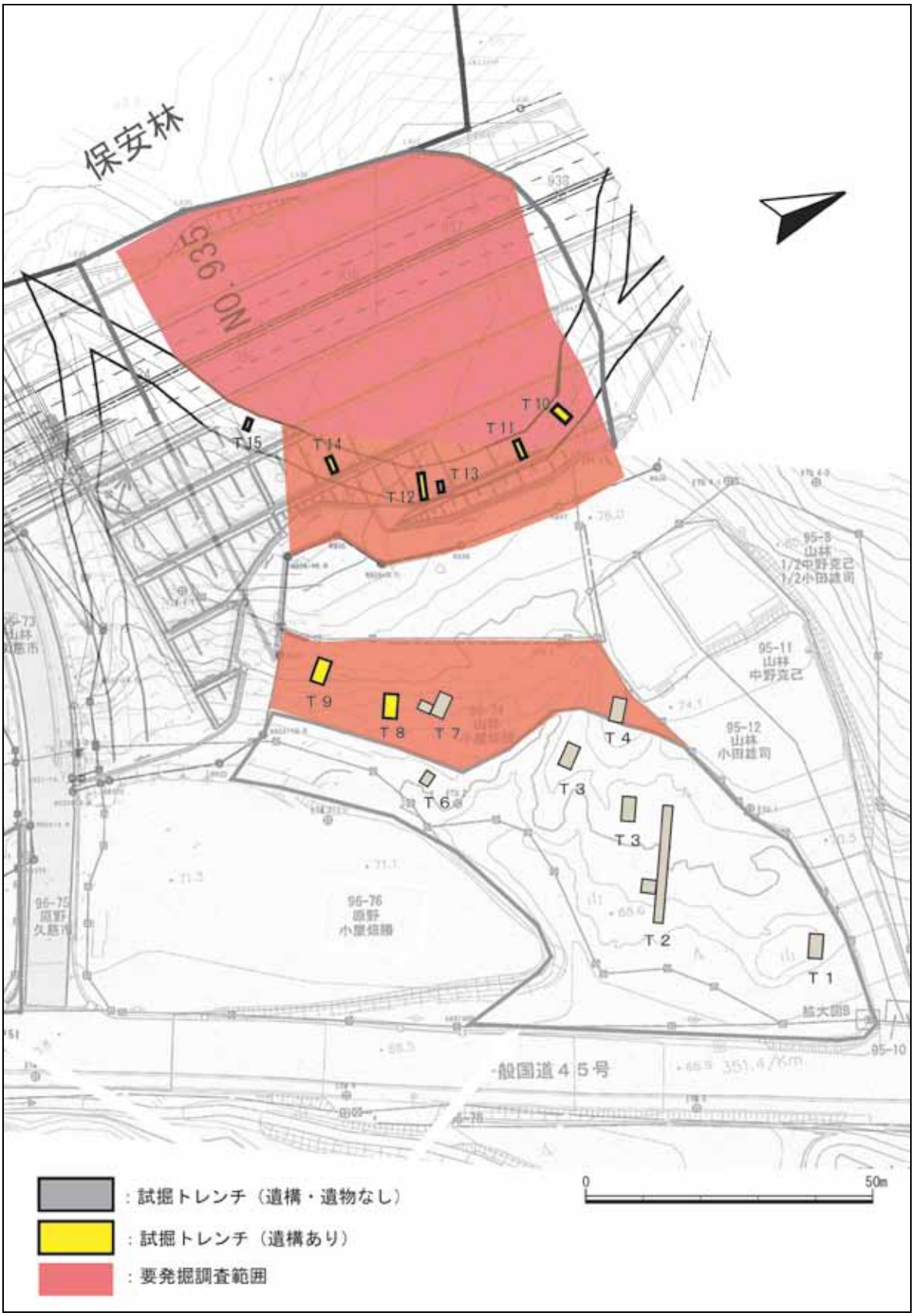
調査の結果、Ｔ１～５では、箇所によって層の様相や厚さの違いが大きく、基盤層付近では重機による掘削痕が見られたため、過去に造成の影響等を受けたものと考えられる。遺構・遺物は確認されなかった。

Ｔ８・９では、斜面地に設定したトレンチで、縄文時代のものと考えられる陥し穴状土坑を２基検出した。いずれも深さ約0.4ｍの位置で検出され、大きさは幅約0.3ｍ、長さ約0.8ｍである。

また、土坑埋土上部から石器素材となる硬質頁岩が出土した。

舌状丘陵地の斜面に設定したＴ10・11、Ｔ14において、比較的長い軸を持つ陥し穴状土坑と考えられる遺構を５基検出した。また、Ｔ12･13では、住居跡の可能性が考えられる竪穴状遺構を検出した。遺物が出土していないため時代の特定はできないが、芦ケ沢Ⅰ遺跡の隣接地でもあることから、遺構ないし包含層が存在する可能性がある。

なお、Ｔ15より南側については、既存林道の造成による改変や沢の浸食が著しく、旧地形は残存していないと判断した。（長屋敷・小竹森）



芦ケ沢Ⅱ遺跡　トレンチ位置図

調査前風景

調査前風景

Ｔ５　土層堆積状況

Ｔ８　陥し穴状土坑

Ｔ９　陥し穴状土坑

Ｔ10　陥し穴状土坑

Ｔ12　竪穴状遺構

Ｔ14　陥し穴状土坑

５　三陸沿岸道路（田老～岩泉南）

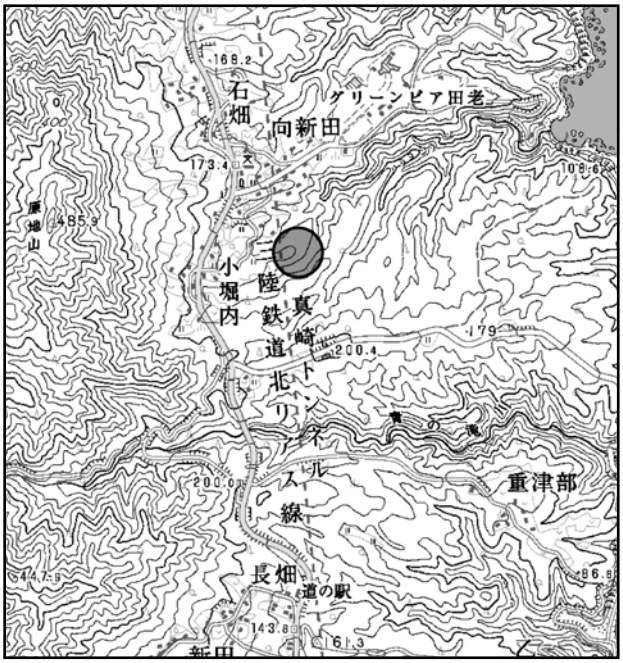
向新田（むかいしんでん）XX遺跡

（KG74-2172：新規発見 旧可能性あり・レベルバンク）

【所 在 地】　宮古市田老向新田地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成27年11月16日（月）
　　～17日（火）



向新田XX遺跡 位置図

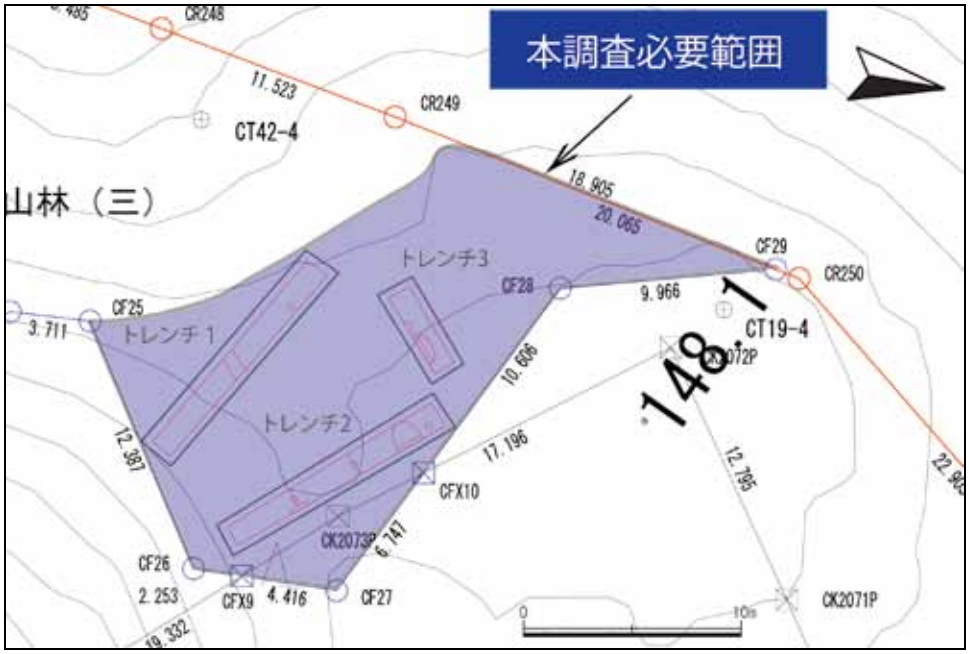
【調査結果】　調査地は、宮古市田老総合事務所から北北西約５kmに位置し、小堀内川の右岸・標高150m前後の丘陵上に立地する。調査地から西に70m離れた小堀内川対岸の丘陵上には向新田Ⅱ遺跡（KG74-2069：縄文時代後期）がある。当該地は、本線に隣接する窪地を埋めて平坦化（レベルバンク）するために計画された箇所で、３箇所のトレンチを設定し調査を行った。

遺跡の基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　黒色土　　層厚15～25cm（表土）

Ⅱ層　明褐色土　層厚20cm（漸移層だが黒色土少ない）

Ⅲ層　黄褐色土　層厚不明（地山・砂質）



向新田XX遺跡　トレンチ位置図

調査の結果、全てのトレンチで土坑・柱穴を検出した。それぞれの遺構の規模は、土坑が直径約1.5m、柱穴が直径約0.3mであった。

また、２箇所のトレンチ（Ｔ２・３）で、柱穴から１点ずつ遺物（縄文土器）が出土した。

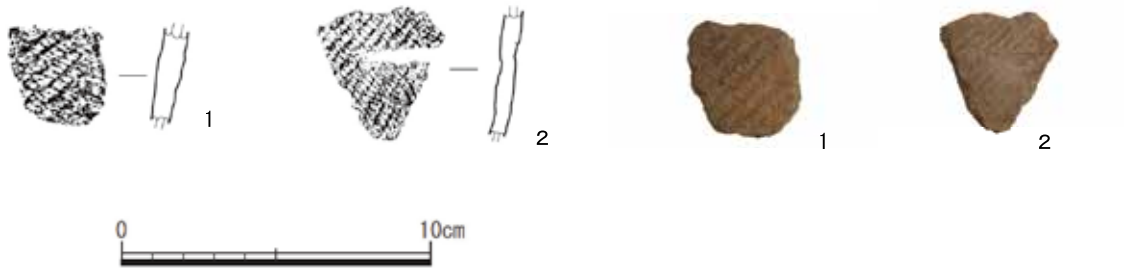
以上のことから、包含層は削平されており、遺物は遺構内（埋土は黒褐色土）にしか遺存していないものの、当該事業地に係る緩斜面地の約220㎡については縄文時代の遺跡が展開する可能性が高く、本調査が必要と判断される。（上床）

Ｔ１　調査状況（南から）

Ｔ１　掘り下げ状況（西から）

Ｔ２　柱穴内土器出土状況（南から）

Ｔ３　掘り下げ状況（南から）



出土遺物・写真

６　宮古盛岡横断道路（宮古～箱石）

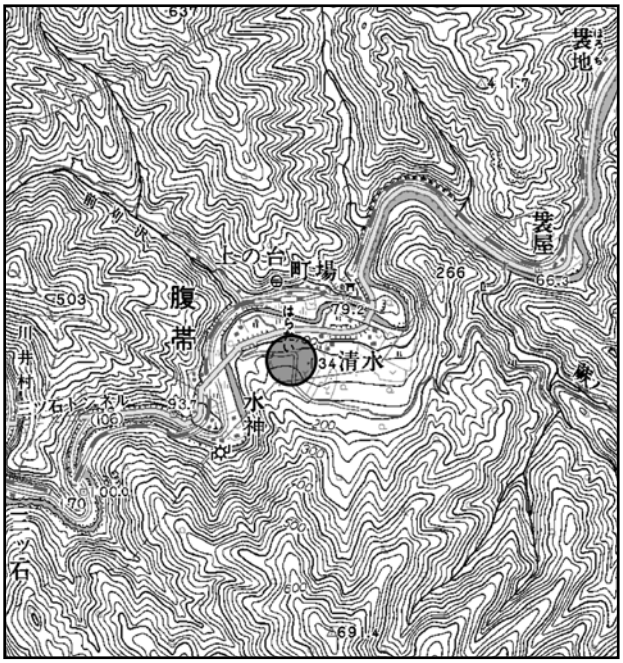
腹帯配石遺構群（LG40-1094）

【所 在 地】　宮古市腹帯第４地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成27年４月16日（木）
　　・６月16日（火）

【調査結果】　調査地はＪＲ山田線腹帯駅の南南西約0.2㎞、閉伊川右岸の河岸段丘面上に立地し、標高は約93～94ｍである。調査対象地は、宮古市指定史跡である腹帯配石遺構群の国道106号をはさんだ南側（当該調査地は史跡範囲外）で、国道に沿った延長約180ｍ区間と、隣接した工事状況表示板設置予定地の約240㎡である。



腹帯配石遺構群 位置図

調査は４月に西側地区で３箇所（Ｔ１～３）、６月に東側地区と表示板設置予定地の合わせて13箇所（Ｔ11～23）において実施した。

基本層序は以下の通りである。

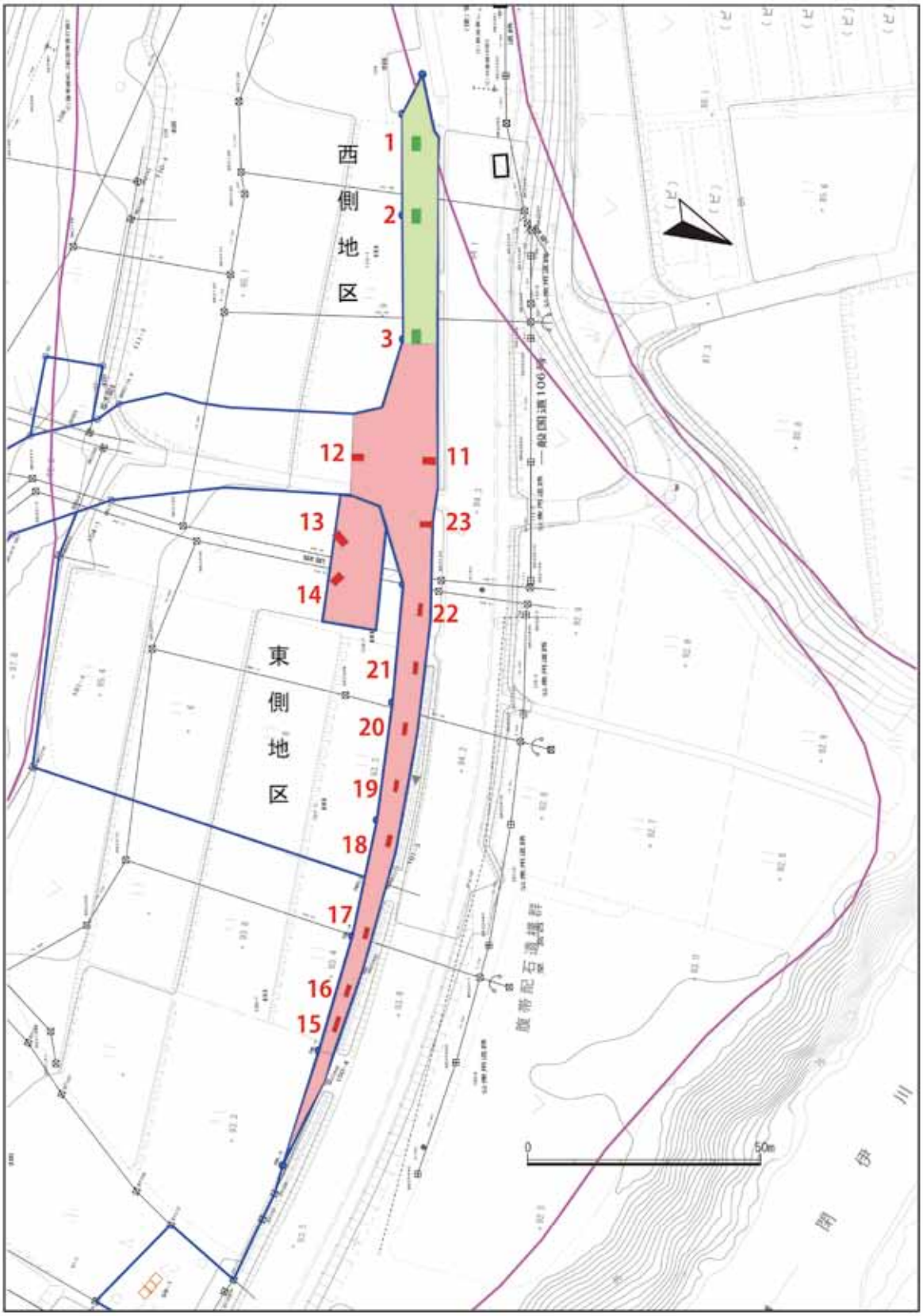
Ⅰ層　褐色土　　層厚10～20cm（砂質シルト層・表土層）
Ⅱ層　灰黄褐色土　層厚30～40cm（粘土質シルト層・水田耕作土）
Ⅲ層　褐色土　　層厚30～40cm（粘土質シルト層・整地土：Ｔ３のみ）
Ⅳ層　黒褐色土　　層厚20～30cm（粘土質シルト層・耕作土）
Ⅴ層　暗褐色土　　層厚30cm以上（粘土質シルト層・遺物包含層：東側地区）
Ⅵ層　褐色土　　層厚不明（粘土質シルト層・遺構検出面）

調査の結果、中央の車両進入路予定地から西側の地区Ｔ１・２ において縄文土器の小破片が出土したものの、遺構は存在しなかった。ただし、西側の地区をさらに広く掘削する場合は、遺構が存在する可能性が考えられる。

一方の東側地区では、Ｔ 12 において土坑を検出したほか、全体に遺物包含層が厚く存在し、縄文時代中期中頃を中心とした土器や石器が出土した。東側の地区は、包含層から遺物が多く出土している。過去の開田時に厚く盛土が行われており、遺構が残されている可能性が高い。

工事用表示板の設置予定地では、Ｔ 13 で土坑、Ｔ 14 では柱穴を検出し、大形の縄文土器深鉢が平面的に潰れた状態で出土した。出土状況からトレンチで判明した遺構は、竪穴住居跡である可能性が考えられる。

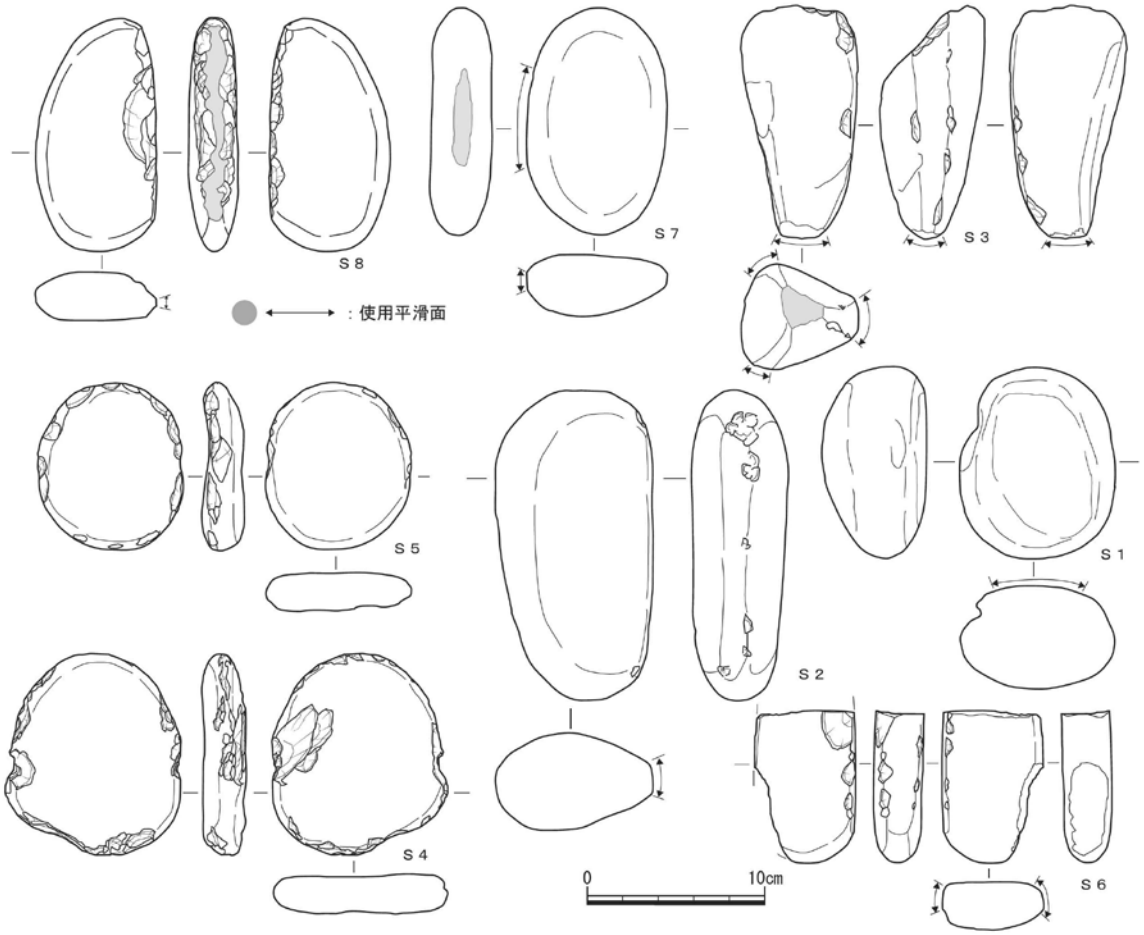
なお、東側のＴ 15～23 は国道に平行して水道管が敷設され、撹乱を受けていた。



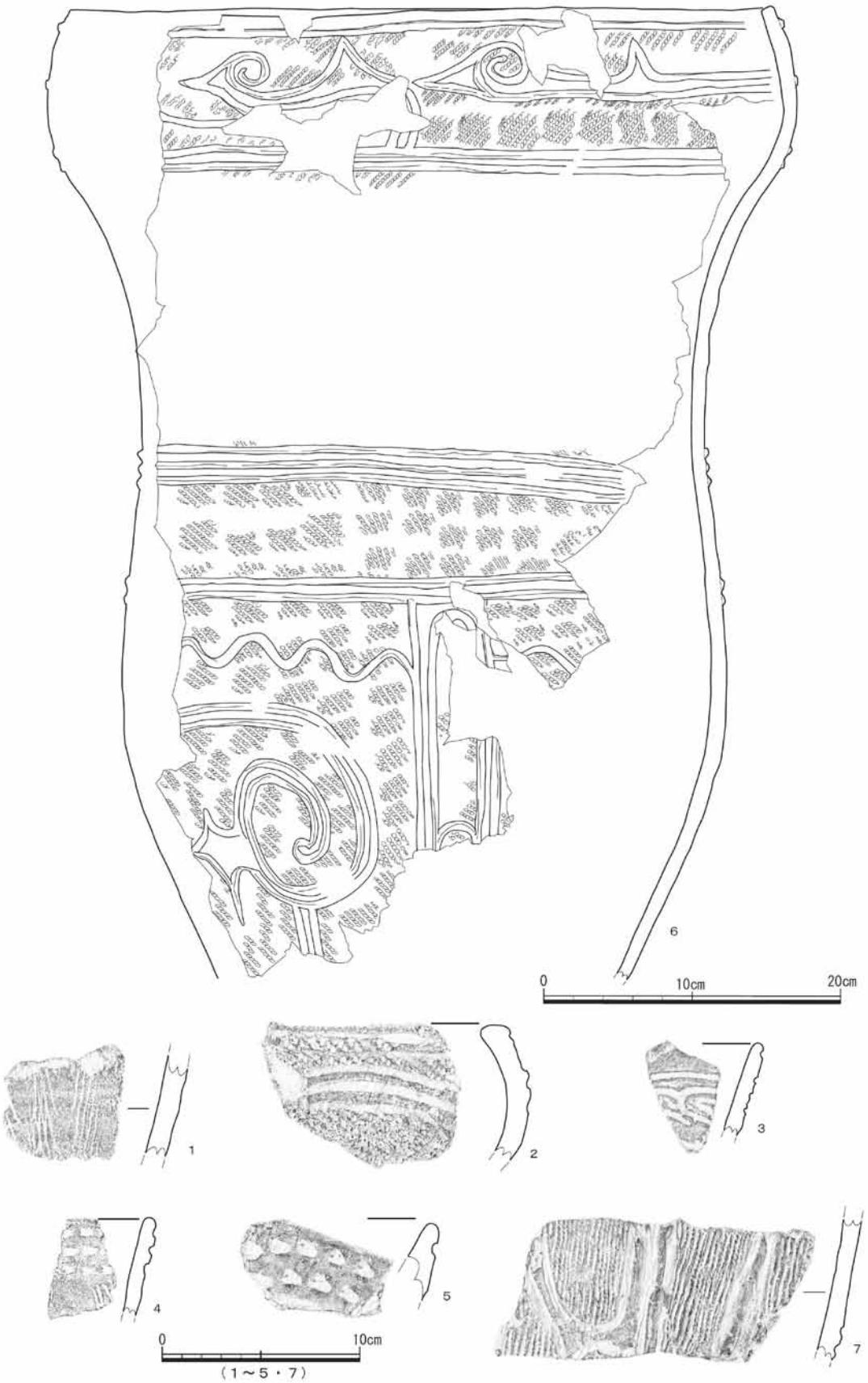
腹帯配石遺構群　トレンチ位置図

出土した遺物については主要なもののみ掲載する。Ｔ11から出土した№１やＴ12から出土した№４・５は、木目状撚糸文や折り返し口縁で竹管文を施文することから、大木７式に位置付けられる。Ｔ11から出土した№２は内弯する深鉢の口縁、Ｔ23から出土した№７は胴部の破片であり、いずれも地文の縄文を隆沈線で区画する。Ｔ14から出土した№６は大形のキャリパー形深鉢で、底部を欠くが高さ65.5cmを測る。口縁部文様帯は隆沈線による有棘渦巻文が連結して施され、幅広い無文帯を挟んで体部文様帯は懸垂文と波状文と、大形の有棘渦巻文で構成されている。以上№２・６・７は大木８ｂの特徴を持つ。Ｔ11から出土した№３は、中期から後期初頭に位置付けられる。Ｔ12から出土した磨石Ｓ１は、広い平面を使用している。Ｔ13から出土したＳ２とＴ23から出土したＳ７・８は側面磨石で、扁平な石の狭い一面を使用している。Ｔ22から出土したＳ６は側面磨石で、扁平な石の狭い二面を使用している。Ｔ13から出土した特殊磨石Ｓ３は、断面三角形の三頂辺を使用している。Ｔ12から出土した石錘Ｓ４とＴ14から出土した石錘Ｓ５は、扁平な石の縁辺を丸く加工している。

今回の試掘により今まで不明であった、腹帯配石遺構群の構成要素である居住域部分が明らかになったことは大きな成果である。出土土器から大木８ｂ式を中心に、大木７式から後期初頭までの存続時期が想定できる。（篠宮・小竹森）



出土遺物１



出土遺物２

調査地遠景

Ｔ13　全景

Ｔ12　全景

Ｔ14　全景

Ｔ14　遺物出土状況

Ｔ14　遺物取り上げ後の状況

出土遺物

７　宮古盛岡横断道路（宮古～箱石）

腹帯（はらたい）Ｖ遺跡

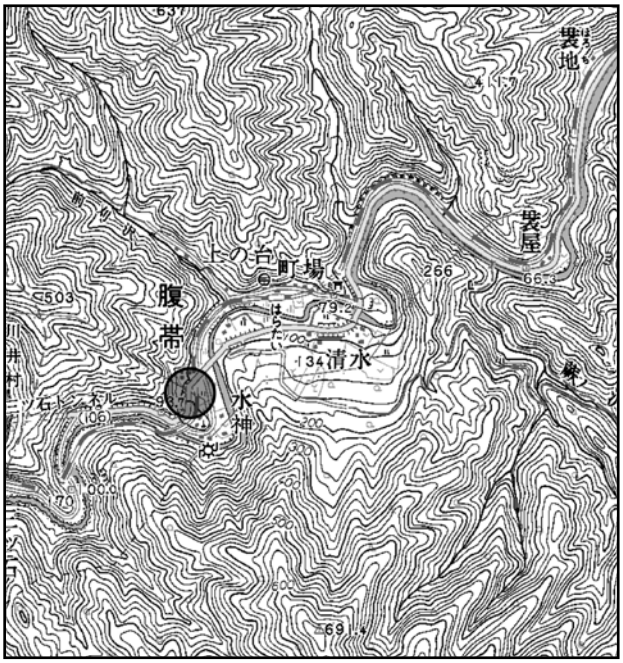
（LG49-2349：旧可能性あり・施工ヤード）

【所 在 地】　宮古市腹帯第３地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成27年11月10日（火）
　　～11日（水）

【調査結果】　調査地はＪＲ山田線腹帯駅の南南西約0.5㎞に所在し、閉伊川の左岸、標高100ｍ前後の丘陵上に立地する。調査地から南東へ350ｍ離れた場所に腹帯Ⅲ遺跡（LG40-1099）、北東へ約400ｍ離れた閉伊川の対岸には腹帯Ⅰ遺跡（LG40-1092）がある。



腹帯Ｖ遺跡 位置図

今回の調査では、７箇所のトレンチ（Ｔ１～７）を設定して調査を行った。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　黒褐色土　　層厚20～30㎝（表土及び耕作土）

Ⅱ層　黒色土　　層厚10～30㎝

Ⅲ層　明黄褐色土　層厚不明（地山・遺構検出面）

調査の結果、Ｔ１で竪穴住居跡と思われる遺構や土坑を検出した。出土遺物がないため明確な帰属時期は判然としないが、周辺の調査事例から縄文時代の可能性が高い。このエリアについては遺跡が残存している可能性が高く、本調査が必要と判断される。

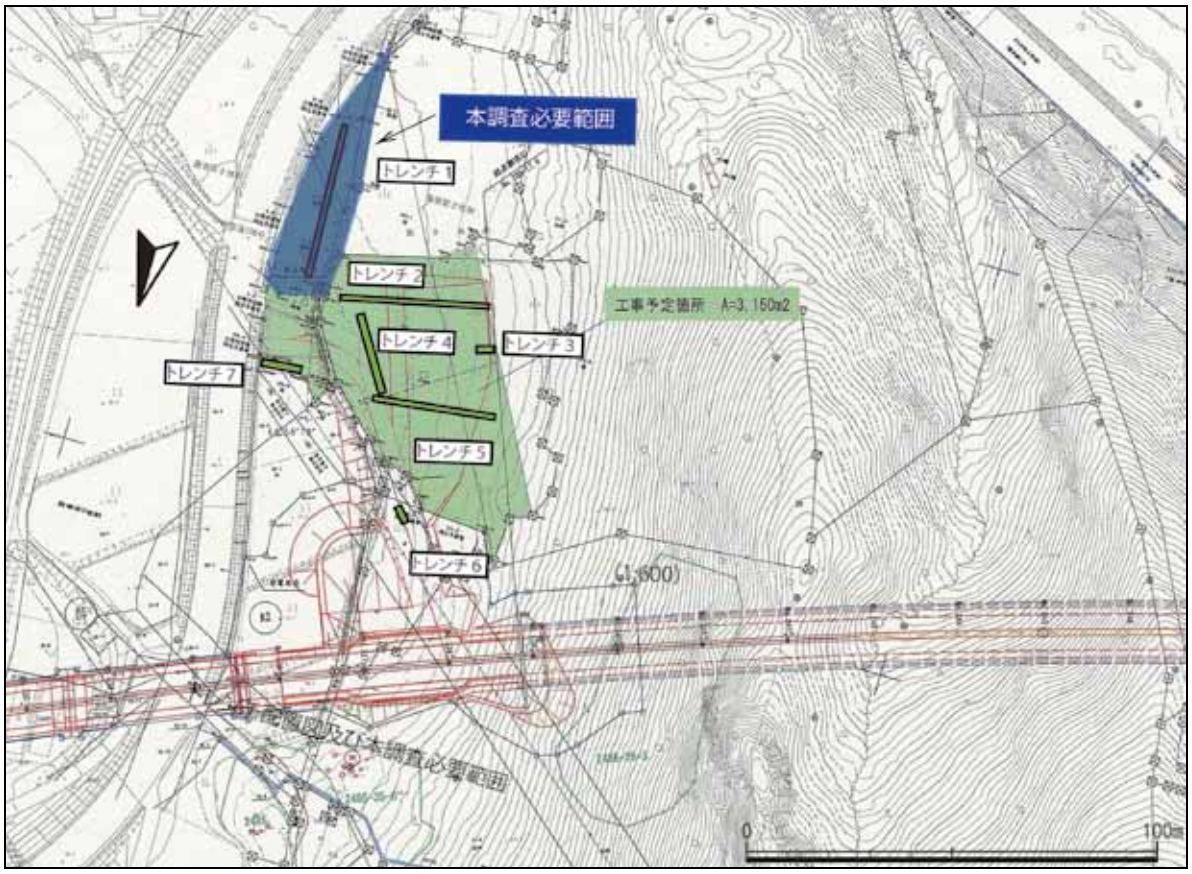
一方、Ｔ２～７では遺構・遺物は確認されず、傾斜した地形上にあることが理由と考えられる。またＴ７の部分は、水田を形成するための整地によって削平されていることを確認した。（上床）

Ｔ１　掘削状況

Ｔ１　遺構確認状況

Ｔ１　配石確認状況

Ｔ１　集石確認状況



腹帯Ｖ遺跡　トレンチ位置図

８　宮古盛岡横断道路（平津戸～松草）

岩井沢遺跡

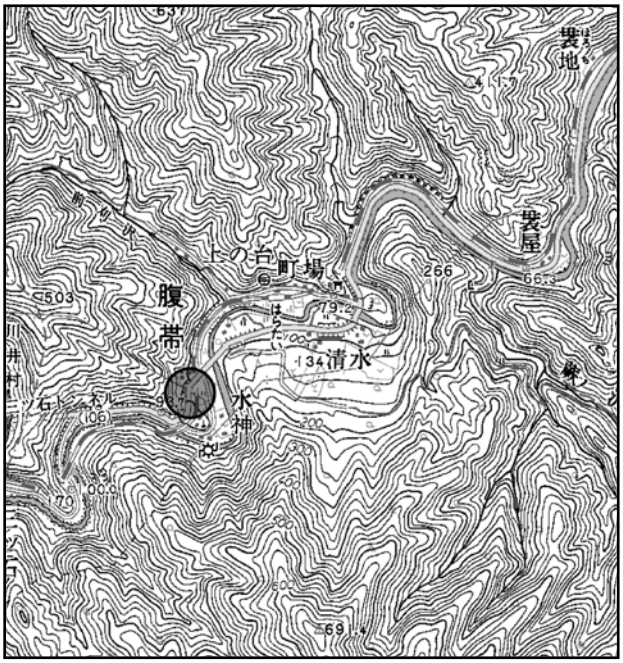
（LF33-2221：新規発見 旧可能性あり３）

【所 在 地】　宮古市門馬地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成27年11月12日（木）
　　～13日（金）

【調査結果】　調査地はＪＲ山田線松草駅の東南東約2.1kmに位置し、閉伊川の侵食作用により形成された狭い谷部の自然堤防上に立地する。現状は山林であるが、一部畑地として開墾されている。



岩井沢遺跡 位置図

調査は、本線部分を除く対象範囲内に計23箇所のトレンチ（Ａ～Ｗ）を設定し、重機による掘り下げを行ったあと、人力による精査を行った。

基本層序は以下の通りである。

Ⅰ層　表土　　層厚20～50cm

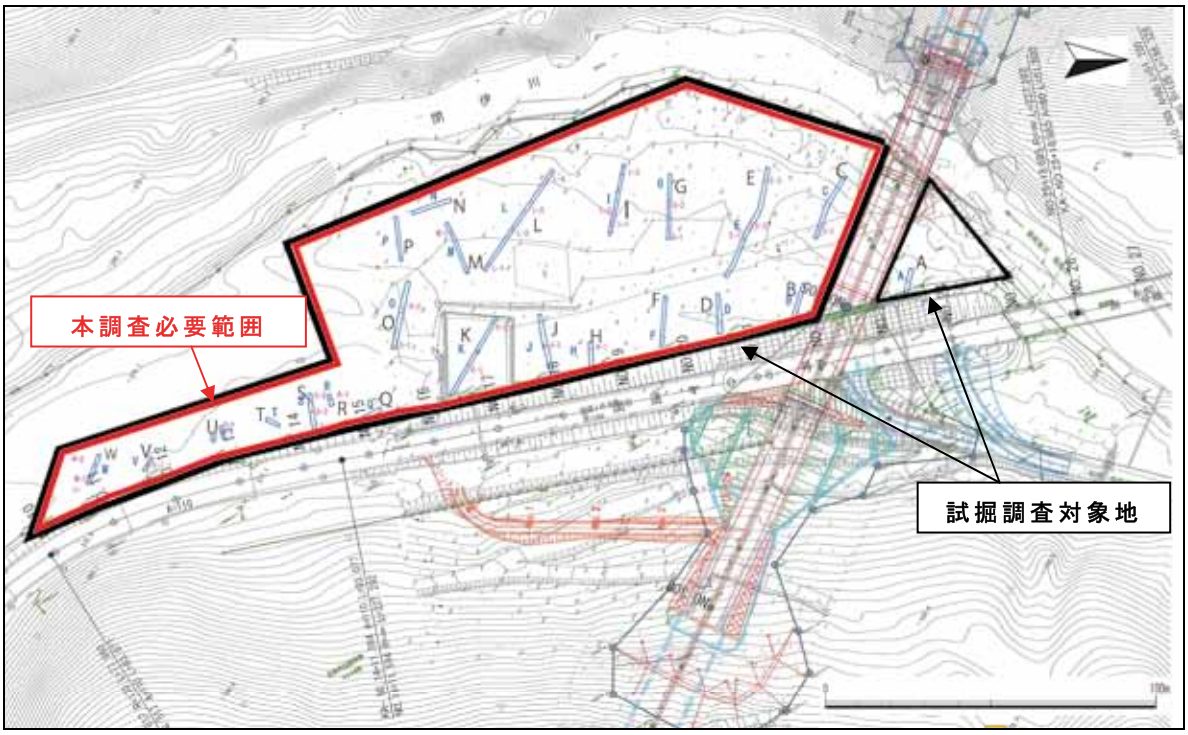
Ⅱ層　黒褐色土　層厚０～10cm

Ⅲ層　暗褐色土　層厚０～10cm

Ⅳ層　黄褐色土　層厚不明（遺構検出面・地山）

遺構は本線より南側で確認され、竪穴住居跡と考えられる遺構１基、土坑10基、柱穴１基、谷状遺構１条、溝状遺構１条を確認した。中でも谷状遺構は、北東から南西に向かって形成されており、最終的に閉伊川に接していると考えられる。幅は17m、深さ２m、長さ60m以上で、埋土中に十和田中掫火山灰が厚く堆積していた。なお、同遺構内から遺物は出土しなかった。竪穴住居跡と思われる遺構の埋土内からは、縄文土器の底部（縄文時代後期・№３）１点が出土した。土坑や溝状遺構からは尖底土器を含む縄文土器（縄文時代早期中葉）２点（№１・２）、石器（打製石斧・№４）１点が出土した。いずれも黒褐色土内からの出土である。

出土遺物の№１は尖底土器で、縄文時代早期中葉の「寺の沢式土器」の型式である。口径は復元で13.2cm、器高は16.7cmで、Ｉトレンチから出土した。№２は深鉢の口縁部破片で、早期中葉の「物見台式土器」の型式である。口唇部にキザミ波状文を、外面には貝殻腹縁文と沈線が施されており、Ｇトレンチからの出土である。

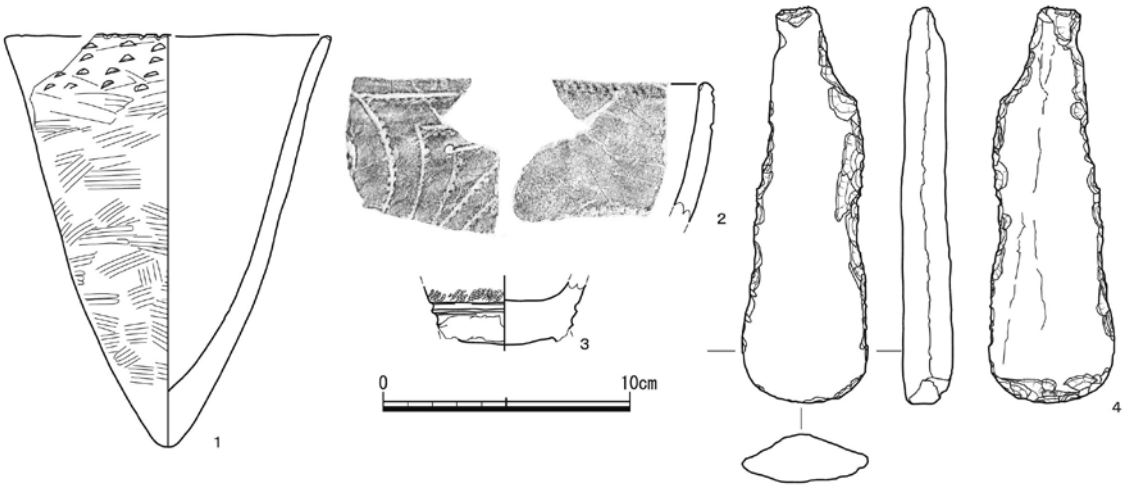


岩井沢遺跡　トレンチ位置図

№３は深鉢の底部破片で、Ｕトレンチ内で確認した住居跡と思われる遺構から出土した。№４は打製石斧で、長さ15cm、最大幅5.2cmを測り、Ｌトレンチ床面からの出土である。

調査の結果、調査面積から占める遺構密度は低いが、ほぼ全域で遺構が確認された。遺物量は僅かであるものの、当調査区のほぼ全域にわたって遺構・遺物が広がっている可能性が考えられる。

なお、本線部分から北側については、閉伊川の氾濫源であり遺構・遺物は確認されなかったため、本調査は不要と判断した。（友岡）



出土遺物

Ｇトレンチ掘り下げ状況（西から）

Ｔトレンチ土層堆積状況（北壁）

Ｓトレンチ遺構確認状況（南壁床面）

Ｉトレンチ遺物出土状況（南側床面）

出土遺物

本 発 掘 調 査

９　三陸沿岸道路（階上～侍浜）

サンニヤⅡ遺跡

（IF48-2231：新規発見 旧可能性あり・

２号工事用道路）

【所 在 地】　九戸郡洋野町種市第25地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局

三陸国道事務所

【調査期日】　平成27年11月24日（火）

～12月２日（水）

【調査面積】　150㎡

【調査結果】　調査地は、ＪＲ八戸線種市駅から西へ約１kmに位置し、標高50mの丘陵上に立地する。現況は山林・林道である。当該地については、岩手県教育委員会が平成26年10月20日より11月21日にかけて、約700㎡の範囲について本調査を実施し、縄文時代の陥し穴状土坑７基、古代の竪穴住居跡２棟、土坑２基を確認しており、今回の発掘調査は、平成26年度調査区域の南側で未調査のまま残存していた約150㎡が対象である。

サンニヤⅡ遺跡 位置図

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　表土

Ⅱ層　10YR2/1黒色土（しまり中・粘性弱・炭化物微量混入）

Ⅲ層　10YR2/2黒褐色土（しまり中・粘性弱）

10YR5/6黄褐色ローム粒（φ ２～５㎜少量～中量混入・遺構確認面）

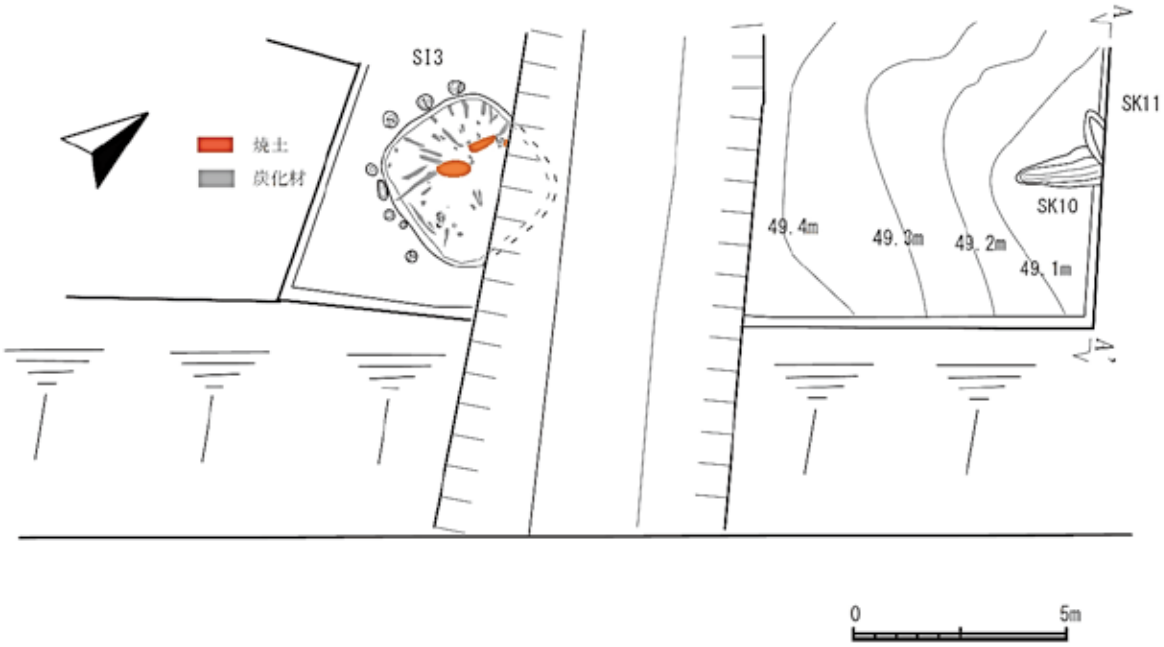
Ⅳ層　10YR3/4暗褐色～10YR4/2灰黄褐色ローム（しまり強・粘性中）

10YR4/4褐色～10YR5/6黄褐色ローム粒（φ ２～５㎜微量～多量混入）

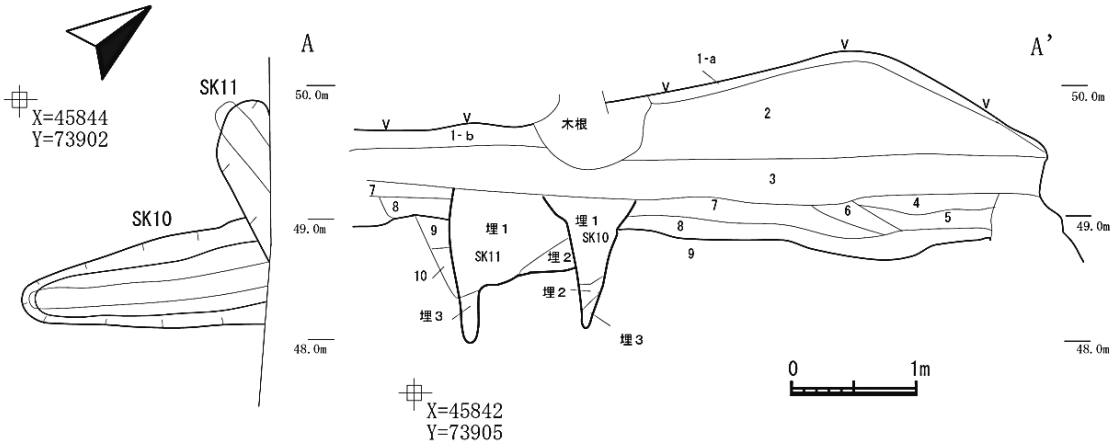
Ⅴ層　10YR6/6明黄褐色ローム（しまり強・粘性弱）

10YR5/6黄褐色ローム粒（φ ２～５㎜ロームブロック多量混入）

調査の結果、縄文時代の陥し穴状土坑２基（ＳＫ10・11）、古代の竪穴住居跡１棟（ＳＩ３）を検出した。重複して２基検出した陥し穴状土坑（ＳＫ10・11）は、縄文時代の遺構と考えられる。どちらも調査区外に延びており全体の形状は判明しない。埋土は上層に黒色土、中層に黄褐色土粒を含む黒色土の自然堆積で、壁の崩落土は確認できなかった。ＳＫ10は長軸188㎝、短軸は上端で最大52㎝、下端で17㎝を測る。深さは最大97㎝で、断面形はややオーバーハングし逆台形状になる。短軸方向の断面形は、上端でやや開き漏斗状になる。ＳＫ11は長軸77㎝、下端の短軸は20㎝、深さは98㎝を測る。長軸の断面形はＳＩ10と同様であるが、比較的垂直に近い形状を示す。短軸方向の断面形は明確ではない。断面観察から、ＳＫ10より新しい遺構と捉えた。２つの遺構の相違点は３点ほど挙げられる。



サンニヤⅡ遺跡　遺構配置図



1	a：黄褐色腐植質土	10YR5/8		SK10	
	b：黒褐色腐植土	10YR2/2	粘性あり　締まり弱い	埋土	1　黒色土・茶褐色粒をわずかに含む
			黄褐色土粒混じる	埋土	2　黒褐色土・黄褐色土混合
2	明黄褐色土	10YR6/8	締まりなし	埋土	3　暗茶褐色土・黒褐色土混合
3	黒色土	10YR2/1	締まりなし　黒ボク		
4	黒色土	10YR1.7/1	締まりなし　3層とほぼ同じ		
5	黒色土	10YR2/1	黄橙色土粒微細粒をわずかに含む	SK11	
6	黒色土	10YR2/1	黄橙色土1～5mm大の粒子を含む	埋土	1　黒色土
7	黒褐色土	10YR3/1	黄橙色土粒微細粒を含む	埋土	2　黒色土・黄褐色土混合
8	黒褐色土	10YR2/3	黄橙色土1～5mm大の粒子を多量に含む	埋土	3　黒褐色土
9	褐色土	10YR4/6	締まりあり		
10	明黄褐色土	10YR7/6	締まりあり　やや粘質　地山層		

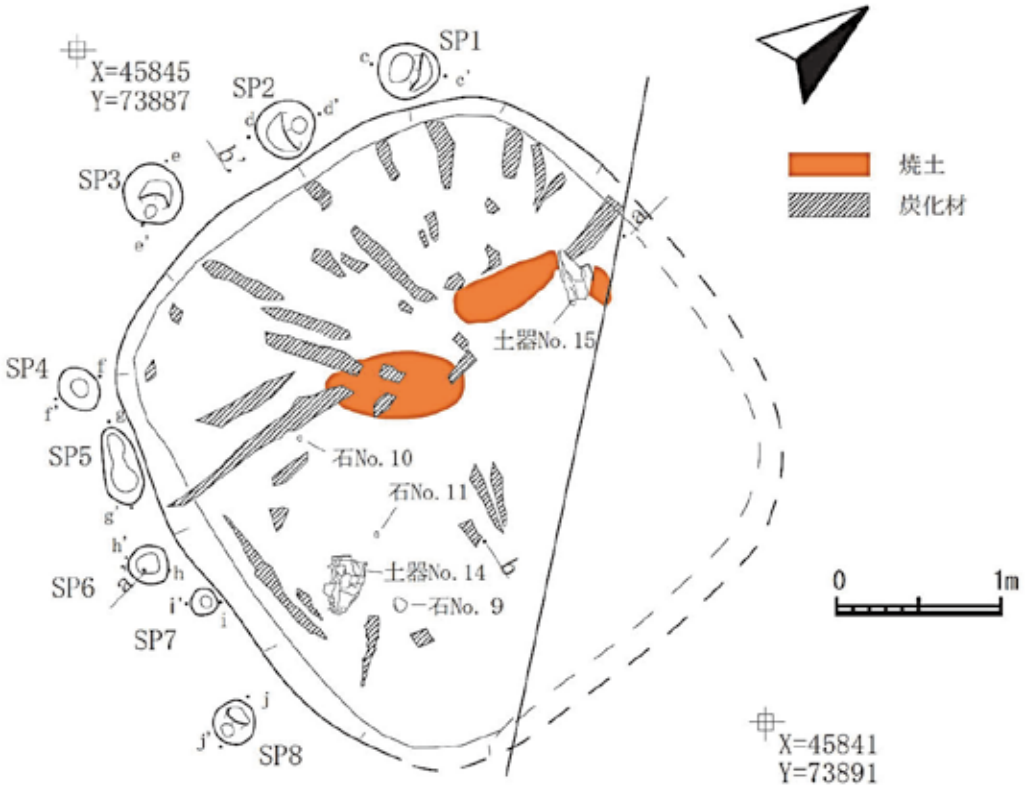
基本層序・ＳＫ10・11　遺構平面・断面図

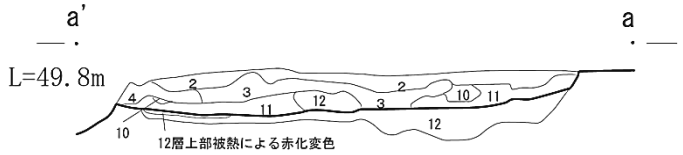
１点目は平面形で、ＳＫ10が上端の長軸方向の頂点が楕円形状であるのに対し、ＳＫ11はやや方形になること。２点目は位置で、ＳＫ10が等高線と垂直に交わり、ＳＫ11がやや平行に位置すること。３点目は埋土で、ＳＫ10は上層黒色土が厚く堆積し、ＳＫ11には黒色土に混じって黄褐色土粒（火山灰か）が顕著に観察できることである。いずれからも遺物は出土していない。

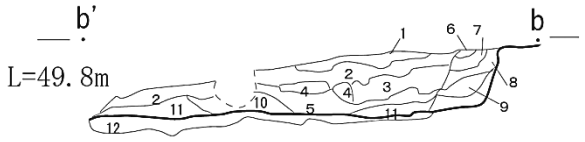
古代の竪穴住居跡（ＳＩ３）は、東側が撹乱によって破壊されているが、平面形は隅丸方形と推定され、あまり角が立たず緩やかに湾曲する特色を持つ。規模は長軸推定360cm前後、短軸は南西壁－北東壁で344cmを測る。主軸方位は、Ｎ－37°－Ｗで北西に傾く。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は北西壁で37cm、南西壁で44cmを測る。埋土は、上位に黒色土が堆積する自然堆積であるが、中位から床面上には、被熱による赤化変色、建物の壁材由来と看做される被熱崩落土の堆積のほか、炭化部材が放射状に検出されており、焼失住居であったことが窺える。床面には80×40cmと40×23cmの焼土が確認されたが非常に薄い。床面北側で被熱した角礫が出土しており、カマド裾部の芯材の一部であった可能性がある。柱穴は確認できなかったが、壁に平行するかたちで、北西壁外部に３基、南西壁外部に５基の柱穴状土坑（ＳＰ１～８）を検出した。掘り方底面には、多量の黄褐色粘土塊・粒が混入する暗褐色粘土を敷き固めている。遺物は、南東部床面で土師器甕が１個体分（№14）、東部のカマド裾部の可能性がある付近から、伏せた状態で土師器坏１点（№15）が出土したほか、南側床面から拳大の礫が１点（№８）、南壁沿いに間隔を空け、１～２cm大の小円礫が３点（№９～11）出土している。

出土遺物は縄文土器が７点、礫が５点、土師器２点である。№１は縄文土器の破片で、半截竹管による平行沈線が施文される。№２～７は同一固体と思われ、表裏縄文に特色がある。№８～11はＳＩ３出土の礫である。№12・13は遺構外出土の礫で、明確ではないが礫石器（磨石？）の可能性もある。№14はＳＩ３出土の土師器甕である。口径は17.5cm、底部径は7.6cm、器高は30.2cmを測る。口縁部は３cmほど外傾し、口唇部でやや内湾する。胴部はややふくらみを持ち、最大径は胴部となる。胴下部は長く伸び、長胴甕に分類される。底部は木葉痕が観察され、外面に炭化物が付着する。№15の坏は破片であるが、口径14.4cm、器高５cm程度と推定される。

まとめとして、平成26年度の調査では、縄文時代の陥し穴状土坑が周辺にも分布し、古代の集落は調査区南側に広がる可能性が推測されたが、今回の調査結果によりこれを証明した形となった。また、２年間の発掘調査で検出された３棟の竪穴住居跡は、それぞれ平面形や規模、カマドの位置や焼失などの相違点が多いことから、時期差があることも考えられ、隣接する横手遺跡（IF48-2234・縄文）と合わせて継続的な古代集落が存在した可能性も考えられる。（鳥居・小竹森・長屋敷）

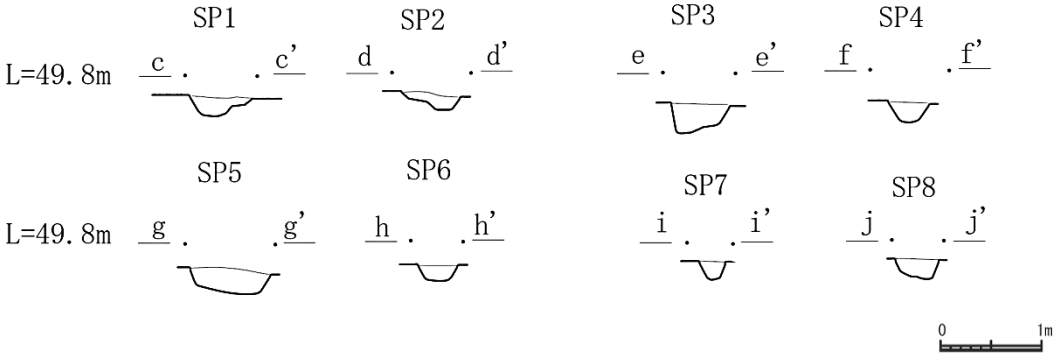




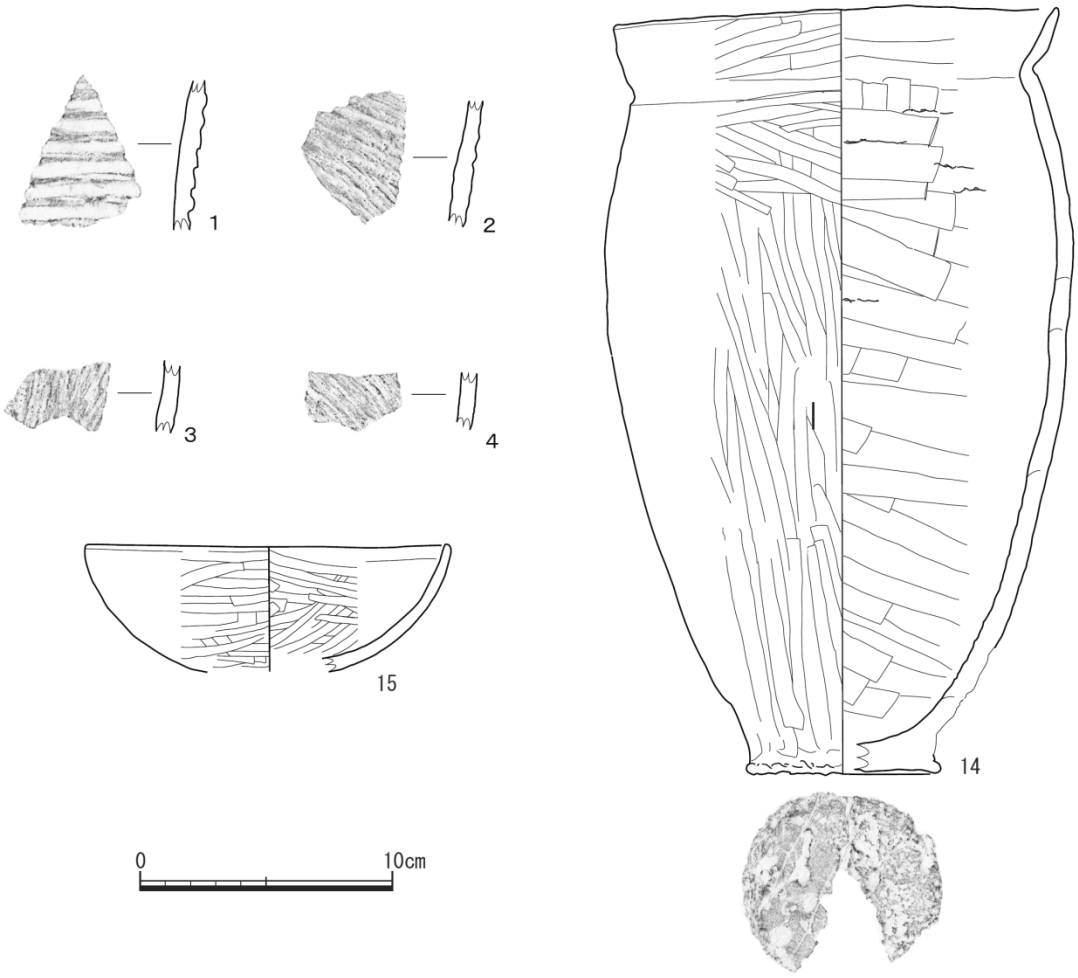


1	黒褐色粘土層	粘性あり	締まり弱い	黄褐色土粒混じる
2	黒色粘土層	粘性あり	締まりふつう	
3	黒褐色粘土層	粘性あり	締まり弱い	黄褐色土粒混じる
4	黒褐色粘土層	粘性あり	締まり弱い	多量の黄色土粒混じる
5	黒褐色粘土層	粘性あり	締まり弱い	黄色土粒・炭化物が混じる
6	黒褐色粘土層	粘性あり	締まりふつう	
7	褐色シルト層	粘性弱い	締まり弱い	被熱したシルト塊
8	黒褐色粘土層	粘性あり	締まり弱い	
9	黄褐色シルト層	粘性弱い	締まり弱い	被熱したシルト塊
10	黄褐色粘土層	粘性あり	締まりあり	被熱した粘土層
11	黒褐色粘土層	粘性あり	締まり弱い	多量の炭化材が混じる
12	暗褐色粘土層	粘性あり	締まりあり	多量の黄褐色粘土塊・粒が混じる・貼床

ＳＩ３　遺構平面・断面図



ＳＩ３　柱穴断面図



遺物実測図

調査区全景（北西から）

基本層序

ＳＫ10・11　平面

ＳＫ10・11　断面

ＳＩ３　検出状況

ＳＩ３　断面

ＳＩ３　完掘状況

作業風景

ＳＩ３　炭化材検出状況

ＳＩ３　土師器甕（No.14）出土状況

出土遺物

10　三陸沿岸道路（田老～岩泉南）

小成（こなり）Ⅱ遺跡

（KG63-1048：新規発見 旧可能性あり４）

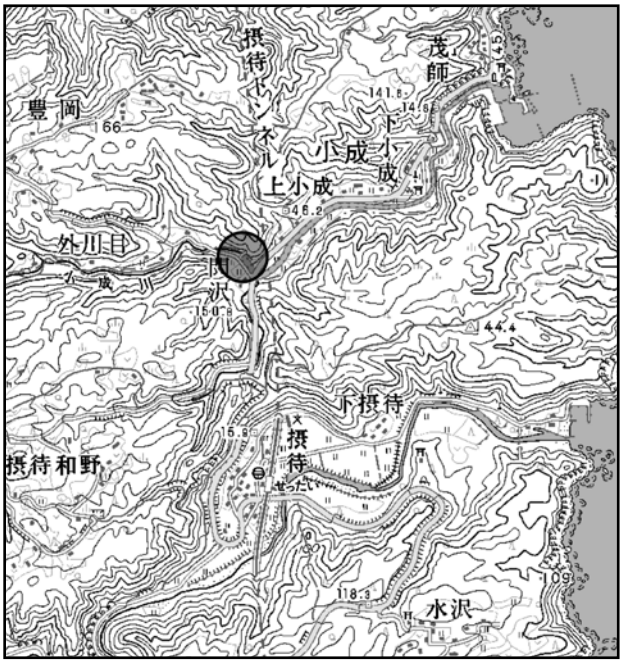
【所 在 地】　下閉伊郡岩泉町小本地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成27年11月９日（月）
　　～19日（木）

【調査面積】　250㎡

【調査結果】　調査地は、三陸鉄道北リアス線小本駅から南へ約３㎞、小成川左岸の標高約45m前後の丘陵裾部に位置する。



小成Ⅱ遺跡 位置図

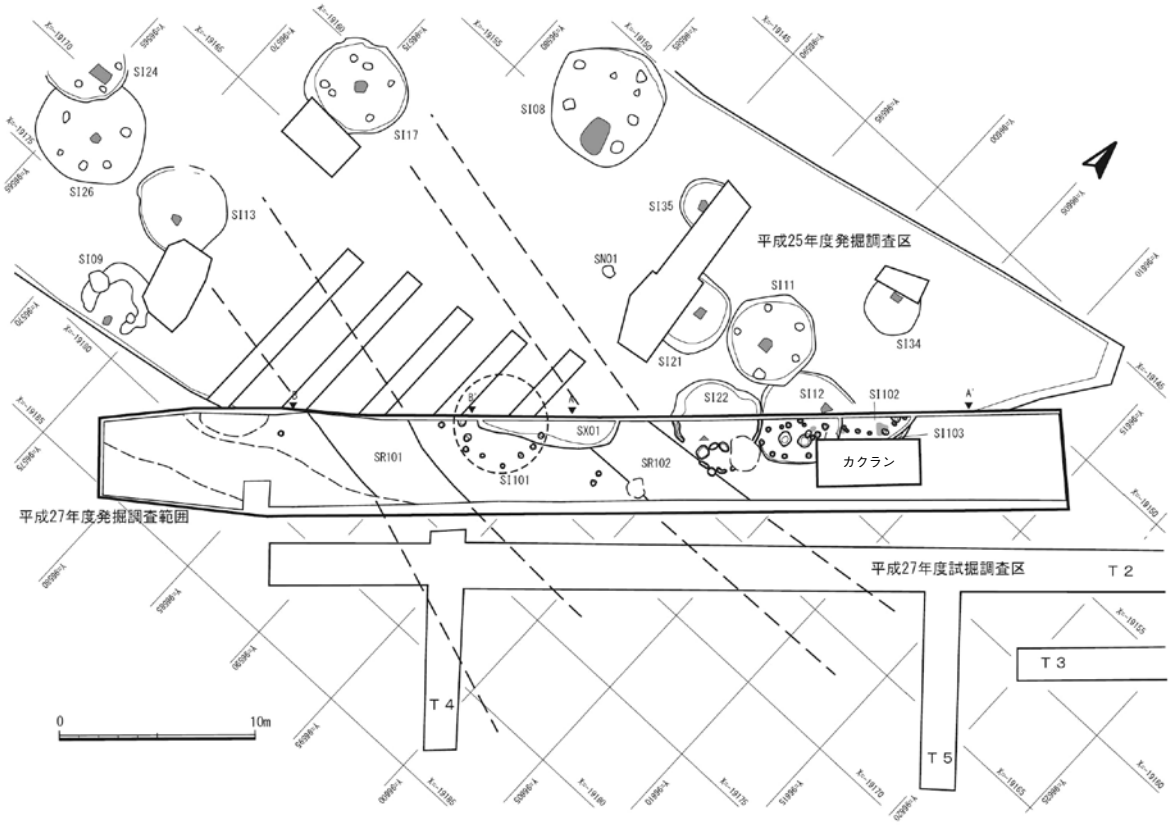
今回の調査に先立ち、平成25年７月１日～10月11日に（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下、県埋文）が西側隣接地の発掘調査を実施し、縄文時代中期の竪穴住居跡38棟のほか、溝１条、焼土１基、土坑２基を検出している。

また、南東隣接地については、平成27年７月21日～22日に岩手県教育委員会が試掘調査を実施し、最下層で自然流路跡を検出したものの、現国道45号の工事等に伴う削平により、遺構・遺物ともに残存していないことを確認している。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層	表土	層厚５～50㎝（近現代耕作土を含む）
Ⅱ層	黒褐色粘質土	層厚20～30㎝
Ⅲ層	オリーブ褐色～黄褐色質土	層厚５～70㎝（丘陵基盤崩落土）
Ⅳ層	黒褐色シルト質土	層厚20～30㎝（遺構検出面）
Ⅴ層	明褐色シルト質土	層厚15～20㎝
Ⅵ層	角礫を多量に含む黒褐色粘質土	層厚10～15㎝
Ⅶ層	黄褐色～黄橙色砂礫	層厚不明（地山）

なお、遺構埋土と遺構面の形成土であるⅣ層が極めて近似しており、Ⅳ層上面での検出が不明瞭であったことから、Ⅴ層またはⅦ層上面で検出し、北西辺の土層断面において、遺構の掘り込み面や切り合い関係を把握した。その結果、平成25年度発掘調査で検出した竪穴住居跡に連続する２棟を含む竪穴住居跡５棟をはじめとして、焼土遺構と自然流路を検出した。なお、遺構番号の付番にあたり、平成25年度調査分と同一遺構のものについては同一番号を、今回新規に検出した遺構については新規に番号を付した。



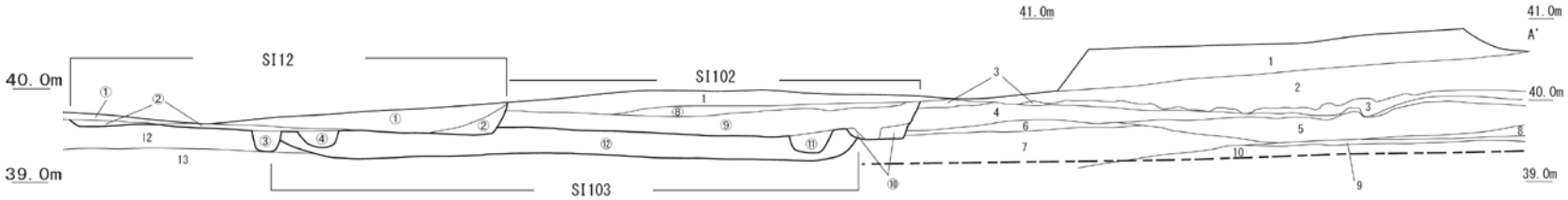
小成Ⅱ遺跡　遺構配置図（平成25・27年度調査区合成）

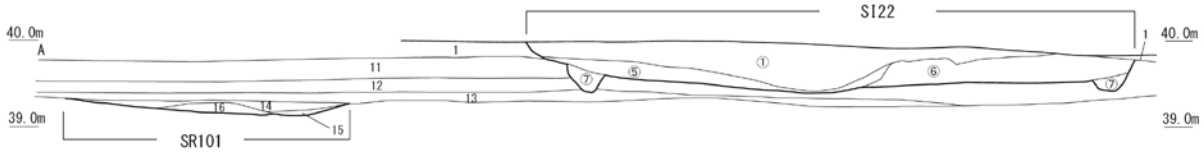
ＳＩ12

平成25年度に実施した県埋文の調査範囲から続く竪穴住居跡の南東半部分であり、東端の一部は国道に設置された既存構造物で破壊されていた。県埋文調査時には、北東部分の平面形が不明瞭であったが、一辺が4.7m程度になる隅丸方形に近い平面形を呈することが判明した。また、明瞭な貼床構造は認められないが、床面に焼土遺構１基、ピット13基が伴うことを新たに確認した。

焼土遺構は、平成25年度調査で検出した炉跡とされる礫に囲まれた焼土遺構の南側約１ｍに位置し、長径32cmを測るやや不整形な形状で、下層への赤化変色の浸透は未発達であった。

ピットは、床面全体に散在しているように見受けられたが、竪穴住居跡壁際の５基は円周状の配列が確認され、県埋文調査区側においても同様のピットが存在した可能性が考えられる。





A-A' 断面
1. 黒ボク土
2. 黄茶色土
3. 明黄褐色土
4. 黒褐色粘質土・礫多量に含む
5. 暗褐色砂礫土
6. 暗黄茶色砂礫
7. 暗灰褐色砂礫土
8. 灰黄褐色砂礫
9. 黒褐色土・礫混合
10. 黄褐色砂礫
11. 暗灰褐色土
12. 褐色土・黄色砂混合
13. 灰褐色砂礫土
14. 黒褐色弱粘質土 ┐
15. 黒褐色砂礫土 ├ SR101 埋土
16. 灰黄褐色粗砂 ┘

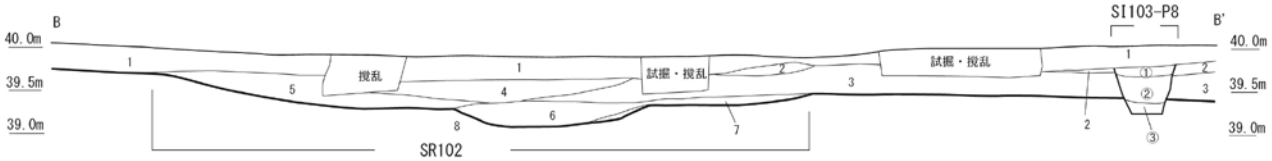
SI12
①H25 年度発掘調査埋戻し土
②黒褐色弱粘質土
③茶褐色土・黒色土混合
④暗灰褐色土

SI22
①H25 年度発掘調査埋戻し土
⑤黒色粘質土
⑥暗褐色土　微細軟岩粒含む
⑦暗灰褐色・黄色細砂粒混合

SI102
⑧暗黄橙色土・茶灰色土混合
⑨黒褐色土・褐色土混合　10mm 大軟岩粒含む
⑩濁黄茶色砂礫
⑪褐色土・黒色土混合

SI103
⑫灰褐色弱粘質土

※丸囲数字は遺構埋土



B-B' 断面
1. 黒ボク土
2. 暗褐色砂質土
3. 暗灰褐色土　軟岩小礫含む
4. 黒褐色弱粘質土　10mm 大軟岩粒若干含む ┐ SR102（新）埋土
5. 黒褐色砂礫土 ┘
6. 暗茶灰色砂質土・拳～人頭大礫混合 ┐ SR102（古）埋土
7. 暗茶褐色砂 ┘
8. 黄橙色礫

ＳＩ22

前述のＳＩ12と同様、平成25年度の調査区から続く竪穴住居跡の南東半部分にあたる。竪穴住居跡は東西4.7m・南北4.5mを測る楕円形を呈し、前回調査で検出された石囲炉は、南北主軸のかなり南側に位置することになる。表土掘削時に炉石とみられる礫を検出したが、床面では炉跡の残り部分は確認できなかった。

一方､県埋文の調査では確認できなかった壁溝が巡ることを平面・土層断面で確認した。周壁溝は、幅、深さともに約20cmで、断面形はＵ字もしくはＶ字形となる。石囲炉の南側にあたる幅約1.2mには壁溝はなく、建物の入り口にあたる可能性が高い。明確な柱穴は認められなかったが、規模・構造などからＳＩ22も竪穴住居跡と考えられる。ともにⅣ層から掘り込まれており、断面では明確な切り合い関係を把握することはできなかったが、平面的にＳＩ22の東側壁溝がＳＩ12の床面を切り込んでいることから、ＳＩ22の方が新しいものと判断される。また、ＳＩ12とＳＩ11の新旧関係については、今回の調査で把握できなかったが、近接し過ぎていることから、同時期のものとは想定し難い。

ＳＩ101

南東部隣接地において、過去の調査で遺構は検出されていないが、今回の調査区では、ほぼ中央部において円弧状に並ぶ９基のピット群をⅦ層上面で検出した。北西壁面で半裁した形になるＰ８の土層堆積状況からは、ＳＩ12・ＳＩ22の検出面となったⅣ層直下のＶ層からの掘り込みが確認できたことから、竪穴住居跡よりも古い時期の遺構と判断される。

ピットは直径25～40cm程度の円形を呈し、検出面からの残存深度は20cm程度であるが、北西壁面でのＰ８の断面観察から深さ60cm程度になる。周囲から竪穴・壁溝等は認められないことから、竪穴部分が削平されて柱穴のみが残存した可能性が高く、ＳＩ12・22よりひと回り大きい直径５m程度の竪穴住居跡になると推定される。

ＳＩ102・103

平成25年度調査では、ＳＩ12が最も東端に位置する竪穴住居跡であったが、今回の調査ではその東側にＶ層上面を検出面とする竪穴住居跡が存在することを確認した。幅1.5m程度の狭い範囲での調査となったことから､平面的には円弧状に並ぶ直径25cm程度のピットと焼土遺構によって竪穴住居跡（ＳＩ102）の存在と、土層断面において竪穴壁面および壁溝を確認した。また、ほぼ同位置にＳＩ102に先行する竪穴住居跡（ＳＩ103）が重複していることも判明した。ＳＩ102に伴うピットは、直径20～30cm程度の円形で、残存する深さは20cm程度と浅い。断面観察で確認した壁溝は、幅約60cm・深さ約20cmを測り、断面形は逆台形を呈する。

ピットと同時に検出した２箇所の焼土遺構は、長径約60～80cm・短径40cm程度の広がりを持つ被熱赤化変色部であり、北東側の赤化部分断面は浅い皿状を呈し、最も厚い部分で14cmを測る。遺構の切り合いにより、焼土遺構がピットに先行することから、ＳＩ102に伴う炉跡としての可能性は低いものと考えられる。

ＳＩ102の北東側については、平成25年度調査区内で検出されておらず、形状・規模は不明確であ

るが、概ね直径５ｍ程度の円形を呈し、壁面沿いに柱穴が並ぶ構造になるものと推測される。ＳＩ103は、底面においてピット、壁溝、焼土遺構のいずれも認められず、断面における壁面の立ち上がりが明確な竪穴住居跡と比較するとかなり緩やかであることが特徴である。またＳＩ102は、近接する丘陵斜面の崖錐性堆積物を埋土としているのに対して、ＳＩ103は均質な灰褐色弱粘質土を埋土としていることから、ＳＩ102に先行する別の竪穴住居跡として取り扱ったが、ＳＩ102に係る床面形成のための工程を示している可能性も考えられる。

ＳＲ101・102・ＳＸ01

ＳＲ101・102は、調査区中央部とその南約12mのⅦ層上面で検出した東西方向に延びる自然流路跡である。ＳＲ101は幅約７ｍ・深さ約25㎝、ＳＲ102は幅８～９ｍ・深さ約70㎝を測る。いずれも埋土に角礫を多量に含むが、最下層には砂層が堆積している。ＳＸ01は、平面検出時には竪穴住居跡の可能性が高かったが、ＳＲ102と一連の落ち込みであり、これらが埋没後にＳＩ22・ＳＩ101が造られていた。なお、この自然流路の西側延長は、平成25年度発掘調査区での下層断ち割り調査で確認しており、東側延長は平成27年度試掘調査区において検出した自然流路に連続するものである。

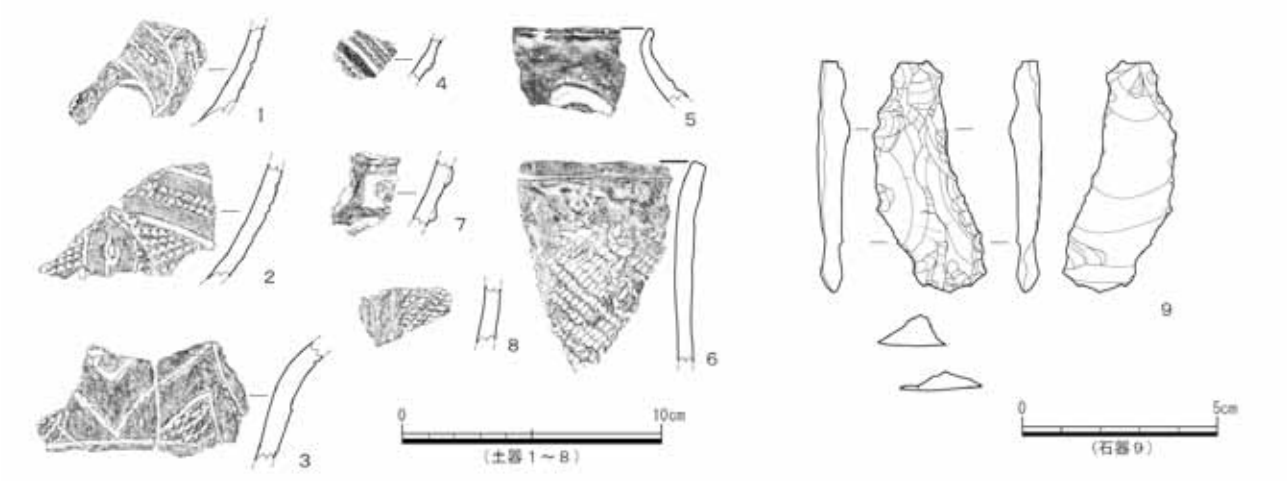
出土遺物

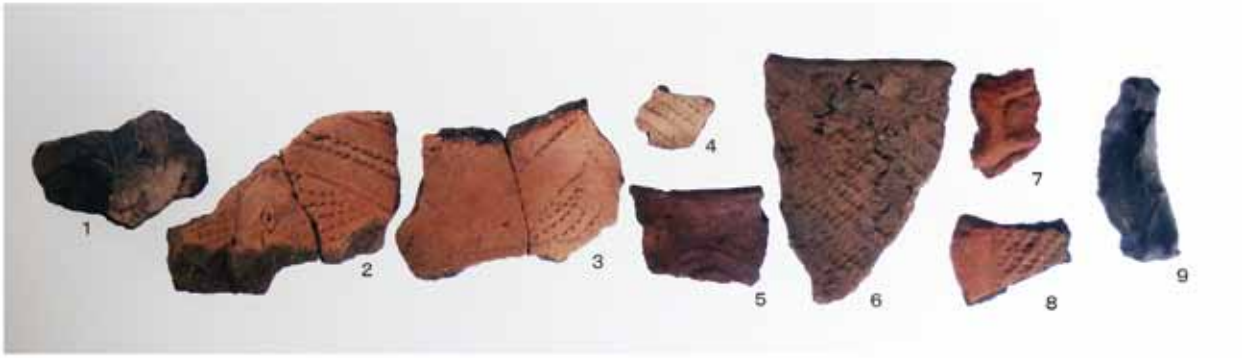
今回の調査では縄文土器片が数点、石器が１点出土したが、明確に遺構に伴って出土した遺物はない。また、いずれも磨滅がない小片であるが、ここでは遺跡・遺構の年代観を把握する上では欠くことのできない遺物について掲載・記述する。

№１はＳＩ12内のピット覆土、№２・３はＳＩ22南側のⅣ層中、№４はＳＩ22北東部に重複する風倒木痕内から出土した縄文土器片である。№１は極めて平滑な表面に細沈線で入組文を描き、その間に二枚貝による腹縁押圧文を施し、その端点には円形刺突文を加える。№２・３は同一個体である可能性が高い破片で、№１と同様に器面は平滑であり、№２は細沈線で退化した入組文の区画を描き、沈線交点には楕円形の刺突文を加える。区画内は尖頭工具を押し引きして描いた２列の三角結節沈線、区画外は二枚貝による腹縁押圧文により充填する。№３の細沈線で描かれているのは鋸歯状の区画文であり、破片最下位の直線文により完結する三角形の区画のみ、二枚貝による腹縁押圧文を充填している。№２・３は胎土・色調・調整・焼成ともに極めて近似しているため同一個体の可能性が高く、№３は２よりも上位で頸部に近い破片となる。№４は断面が低い蒲鉾状を呈する隆帯による区画と、二枚貝による腹縁押圧文列の組み合わせが見られ、土器内面も丁寧な横方向のミガキ調整により平滑に仕上げられている。文様構成・施文手法などの特徴から、№１は縄文時代早期中葉の物見台式、№２・３は同じく明神裏Ⅲ式が所属時期となり、縄文時代中期後葉の、大木９式古段階とされるＳＩ12・22とは大きく時期が異なるが、これらが縄文時代中期の遺構が形成される前段階の遺構に起因することは、遺構面形成土中、風倒木痕中の出土状況からも明らかである。№５～８は、いずれも遺構面精査に際して遺構外から、あるいは攪乱層内から出土しており、直接的に遺構の年代観を示す資料ではないが、平成25年度発掘調査においても、主体である縄文時代中期後葉の大木９～10式段階の土器類である。№５は、内傾する口縁上端を短く外反させ、外面には太い沈線で逆Ｕ字状の区画を描き、

区画には縄文が残る。№６は、ほぼ直立する体部上端を短く外反させて口縁部とし、体部外面は地紋の縄文に加えて、端部が結ばれた短節縄文が縦位に施されている。№７は、低い貼付隆帯による横位の文様帯が認められる。№８の地文は、原体RLRの複節縄文を縦位に施す。№９は、黄褐色の斑文が見られる黒色の珪質頁岩の縦長剥片を素材とした、長さ5.9cm、幅1.8cmのスクレイパーである。断面形は扁平な二等辺三角形を呈し、下辺・両側辺に刃部調整を加えているが、その加工度はかなり低い。

以上のことから、縄文時代中期後葉の住居域は南東側に広がっていると考えられるが、既に削平されており、県埋文の調査成果を検証・補足する結果となった。（岩名・小竹森）





出土遺物

調査区全景（南東から）

北東部完掘状況（東から）

北東部完掘状況（北東から）

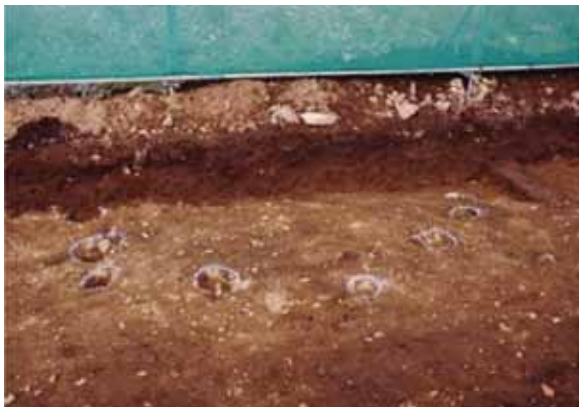
南西部完掘状況（南西から）

南西部完掘状況（北東から）

ＳＩ12　竪穴住居跡完掘状況

ＳＩ12　焼土検出状況

ＳＩ22　竪穴住居跡完掘状況



ＳＩ101　竪穴住居跡完掘状況

ＳＩ102　竪穴住居跡完掘状況

ＳＩ103　竪穴住居跡完掘状況

ＳＬ01　焼土検出状況

ＳＬ02　焼土検出状況

11　三陸沿岸道路（田老～岩泉南）
乙部遺跡（KG84-0069：範囲拡大）

【所 在 地】　宮古市田老字重津部北地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成27年５月12日（火）
　　～６月２日（火）

【調査面積】　555㎡

【調査結果】　調査地は、宮古市田老総合事務所から北へ約６㎞、国道45号東側の尾根上緩斜面地に位置し、標高は194m前後を測る。海岸までの最短距離は2.2kmである。

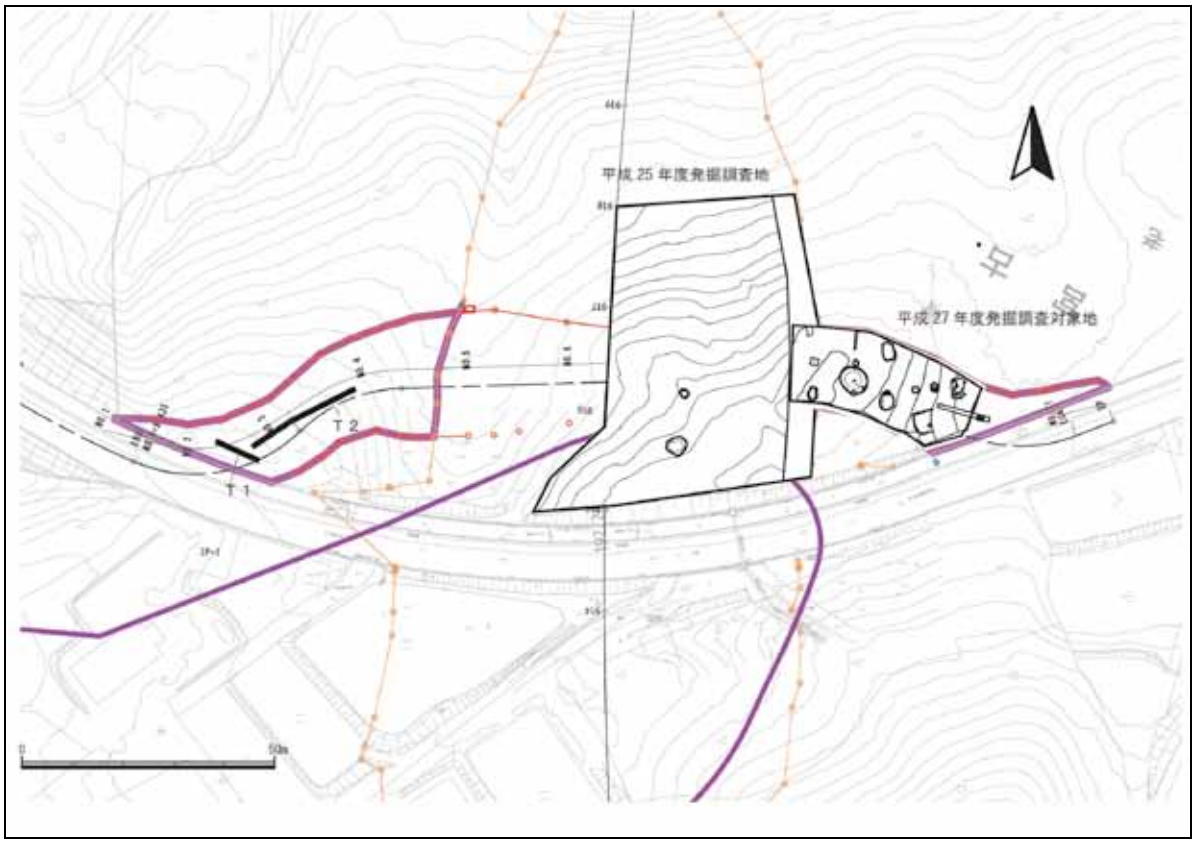
乙部遺跡 位置図

今回の調査は、三陸沿岸道路と直交する市道の切替工事に伴うもので、平成27年４月14日に本線を挟んだ西側の２箇所（Ｔ１・２）および東側の２箇所（Ｔ３・４）にトレンチを設定して試掘調査を実施した。西側では遺物が僅かに出土したものの遺構は確認できなかった。一方の東側からは多くの遺物が出土し、Ｔ４では焼土が検出されたため、従来の遺跡範囲が東側に広がる可能性が高まり、本調査が必要と判断した。また本線部分については、平成25年度に（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが本発掘調査を実施しており、当該地はその隣接地にあたる。

本調査は10m単位の測量基準及び遺物取り上げ単位を設定し、調査を実施した。Ａ－１区は北東角の杭を基準とし、座標値はＸ＝24,280、Ｙ＝98,810である。表土および、遺物の比較的少ない層については重機で掘削し、包含層および遺構は人力で掘り下げながら調査を行った。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層	表土	層厚14～26㎝
Ⅱ層	黒色土	層厚20㎝（縄文時代遺物包含層）
Ⅲａ層	褐色土	層厚10㎝（十和田中掫火山灰と推測される粒子を含む）
Ⅲｂ層	にぶい赤褐色土	層厚20㎝（遺物包含層・径５㎜の黄色粒を僅かに含む）
Ⅲｃ層	暗褐色土	層厚20㎝（遺物包含層・Ⅴ層のブロックを含む）
Ⅳ層	褐色土	層厚10～15㎝（僅かに遺物、炭化物等を含む）
Ⅴ層	黄褐色土	層厚不明（基盤土層・地山）



乙部遺跡　トレンチ位置図（平成25・27年度調査区）

調査の結果、Ａ－２区の南東部付近が標高194.1mの最高所として、東に向かって傾斜しており、Ⅲa層とした十和田中掫火山灰を含む層は、Ｄ－２からＤ－３にかけて南北方向へ帯状に堆積していたことが判明した。

検出した遺構は竪穴住居跡５棟・土坑６基・集石遺構１基である。

【遺構】

Ｓ01竪穴住居跡

Ｂ－２区に位置しており、南端はＳ02土坑に、南東端はＳ09集石遺構によって切られている。平面形は長径６ｍ、短径4.9mの北西－南東方向に長い楕円形である。床面はほぼ平坦で標高193.7mを測り、壁面の高さは最大0.25mを測る。床面中央周辺に焼土が集中しており、柱穴は確認できなかった。埋土上層の中央部分に石２点を伴った濃密な焼土が直径0.8mの範囲に分布していた。断面の形状から土坑の可能性も考えられる。全体的に焼土や炭化物が多量に含まれていた。遺物は縄文中期の土器（№１～４）と縦型の石匙（№Ｓ01・Ｓ02）が出土した。

Ｓ04竪穴住居跡

Ｂ・Ｃ－１・２区に位置している。平面形は南北3.5m、東西2.4mの南北方向に長い隅丸長方形である。長軸方向は北から12°西に振っている。床面はほぼ平坦で標高193.5mを測り、壁面の最大高は0.25mを測る。床面には柱穴や赤変など炉の痕跡と判断できるものはない。遺物は縄文前期の土器（№５

～８）と硬質頁岩製の尖頭器（№Ｓ03）、砂岩製の石皿（№Ｓ04）、横型の石匙（№Ｓ107）と剥片が出土した。

Ｓ05竪穴住居跡

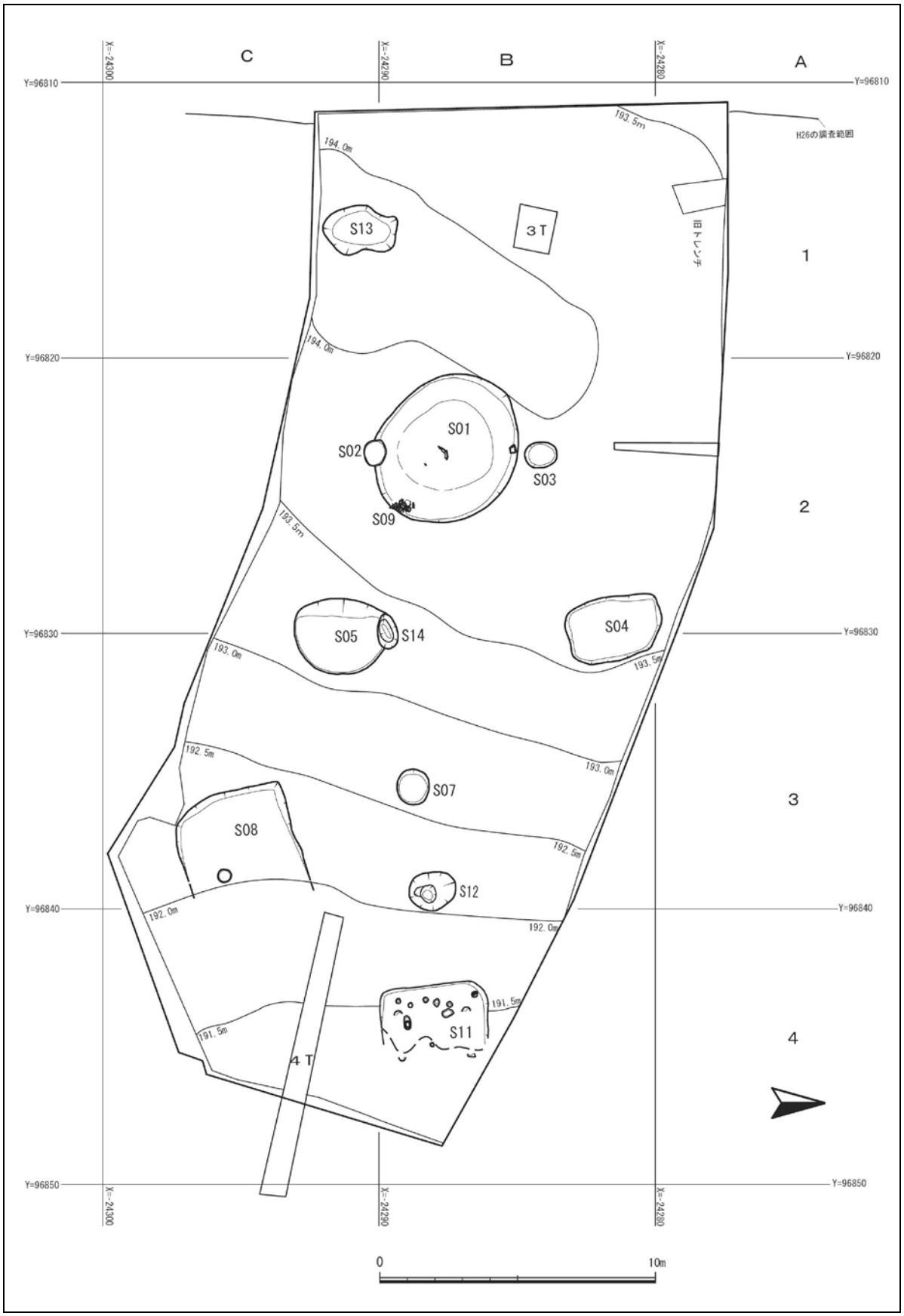
Ｂ・Ｃ－２・３区に位置しており、北端はＳ14土坑に切られている。平面形は山側の辺が直線状を呈することから、他と同様に隅丸方形を呈すると思われるが、傾斜の下側は明瞭に検出できなかった。規模は南北3.4m、東西2.8m程度を測る。長軸方向は北から１°西に振っている。床面はほぼ平坦で標高193mを測り、壁面の最大高は0.4mを測る。床面には柱穴や赤変など炉の痕跡と判断できるものはない。遺物は縄文前期の土器（№９・10）と硬質頁岩製の縦型の石匙（№Ｓ05）、軽石製で円形に加工し両面穿孔している有孔石製品（№Ｓ06）、長円礫形状の敲磨石器類（№Ｓ07）、楕円形の広平面を磨る敲磨石器類（№Ｓ08）と剥片が出土した。

Ｓ08竪穴住居跡

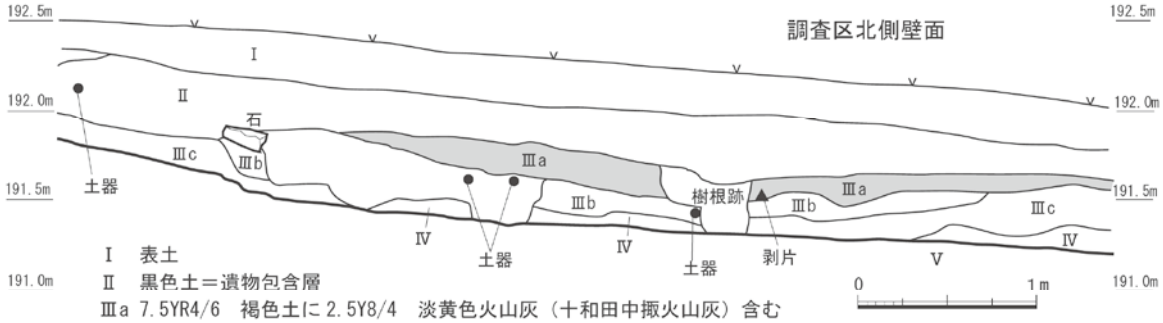
Ｃ－３区に位置している。平面形は南北4.2m、東西3.8m程度の南北方向に長い隅丸長方形である。長軸方向は北から16°西に振っている。床面はほぼ平坦で標高192.1mを測り、壁面の最大高は0.32mを測る。床面には直径0.47m、深さ0.2mのピットを１基確認したが、赤変など炉の痕跡と判断できるものはない。埋土には炭化物を多く含んでいる。遺物は縄文前期の土器（№14～22）と石鏃未成品（№Ｓ11）、長円礫形状の敲磨石器類（№Ｓ12・Ｓ13）、剥片が出土した。

Ｓ11竪穴住居跡

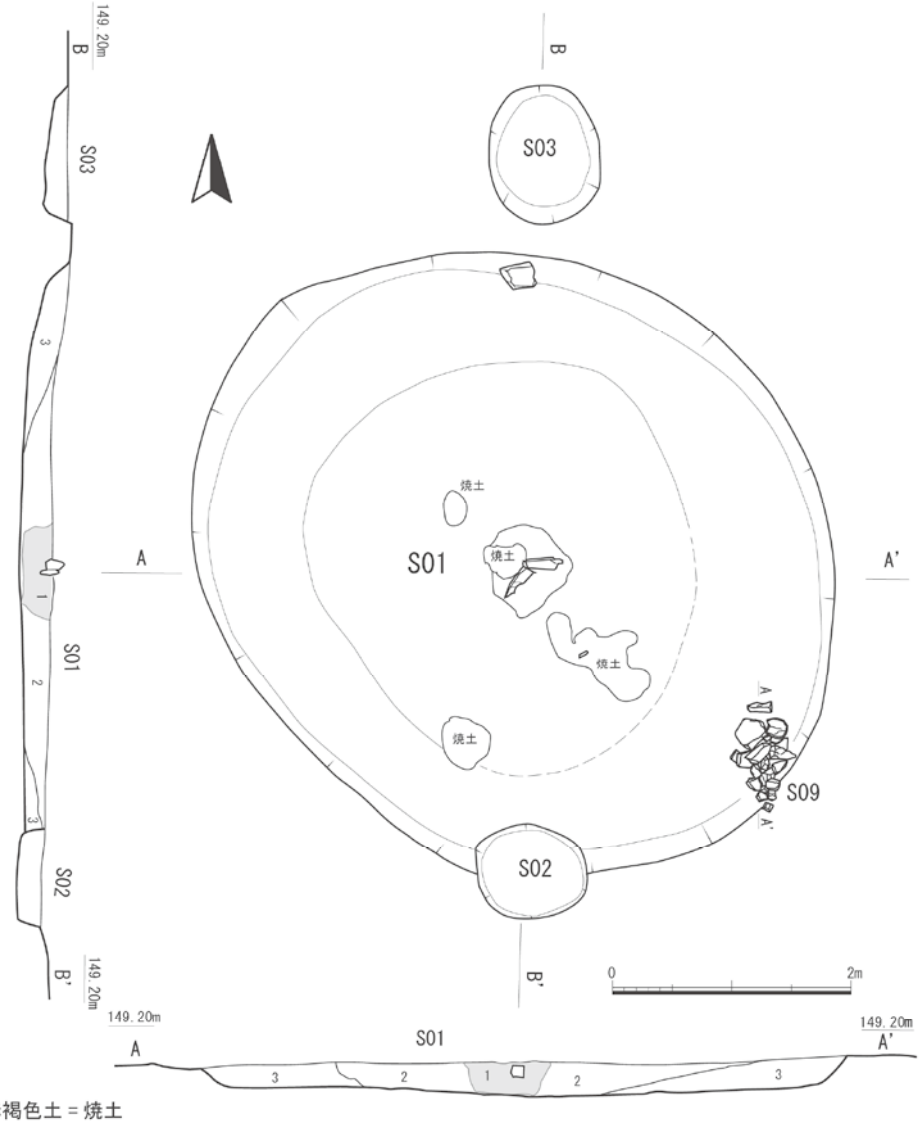
Ｄ－２区に位置し、北東隅は調査区外に延びている。平面形は南北3.9m、東西2.8m以上で、柱穴配置から推測すると3.6mとなるため、南北方向に長い隅丸長方形であるといえる。長軸方向は北から７°西に振っている。床面はほぼ平坦で標高191.4mを測り、壁面の最大高は0.15mを測る。床面にピットを13基確認した。このうち、位置と規模から、主柱穴は４基（Ｐ１・２・４・５）と考えられる。Ｐ１－２間、Ｐ４－５間の柱間隔はともに2.5mを測り、Ｐ１－５間、Ｐ２－４間の柱間隔はともに1.6mを測る。Ｐ１・２は一辺あるいは直径0.25m、深さ0.2mの掘り方に、直径0.18m前後の柱痕跡が残る。Ｐ１とＰ２の柱痕跡には、十和田中掫火山灰が詰まっていた。Ｐ４・５は直径0.3m、深さ0.2mの掘り方に、直径0.17m前後の柱痕跡が残る。Ｐ４・５の柱痕跡の埋土は暗褐色土で、炭化物を多く含んでいる。Ｐ３・６・８には石が入っていた。床面には赤変など炉の痕跡と判断できるものはない。遺物は縄文前期の土器（№23～25）と剥片が出土した。


C
B
A
X=-24300
X=-24290
X=-24280
Y=96810
Y=96820
Y=96830
Y=96840
Y=96850
H26の調査範囲
IBトレンチ
3T
4T
S01
S02
S03
S04
S05
S07
S08
S09
S11
S12
S13
S14
194.0m
193.5m
193.0m
192.5m
192.0m
191.5m
1
2
3
4
0
10m

乙部遺跡　遺構配置図



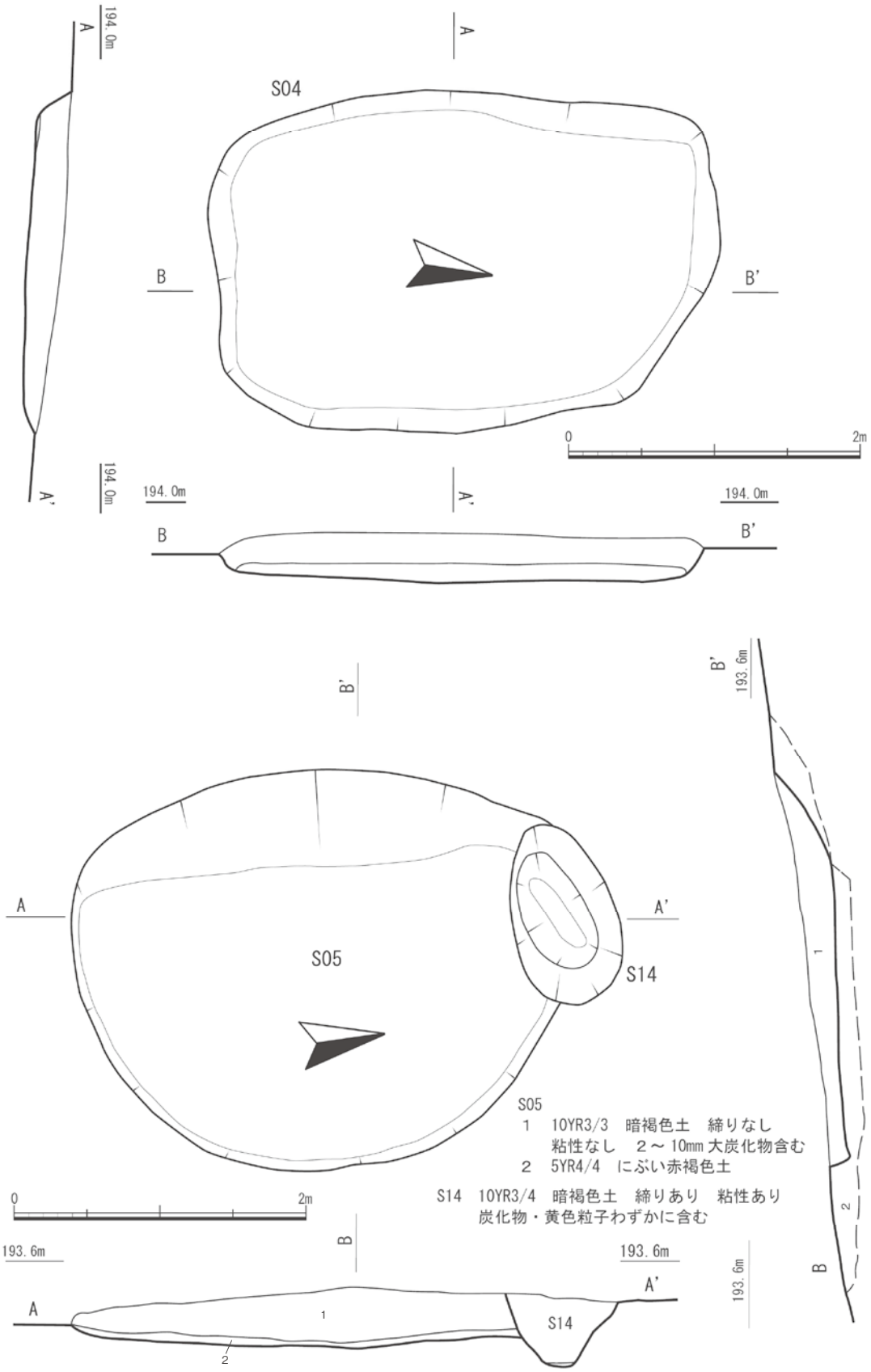
Ⅰ　表土
Ⅱ　黒色土＝遺物包含層
Ⅲa 7.5YR4/6　褐色土に2.5Y8/4　淡黄色火山灰（十和田中掫火山灰）含む
Ⅲb 5YR4/4　にぶい赤褐色土に５㎜大黄色粒・２～３㎜大赤色粒わずかに含む
Ⅲc 7.5YR3/4　暗褐色土に地山質土ブロック含む＝遺物包含層
Ⅳ　10YR4/6　褐色土
Ⅴ　10YR4/6　黄褐色土＝地山層



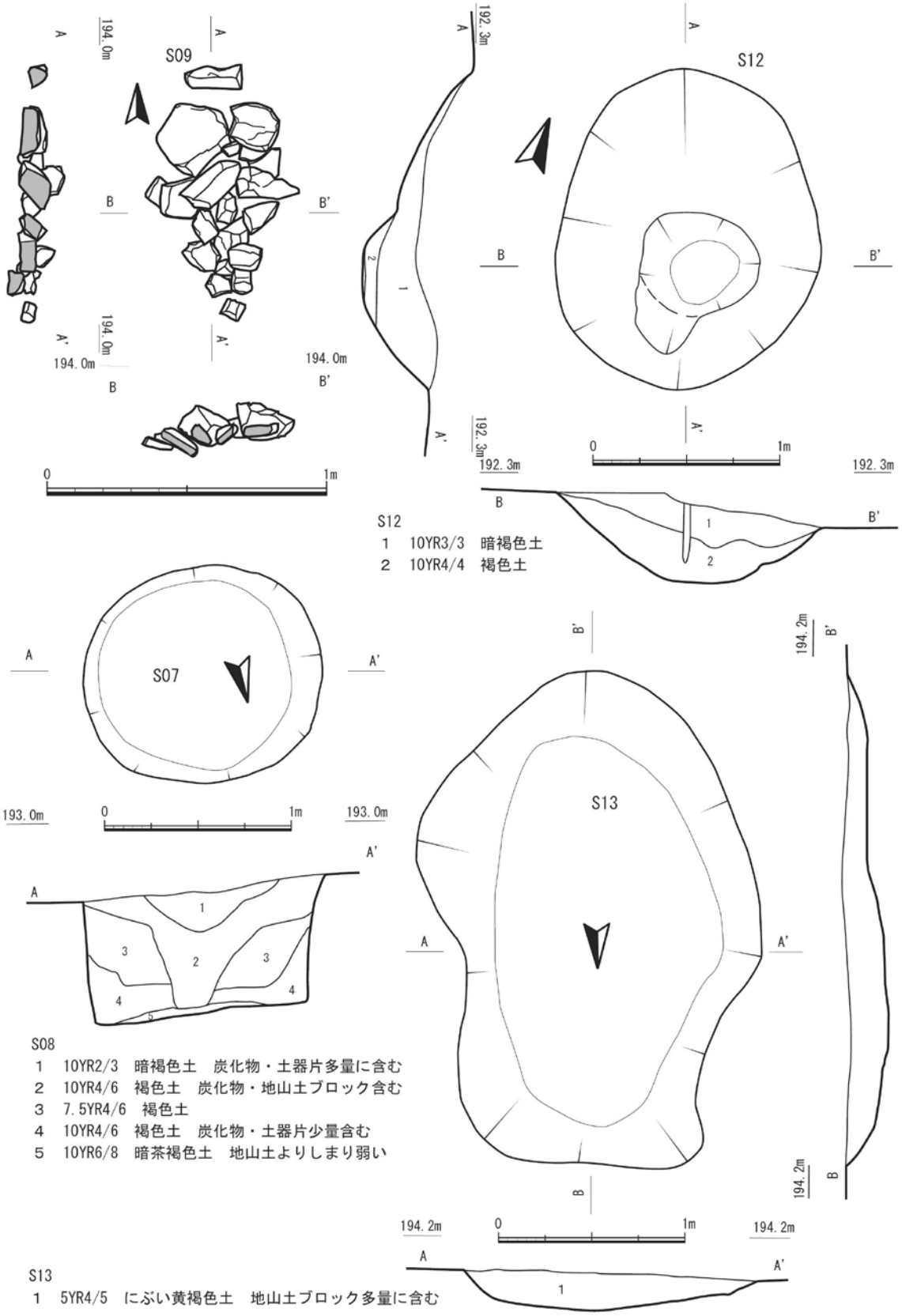
S01
1　5YR4/6　赤褐色土＝焼土
2　10YR3/3　暗褐色土　赤色粒・炭化物含む
3　10YR4/4　褐色土　締りあり・粘性あり　地山層に近似

S02・S03 10YR3/3　暗褐色土に５㎜大明黄褐色土粒
炭化物多量に含む

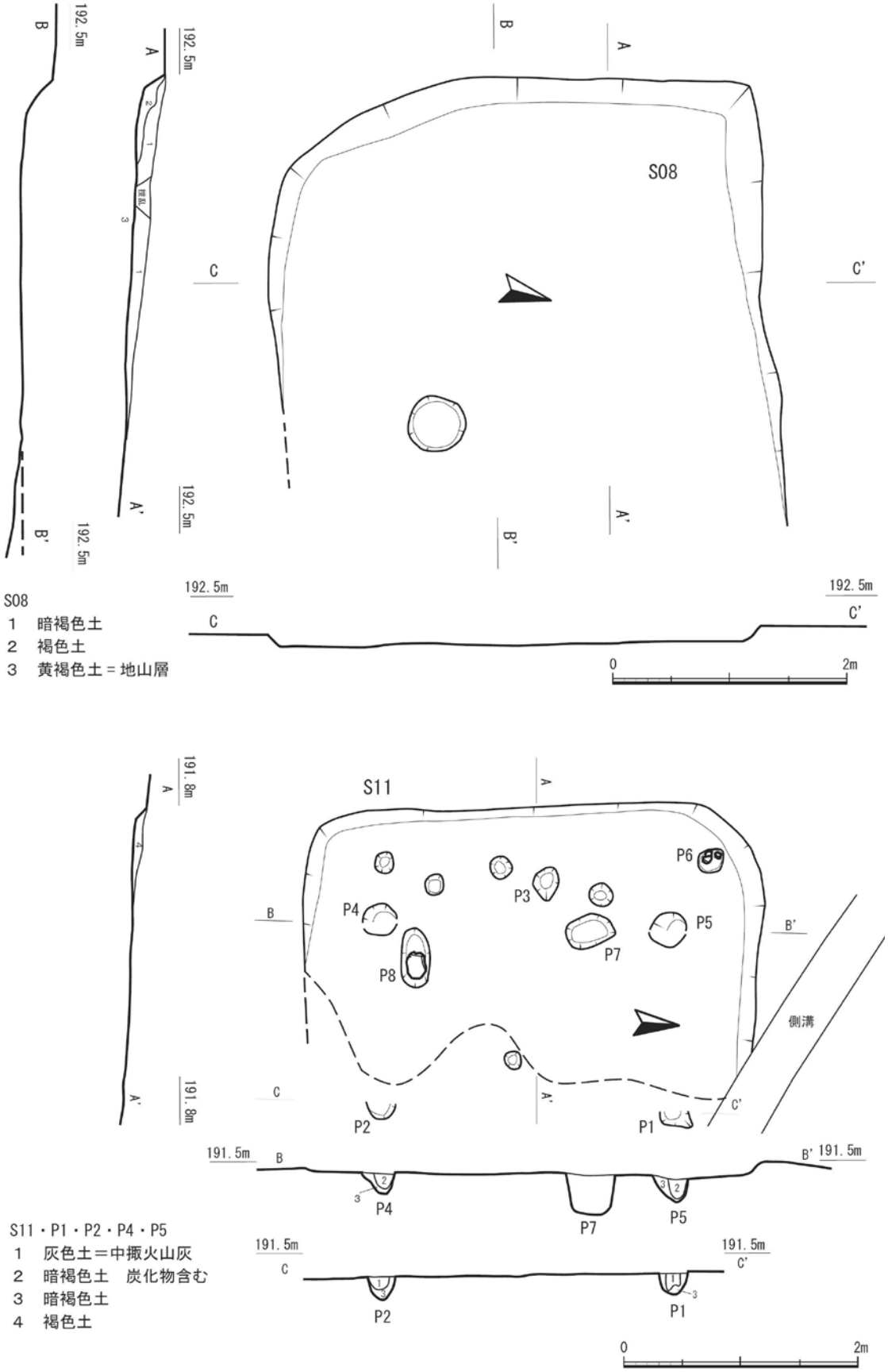
北側調査区　壁面土層断面図・Ｓ01～03・09　遺構平面・断面図



Ｓ04・05・14　遺構平面・断面図



S07・09・12・13　遺構平面・断面図



S08・11　遺構平面・断面図

Ｓ02土坑

Ｂ－２・３区に位置し、Ｓ01竪穴住居跡の南端を切っている。平面形は長軸約0.95m、短軸約0.8mの東西に長い楕円形で、深さ約0.2mを測る。埋土には炭化物を多く含んでいる。

Ｓ03土坑

Ｂ－２区のＳ01竪穴住居跡の北側に位置している。平面形は長径約1.2m、短径約0.95mの南北に長い楕円形で、深さ約0.2mを測る。埋土には炭化物を多く含んでいる。遺物は接合できる石核が出土した。

Ｓ07土坑

Ｃ－２区に位置している。平面形は長径約1.3m、短径約1.2mのやや東西に長い楕円形で、深さ約0.7mを測る。底部はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は縄文前期の土器（№11～13）と砥石（№Ｓ09）、長円礫形状の敲磨石器類（№Ｓ10）が出土した。

Ｓ12土坑

Ｃ－２区のＳ07土坑の東側に位置している。平面形は長径約1.8m、短径約1.4mのやや南北に長い楕円形で、深さ約0.4mを測る。埋土には炭化物が含まれている。

Ｓ10土坑

Ｃ－２区のＳ12土坑の北側に位置している。遺物は石鏃未成品が出土した。

Ｓ13土坑

Ａ－２・３区の最高所に位置している。平面形は長径2.6m、短径約1.6mの南北に長い楕円形で、深さは約0.2mである。

Ｓ14土坑

Ｂ・Ｃ－２区に位置し、Ｓ05竪穴住居跡の北端を切っている。平面形は長径1.2m、短径約0.7mの東西に長い楕円形で、深さは約0.45mである。

Ｓ09集石遺構

Ｂ－２区に位置しており、Ｓ01竪穴住居跡の東端に重複している。南北0.9m、東西0.6mの範囲内に、一辺８㎝～25㎝前後の角礫あるいは摩耗面を持つ割礫が20個集中している。本来は穴の中に入れられた可能性があるが、掘り方が確認できなかった。Ｓ01竪穴住居跡に伴う可能性が考えられる。遺物は石皿が出土した。

【遺物】

出土した遺物は土器類が約34kg、石器類が約85kgである。ここでは、遺構に伴うものを中心に掲載し、遺構に伴わない遺物については主要なものを掲載した。遺構に伴わない石器の成品は写真及び一覧表で掲載したが、未成品や素材・剥片は掲載していない。

（１）土器

第１類　№20・21は尖底で縄文を施文する。

第２類　№５・８・11・13・22～24・27～31は胴部斜縄文、口縁直下多段結節回転文を施文する。№

29・30が波状口縁。№30は口唇部に縄圧痕を付ける。№５は補修孔が残る。№22は平底である。

第３類　№45は網目状撚糸文を施文している。

第４類　№46～49は外反する口縁部で端部に刻みを加える。№47・48は波状、№49は突起を有する口縁である。胎土は良質で僅かに繊維を含む。

第５類　№50は口縁端部と隆帯に刻みを加え、横方向に連続地文山形沈線文を加える。胴部は附加条縄文を施文する。

第６類　№６・７・12・26・32～44のうち№６・７は斜縄文を施文する。№32～37・43・44は木目状撚糸文を施文している。№40は多方向に縄文が施文されていることから、本来は丸底として作られたものが、つぶれて平底化した可能性も考えられる。

第７類　№52は浅鉢で口縁部に隆帯で区画を作る。

第８類　№53・54は口縁部が内弯し、隆沈線で区画し、№54は渦巻文を描く。

第９類　№１は口縁部が内弯し、隆帯で区画する。

第10類　№55は波状口縁の小型の深鉢で、口縁部は無文で胴部は沈線で縦の区画を作る。

第11類　№２～４・56・57は口縁部が無文で、№56は沈線で区画する。№４は平底である。

第12類　№58は口縁端面に突起と刻みを付ける。表面は剥離しており、文様は不明である。

第１類は大木２ａ式、第２類は縄文時代前期前葉、第３類は大木２ｂ式、第４類は白座式、第５類は大木３式か白座式、第６類は大木７ｂ式、第７類は大木８ａ式、第８類は大木９式最古、第９類は中期中葉～後葉、第10類は後期初頭に位置づけられる。

（２）石器

細石刃核（№Ｓ27）は硬質頁岩製の細石刃核で上下端は折損している。長軸の片方の縁辺に細石刃を連続的に剥離している。技術形態学的特徴から、更新世末の晩氷期に帰属する可能性が高いが、他に当該期の遺物は出土していない。石鏃は成品８点と未成品２点（№Ｓ11・14）が出土している。成品は凹基３点（№Ｓ16・28・52）、平基４点（№Ｓ26・31・36・43）、凸基１点（№Ｓ20）である。尖頭器は３点（№Ｓ３・15・49）出土している。いずれも両面加工であり、長さが7.3cm～8.1cmである。石錐は１点（№Ｓ17）のみ出土している。つまみは持たない。石匙は15点出土している。縦型10点、横型４点、不明１点である。スクレイパーは１点（№Ｓ41）出土している。楔は２点出土している。磨製石斧は12点出土している。磨切技法で製作されたものは２点（№Ｓ34・47）存在する。有孔石製品は１点（№Ｓ６）出土している。敲磨石器類は56点出土しており最多である。長円礫の形状のもの54点、扁平な楕円礫形状のもの２点（№Ｓ8・105）がある。長円礫の形状のものは鋭角の側縁に磨面がある。扁平な楕円礫形状のもののうち、１点は広面に磨面があり、もう１点は長側面に磨面がある。磨面横には剥離が認められるものも多い。磨面は使用痕跡から使用頻度の多寡が認められる。端部に敲打痕が存在するものが22点ある。側面に浅い凹痕が存在するものが６点（№Ｓ89・91・95・102～104）あり、手に持った時の指が当たる箇所に合致する。長さ18.5cm～9.3cmまであり、平均13.6cmである。重量は1196.1ｇ～248.9ｇまであり、平均799.3ｇである。石皿は２点出土している。不定形な形態を

なす。砥石は２点出土している。剥離した破片であり、明瞭な砥面を残すものをこの分類としたが、石皿に含まれる可能性もある。石棒は１点（№Ｓ106）出土している。扁平で、先端を溝状に加工しているため石棒としたが、凸面をもつ石皿の可能性がある。

【まとめ】

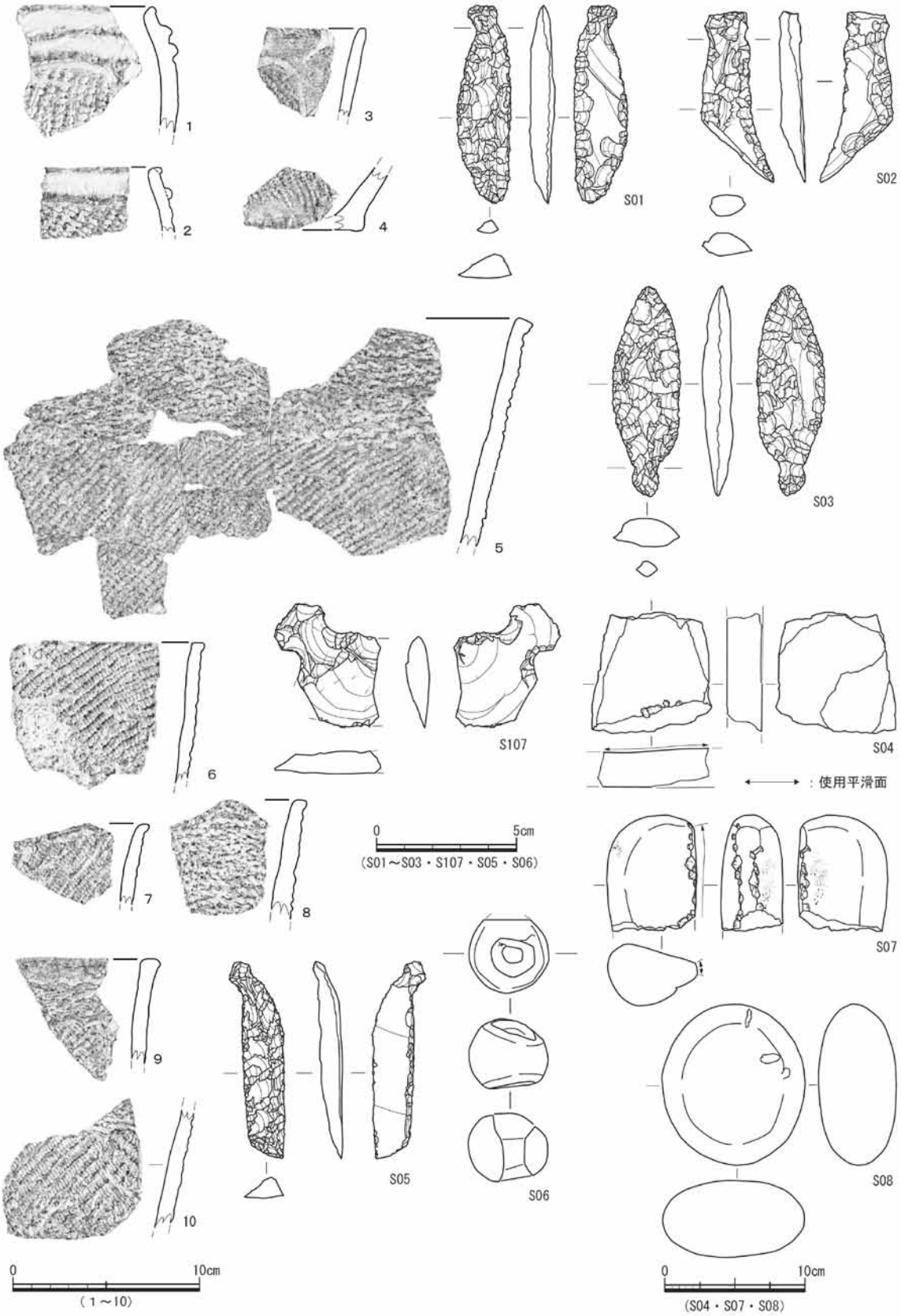
今回の発掘調査では、縄文時代前期前葉の土器を中心に、縄文時代後期初頭までの土器が出土した。これは平成25年度発掘調査の成果と大きな齟齬はない。時期が特定できる遺構は、縄文時代前期前葉の竪穴住居跡４棟と土坑１基、縄文時代中期中葉～後葉の竪穴住居跡１棟と土坑２基、集石遺構１基がある。隣接する県埋文調査地の北向き斜面とは異なり、今回の調査地は東向きの緩傾斜地であり、生活条件としては良好であったと考えられる。大木２ａ式の土器が出土しているＳ11竪穴住居跡の上層、及び柱穴Ｐ01・02からは十和田中掫火山灰を検出しており、十和田中掫火山灰堆積時期を特定できる一つの調査例である。また、Ｓ08竪穴住居跡からは尖底土器と大木２ａ式とが共伴しており、平行関係を考えるうえで重要な接点である。

石器は敲磨石器類の出土量が５割以上の比率があり特徴的である。このうち､長円礫の形状を呈し、鋭角の側縁に磨面を作るものがほとんどであり、手に握りやすい形状の礫を選択していると考えられる。これに比べ石皿は極端に少ない。これは摩耗度の少ない自然石を見逃している可能性があるかもしれない。

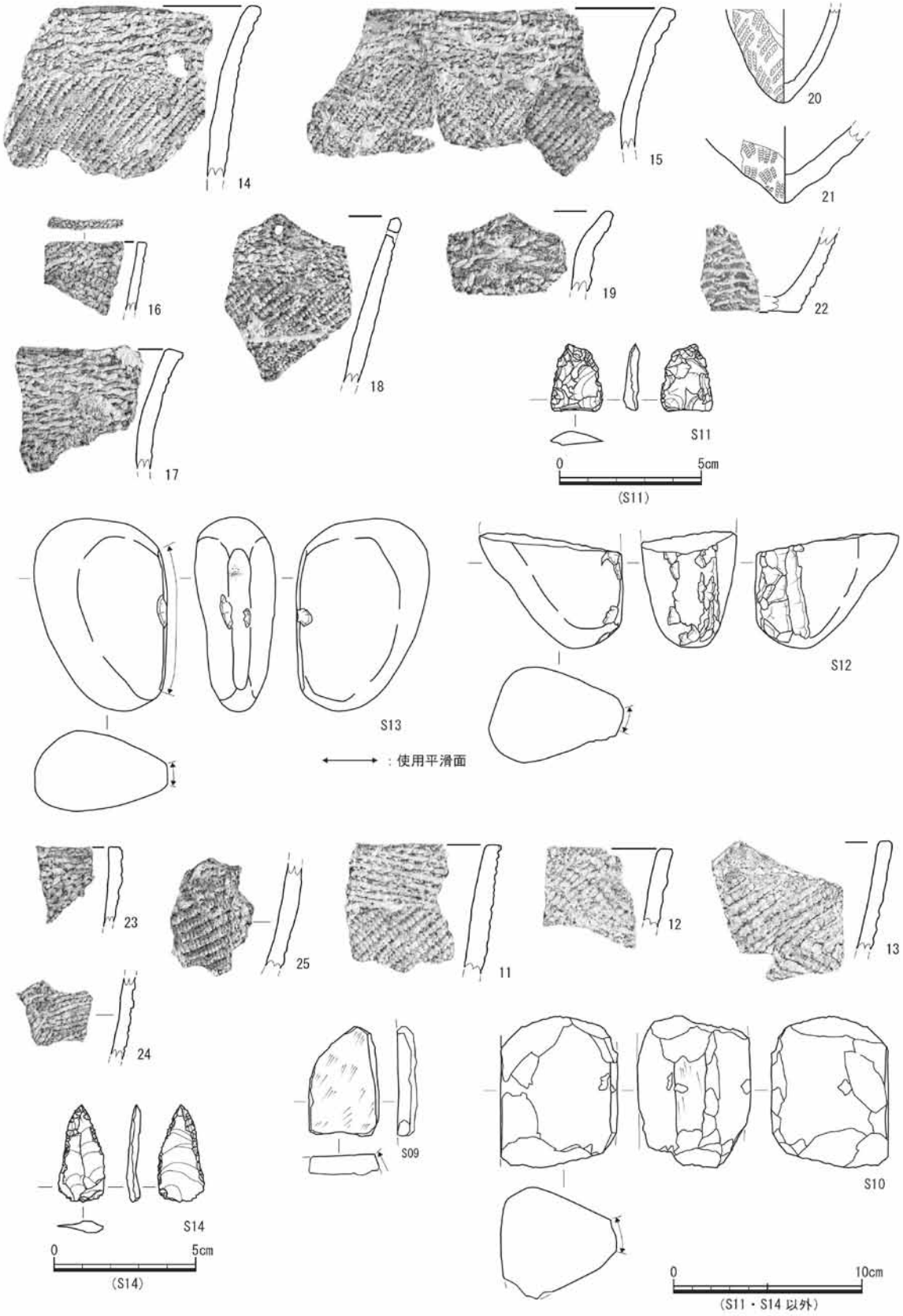
細石刃核は、現在まで三陸沿岸部をはじめとする東北地域では類例がなく、北海道地域との関係を検討する必要のある資料である。遺物の詳細な記述および投げかけられた問題については、別稿で詳細に検討する予定である。（篠宮）

【参考文献】

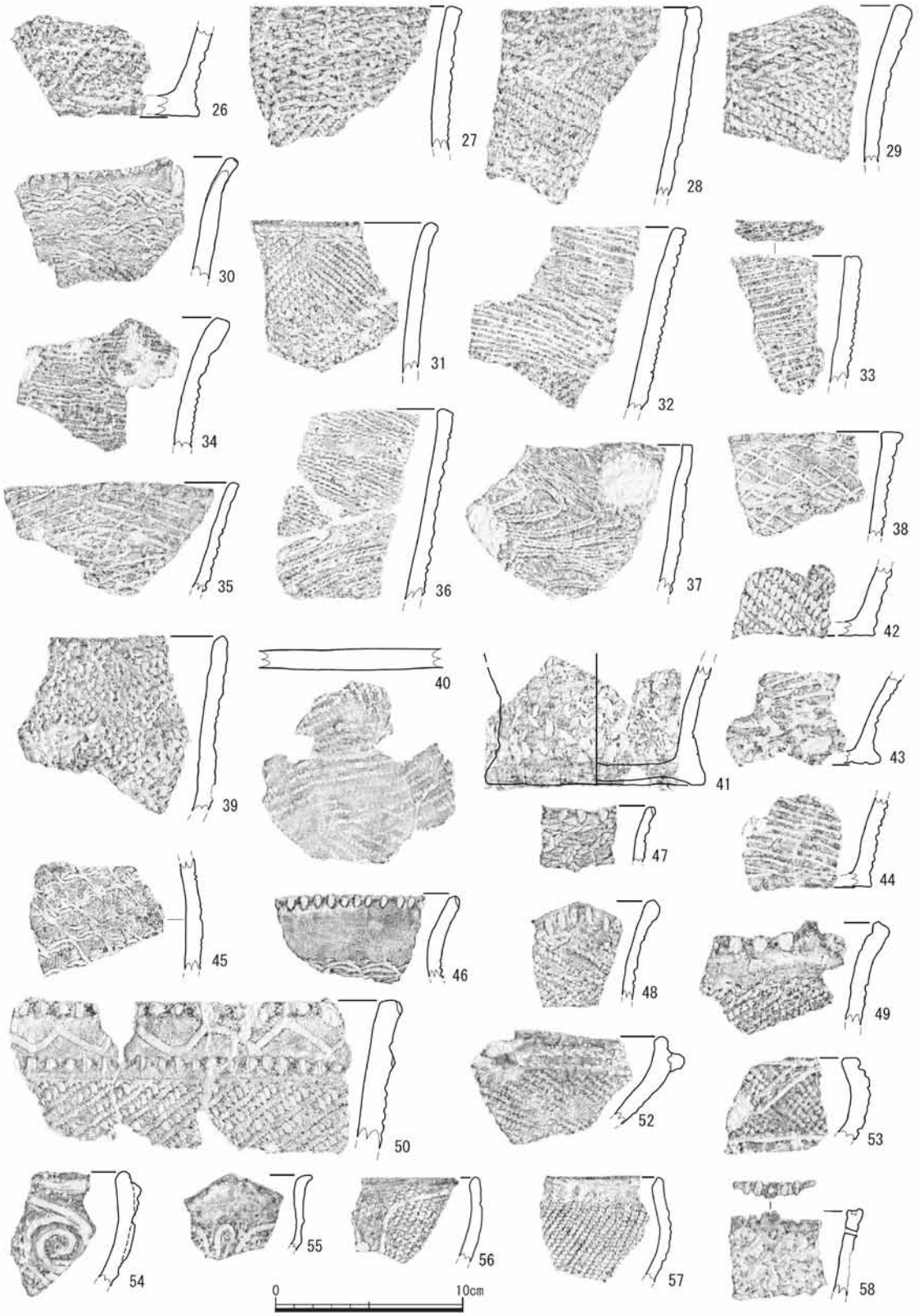
（公財）岩手県文化振興事業団　2014　「乙部遺跡」『平成25年度発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第630集


1
2
3
4
S01
S02
5
S03
6
S107
S04
：使用平滑面
0
5cm
（S01～S03・S107・S05・S06）
7
8
S07
9
10
S05
S06
S08
0
10cm
（1～10）
0
10cm
（S04・S07・S08）

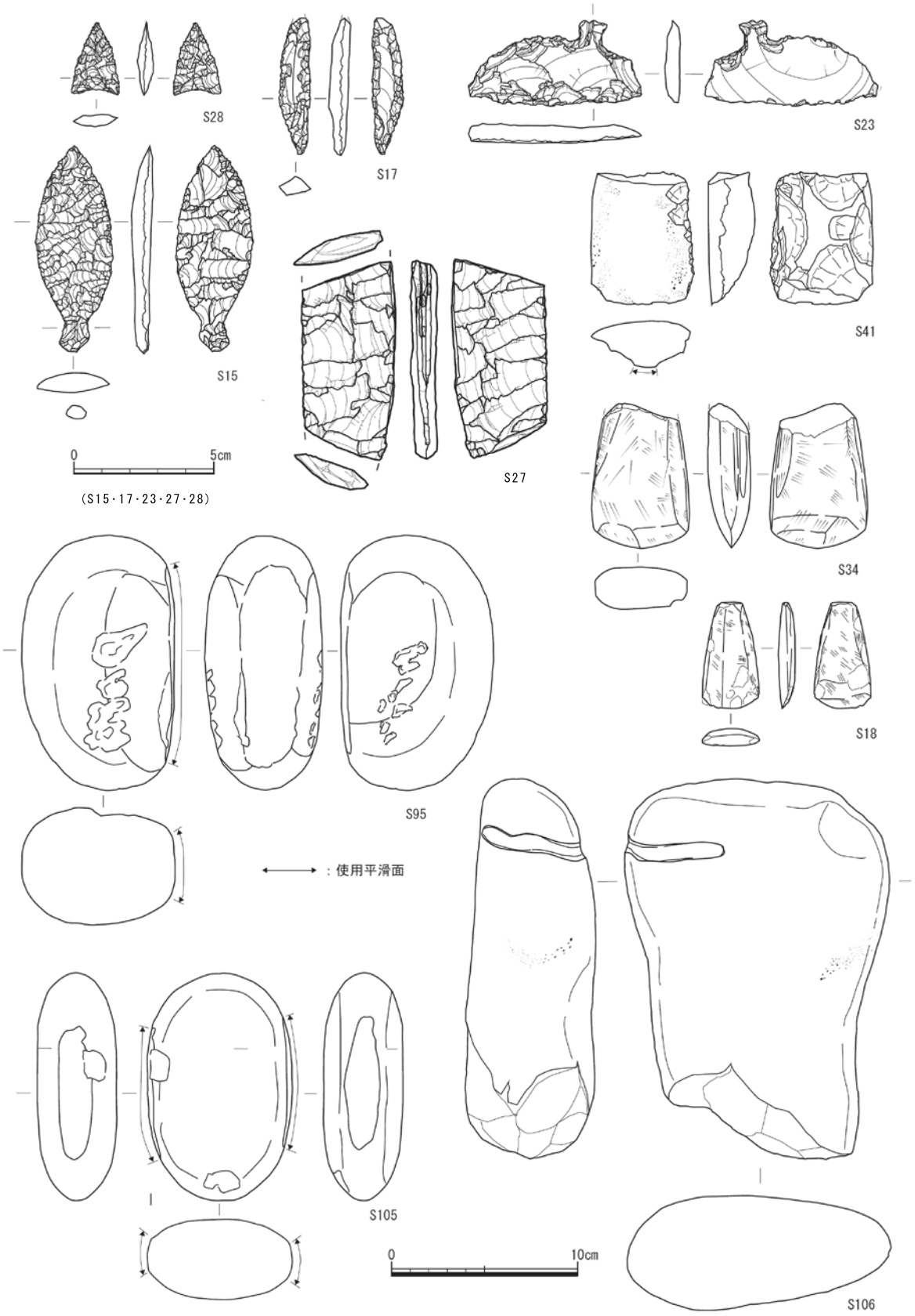
出土遺物実測図１


14
15
20
21
16
18
19
22
17
S11
0
5cm
(S11)
S13
S12
：使用平滑面
23
25
11
12
13
24
S09
S10
S14
0
5cm
(S14)
0
10cm
(S11・S14 以外)

出土遺物実測図２


26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
52
53
54
55
56
57
58
0
10cm

出土遺物実測図３


S28
S17
S23
S15
S27
S41
0
5cm
(S15・17・23・27・28)
S34
S18
S95
：使用平滑面
S105
0
10cm
S106

出土遺物実測図４

地区	面積(㎡)	土器合計(g)	土器密度	石器合計(g)	石器密度
A-1	23.5	472.0	20.1	2731.4	116.2
A-2	91.0	1790.0	19.7	1211.1	13.3
A-3	21.6	472.0	21.9	2100.3	97.2
B-1	18.0	607.8	33.8	1182.2	65.7
B-2	100.0	3228.8	32.3	37425.1	374.3
B-3	42.5	1021.1	24.0	2984.8	70.2
C-1	0.8	2.4	3.0	0.0	0.0
C-2	88.0	8234.0	93.6	5446.6	61.9
C-3	80.0	4689.0	58.6	5434.9	67.9
D-2	38.0	6068.0	159.7	9708.5	255.5
D-3	51.4	7467.0	145.3	17048.9	331.7
合計	554.8	34052.1	61.4	85273.8	153.7

遺物密度一覧

No.	地区	遺構等	器種	部位	形状他	分類
1	B-2	S01	深鉢	口縁部		9類
2	B-2	S01	深鉢	口縁部		11類
3	B-2	S01	深鉢	口縁部		11類
4	B-2	S01	深鉢	底部		11類
5		S04	深鉢	口縁部		2類
6		S04	深鉢	口縁部		6類
7		S04	深鉢	口縁部	波状	6類
8		S04	深鉢	口縁部	波状	2類
9		S05	深鉢	口縁部		2類
10		S05	深鉢			2類
11	B-3	S07	深鉢	口縁部		2類
12	B-3	S07	深鉢	口縁部		6類
13	B-3	S07	深鉢	口縁部	波状	2類
14	C-3	S08	深鉢	口縁部		2類
15	C-3	S08	深鉢	口縁部		2類
16	C-3	S08	深鉢	口縁部		2類
17	C-3	S08	深鉢	口縁部		2類
18	C-3	S08	深鉢	口縁部	波状	2類
19	C-3	S08	深鉢	口縁部	波状	2類
20	C-3	S08	深鉢	底部	尖	1類
21	C-3	S08	深鉢	底部	尖	1類
22	C-3	S08	深鉢	底部		2類
23	B-4	S11	深鉢	口縁部		2類
24	B-4	S11	深鉢			2類
25	B-4	S11P6	深鉢			6類
26	B-4	十和田中掫下層	深鉢	底部		6類
27	A-2	遺構外	深鉢	口縁部		2類
28	C-2	遺構外	深鉢	口縁部		2類
29	D-3	遺構外	深鉢	口縁部	波状	2類
30		遺構外	深鉢	口縁部	波状	2類
31	D-3	遺構外	深鉢	口縁部		2類
32	C-2	遺構外	深鉢	口縁部		6類
33	D-3	遺構外	深鉢	口縁部		6類
34	B-2	遺構外	深鉢	口縁部	波状	6類
35	D-2	遺構外	深鉢	口縁部		6類
36	B-1	遺構外	深鉢	口縁部		6類
37		遺構外	深鉢	口縁部		6類
38		遺構外	深鉢	口縁部		6類
39	C-2	遺構外	深鉢	口縁部		6類
40	D-3	遺構外	深鉢	底部	丸平	6類
41	D-3	遺構外	深鉢	底部		6類
42	C-3	遺構外	深鉢	底部		6類
43	D-2	遺構外	深鉢	底部		6類
44	D-3	遺構外	深鉢	底部		6類
45	C-3	遺構外	深鉢			3類
46	C-3	遺構外	深鉢	口縁部		4類
47	D-2	遺構外	深鉢	口縁部		4類
48	C-2	遺構外	深鉢	口縁部		4類
49	C-3	遺構外	深鉢	口縁部		4類
50	D-3	遺構外	深鉢	口縁部		5類
52		遺構外	浅鉢	口縁部		7類
53	A-2	遺構外	深鉢	口縁部		8類
54	D-2	遺構外	深鉢	口縁部		8類
55	T2	遺構外	深鉢	口縁部	2単位波状	10類
56	A-3	遺構外	深鉢	口縁部		11類
57	B-1	遺構外	深鉢	口縁部		11類
58	D-2	遺構外	深鉢	口縁部		12類

土器観察表

No.	地区	遺構等	器種	分類等	欠損	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
1	B-2	S01	石匙	縦		7.1	1.9	0.9	12.0
2	B-2	S01	石匙	縦		6.1	8.6	0.8	10.1
3	B-2	S04	尖頭器			7.5	2.4	1.1	17.1
4	B-2	S04	石皿		欠	8.5＋	8.5＋	2.8	322.1+
5	B-3	S05	石匙	縦		7.1	1.5	0.9	8.2
6	C-3	S05	有孔石製品		欠	2.9	2.6+	2.5	2.93+
7	C-3	S05	敲磨石器	側縁磨	欠	8.3＋	4.3	6.4	358.7+
8	C-3	S05	敲磨石器	磨石		11.5	10.1	5.5	997.9
9	C-2	S07	砥石		欠	6.8+	3.7+	1.1+	29.4+
10	C-2	S07	敲磨石器	側縁磨	欠	8.0+	6.0	6.2	430.8+
11	C-3	S08	石鏃未成品			2.4	1.8	0.6	2.2
12	C-3	S08	敲磨石器	側縁磨	欠	6.1＋	5.0	7.6＋	237.1+
13	C-3	S08	敲磨石器	側縁磨	欠	10.3	4.3	7.0	380.9+
14	C-2	S10	石鏃未成品			3.5	1.6	0.5	1.7
15	A-3	遺構外	尖頭器			7.3	2.7	1.8	14.1
16	B-3	遺構外	石鏃	凹基		2.4	1.4	0.4	1.0
17	B-3	遺構外	石錐			4.8	1.2	0.7	3.8
18	D-2	遺構外	磨製石斧			5.7	3.1	0.9	20.6
19	C-2	遺構外	磨製石斧		欠	8.4+	5.2	2.8	205.0+
20	C-2	遺構外	石鏃	凸基	欠	2.5+	1.4	0.6	1.89+
21	C-2	遺構外	石匙	横		2.9	5.2	0.6	2.4
22	B-2	遺構外	石匙	縦		5.9	2.2	0.7	8.8
23	A-2	遺構外	石匙	横		3.1	6.1	0.6	12.9
24	B-2	遺構外	磨製石斧		欠	5.9+	3.7+	1.7+	51.28+
25	B-2	遺構外	石匙	縦		7.0	2.6	0.8	12.3
26	B-3	遺構外	石鏃	平基		1.8	1.4	0.4	0.7
27	B-2	遺構外	細石刃核			7.1	3.3	0.9	28.7
28	B-2	S04	石鏃	凹基		2.6	1.6	0.6	1.6
29	C-2	S04	磨製石斧		欠	2.2+	2.1+	1.0+	3.87+
30	B-1	遺構外	磨製石斧		欠	2.5+	2.4+	0.6+	3.93+
31	C-3	遺構外	石鏃	平基		1.5	1.6	0.4	0.7
32	A-1	遺構外	石匙	縦		6.4	3.2	0.7	11.4
33	A-1	遺構外	石匙	横		3.5	3.5	0.9	7.4
34	A-1	遺構外	磨製石斧	擦切	欠	6.8+	5.2	2.3	154.2+
35	A-3	遺構外	磨製石斧		欠	4.1+	5.1+	1.4+	23.82+
36	B-2	遺構外	石鏃	平基		2.5	1.3	0.4	1.0
37	B-2	遺構外	石匙	縦		5.0	2.9	0.7	7.6
38	B-2	遺構外	楔	磨製石斧再加工		4.4	3.7	1.1	27.99+
39	B-3	遺構外	磨製石斧		欠	4.7+	4.6	1.2+	40.87+
40	C-2	遺構外	磨製石斧		欠	4.7+	3.8+	2.2+	52.94+
41	C-2	遺構外	スクレーパー		欠	7.3	5.5	2.6	126.3+
42	C-3	遺構外	石匙	縦		6.8+	2.1	1.1	15.6
43	D-3	遺構外	石鏃	平基		1.7	1.6	0.2	0.6
44	D-3	遺構外	砥石		欠	2.5+	3.5+	1.4+	14.6+
45	D-3	遺構外	磨製石斧	擦切	欠	3.7+	2.4+	0.9+	14.34+
46	D-3	遺構外	石匙	縦		3.7	2.2	0.7	4.0
47	D-3	遺構外	磨製石斧		欠	10.0+	6.4	2.6	229.6+
48		遺構外	磨製石斧		欠	9.1+	5.1+	2.1	161.6+
49		遺構外	尖頭器			8.1	2.6	1.1	22.0
50		遺構外	石匙	縦		3.8	1.7	0.9	5.3
51		遺構外	石匙		欠	2.3+	2.4+	1.3+	5.32+
52		遺構外	石鏃	凹基		2.4	1.8	0.4	1.1
53		表採	楔	磨製石斧再加工		3.0	2.8	0.9	11.4
54	A-1	遺構外	敲磨石器	側縁磨		13.2	5.7	8.6	964.7

No.	地区	遺構等	器種	分類等	欠損	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
55	A-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲1		11.4	3.4	4.1	248.9
56	A-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨	欠	7.1+	4.8	6.2+	225.1+
57	B-1	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲1		12.3	4.5	6.0	449.0
58	B-1	遺構外	敲磨石器	側縁磨	欠	10.7+	5.5	8.7	720.5+
59	B-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨	欠	9.2+	5.3	7.6	537.8+
60	B-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲1		12.5	6.4	8.4	942.2
61	B-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨		10.9	4.1	7.2	468.2
62	B-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨	欠	10.9+	4.6	5.7	407.4+
63	B-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨	欠	4.4+	1.8+	3.9+	26.1+
64	B-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲2		17.5	5.2	7.8	1101.5
65	B-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲(1)	欠	8.5+	5.7+	7.4+	336.6+
66	B-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲(1)	欠	6.9+	3.6	6.7+	238.3+
67	B-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲2		14.7	5.2	8.8	1000.2
68	C-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨	欠	9.3+	6.4	8.4	518.3+
69	C-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨	欠	8.6+	7.8	7.6	824.8+
70	D-2	遺構外	石皿		欠	22.9+	16.5+	4.9	2432.9＋
71	D-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨		14.8	4.2	7.0	583.8
72	D-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨		9.3	4.4	5.9	339.5
73	D-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨		14.0	6.1	7.8	963.8
74	D-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲(1)	欠	13.6+	5.7	7.1	885.6+
75	D-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨	欠	9.6+	4.7+	5.7+	285.7+
76	D-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨	欠	11.1+	4.9	5.9	518.9
77	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨		14.8	5.5	7.0	824.2
78	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲1		16.3	7.4	8.7	1093.0
79	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨	欠	7.8+	5.4	9.5	565.2+
80	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲2		12.5	5.7	6.7	716.2
81	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲1		15.1	4.6	6.7	789.9
82	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨		9.3	4.6	6.2	416.1
83	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲1		15.0	6.7	7.5	1123.4
84	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨		16.3	4.8	7.7	1028.6
85	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲2		13.8	5.9	7.0	786.7
86	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨	欠	14.7	6.2	7.8+	1032.5＋
87	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨		11.9	6.1	7.5	618.1
88	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲1		12.2	4.3	6.9	482.9
89	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨		10.9	5.7	7.8	564.3
90	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲1		11.3	6.3	7.2	538.5
91	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲1	欠	13.5+	5.1	8.1	715.3+
92	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲(1)	欠	6.0+	5.2+	5.2+	164.8+
93	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨		14.6	7.4	9.9	1196.1
94	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲1		14.3	4.8	6.5	650.4
95	D-3	遺構外	敲磨石器	側縁磨		13.5	6.2	8.1	965.9
96		遺構外	敲磨石器	側縁磨	欠	5.6+	4.9	7.2	264.9+
97		遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲(1)	欠	9.2+	5.8+	8.1+	547.3+
98	A-2	遺構外	敲磨石器	側縁磨		15.5	5.3	8.7	1039.8
99		遺構外	敲磨石器	側縁磨		13.3	6.7	9.3	1133.2
100		遺構外	敲磨石器	側縁磨		14.5	6.0	8.5	1075.1
101		遺構外	敲磨石器	側縁磨		15.1	4.4	6.3	628.4
102		遺構外	敲磨石器	側縁磨＋端敲2		18.5	4.7	9.0	1194.7
103		遺構外	敲磨石器	側縁磨	欠	12.1+	4.8	6.2	517.5+
104	試掘東地区	表採	敲磨石器	側縁磨＋端敲2		15.3	5.5	9.2	1175.8
105	試掘西地区	表採	敲磨石器	磨石側縁磨2		12.7	7.6	4.2	609.0
106	A-1	遺構外	石棒か？			40.7+	28.4	13.9	22000＋
107		S04	石匙	横					11.3+

調査地全景（東から）

S01・S04・S05　竪穴住居跡（北から）

S02　土坑（南から）

S03　土坑（北から）

S01　竪穴住居跡（検出状況）

S01　竪穴住居跡（北東から）

S09　集石遺構（西から）

S04　竪穴住居跡（南から）

調査区全景（南東から）

S09　竪穴住居跡（南から）

S11　竪穴住居跡　北側壁土層堆積状況

S07　土坑（北から）

S12　土坑（南から）

Ｓ11　竪穴住居跡（東から）

Ｓ11　竪穴住居跡　Ｐ１平面・断面

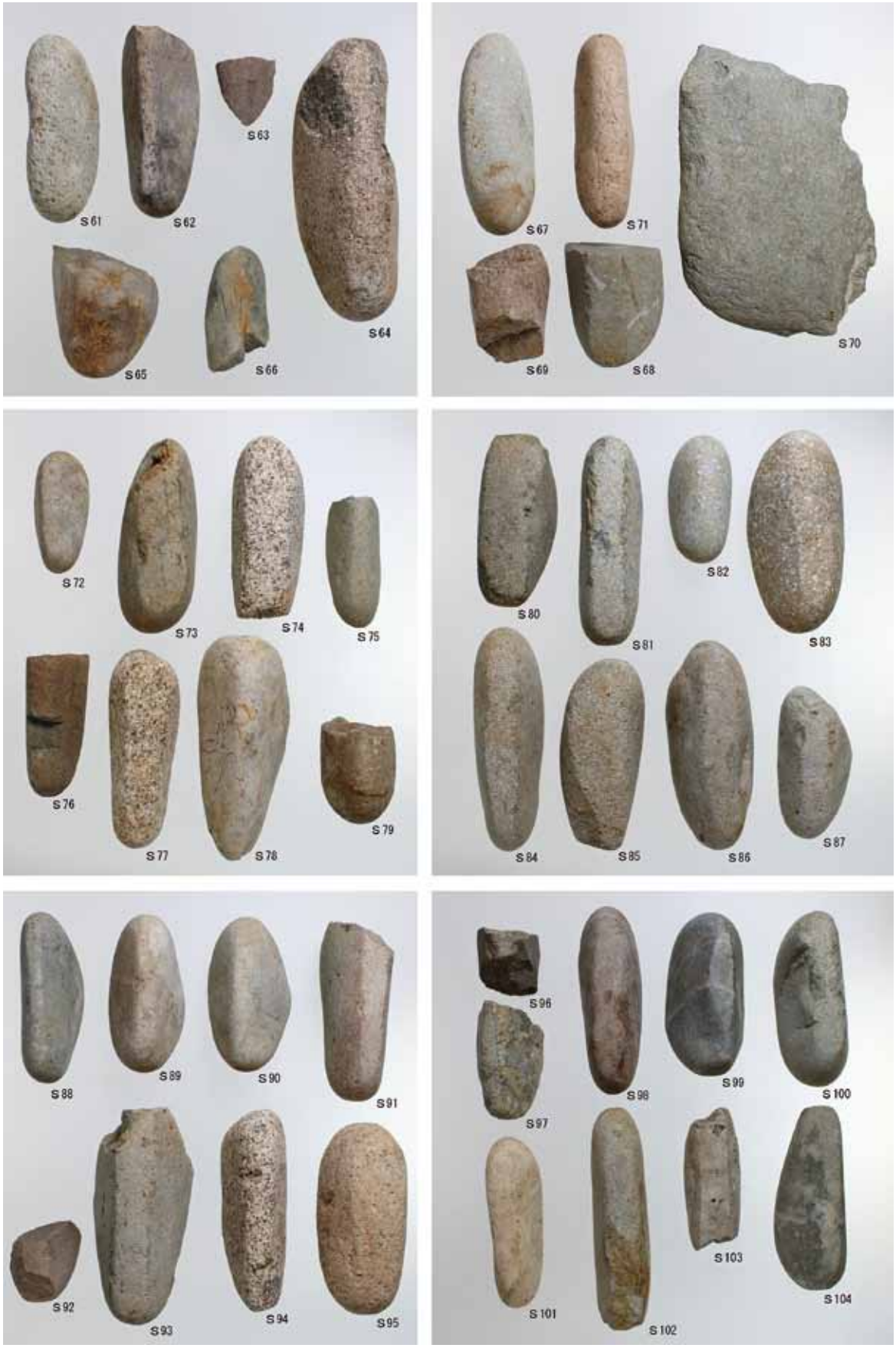
Ｓ11　竪穴住居跡　Ｐ２平面・断面

5
8
7
6
9
10
23
24
25
11
13
12
26
14
15
17
18
19
16
22
21
20
27
28
29
30
31
45
46
47
48
49
41
32
33
34
35
39
50
36
44
43
42
40
1
2
3
4
52
53
54
55
56
57
58

出土遺物 1

S 6
S 4
S 8
S 9
S 7
S 12
S 13
S 10
S 35
S 45
S 39
S 29
S 30
S 18
S 48
S 38
S 24
S 53
S 44
S 19
S 34
S 47
S 41
S 28
S 2
S 11
S 14
S 1
S 5
S 3
S 26
S 16
S 31
S 43
S 52
S 36
S 20
S 15
S 49
S 37
S 46
S 50
S 25
S 42
S 22
S 32
S 51
S 21
S 23
S 33
S 17
S 27
S 106
敲磨石器類集合

出土遺物２


S61
S62
S63
S64
S65
S66
S67
S68
S69
S70
S71
S72
S73
S74
S75
S76
S77
S78
S79
S80
S81
S82
S83
S84
S85
S86
S87
S88
S89
S90
S91
S92
S93
S94
S95
S96
S97
S98
S99
S100
S101
S102
S103
S104

出土遺物３

12　三陸沿岸道路（山田～宮古）

荷竹日影（にちくひかげ）Ⅱ遺跡

（LG63-0280：旧可能性あり２・機能補償道路）

【所 在 地】　宮古市津軽石第15地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成27年10月13日（火）
　　～28日（火）

【調査面積】　250㎡

【調査結果】　調査地は、ＪＲ山田線津軽石駅の南西約3.2㎞、津軽石川支流七田川右岸にある丘陵の標高90ｍ前後を測る北向き緩斜面に位置する。北東へ約700ｍ離れた丘陵上には、平成25・26年度に当該事業関連で（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが調査を実施した荷竹日影Ⅰ遺跡（LG63-0231：縄文時代～中世）が所在する。

荷竹日影Ⅱ遺跡 位置図

岩手県教育委員会が平成27年３月10日（火）に行った試掘調査で、竪穴住居跡と考えられる遺構を検出したため、当該事業地に係る約250㎡について本調査が必要と判断された。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　黒色土　　層厚５～15㎝（表土）

Ⅱ層　暗褐色土　層厚15～80㎝（Ⅰ層との漸移層）

Ⅲ層　暗褐色土　層厚10㎝

Ⅳ層　淡褐色土　層厚20㎝（遺物包含層・遺物は下部でわずかに出土）

Ⅴ層　黒褐色土　層厚10㎝（遺物包含層が一部のみ残存・炭化物を多く含む）

Ⅵ層　黄褐色土～黄褐色シルト　層厚不明（遺構検出面・風化花崗岩・地山）

遺物包含層はⅤ層であるが、多くは削平され調査区北東部分の一部で遺存していた。Ⅳ層下部でわずかにみられた遺物は、Ⅴ層からの浮き上がりである可能性も考えられる。包含層内の出土遺物はおもに須恵器と鉄器で、遺構内の出土遺物もほぼ同様である。

遺構はⅥ層（黄褐色土～黄褐色シルト・地山層）の上面で検出した。竪穴住居跡が２棟、住居状遺構２基、土坑２である。このうち竪穴住居跡（遺構１）と大型円形土坑１-ｂは重複しており、切り合いの状況から１-ｂは後出の可能性が考えられる。

遺構は調査区の北東部に固まって検出され、深度が１ｍを超えるものもあるが、大半は上面が削平されて構築当初の深度は遺存していない可能性が高い。また、北東部の遺構は調査区の外に延びているが、北東方向に向かって尾根が延びており、傾斜が緩やかになっている。この状況から、北東方向

へさらに遺構が存在している可能性がある。

出土遺物は埋土中に包含するものが多く、遺構内底部付近から出土したものは極めて少ない。

以下に、遺構・遺物の順に詳述する。

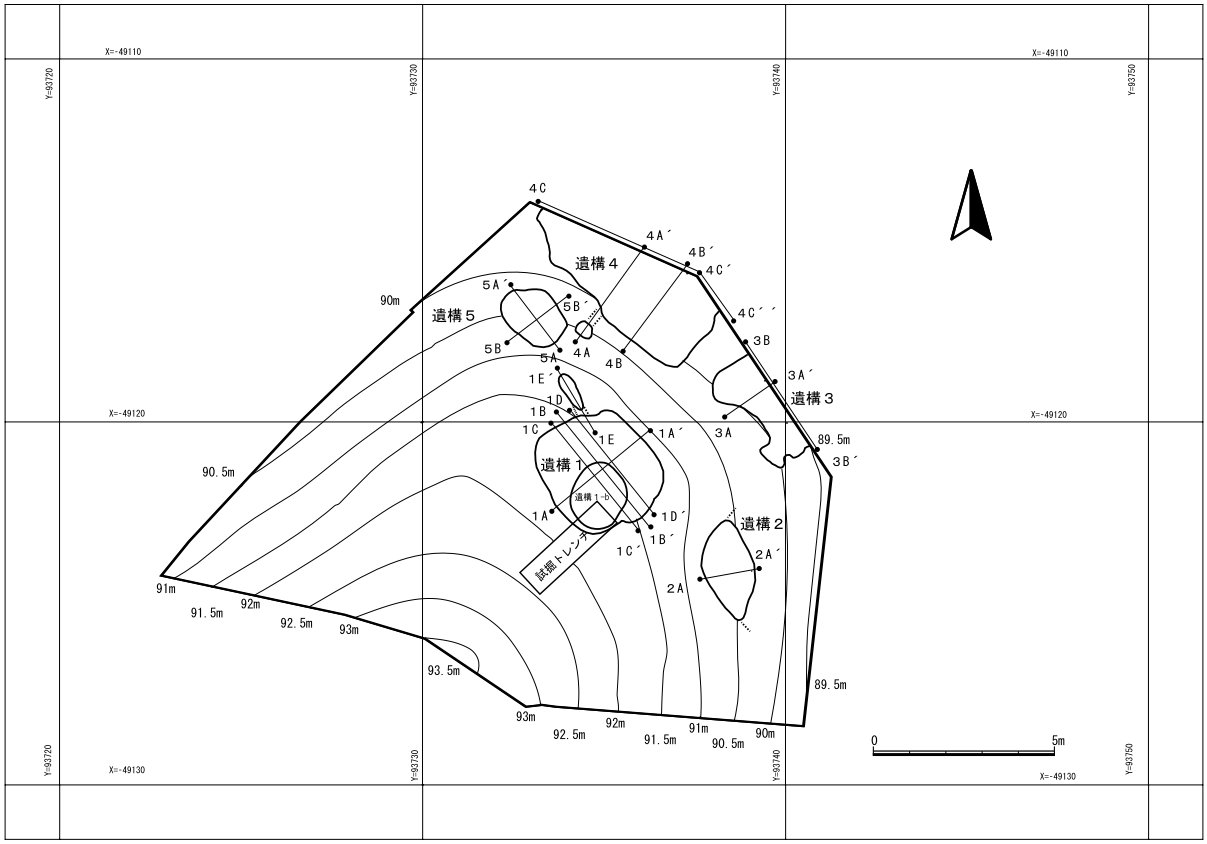
遺構１は竪穴住居跡で、調査区のほぼ中央で検出した。平面規模は約3.3m×3.1m、検出面からの最大深度は約1.15mを測る。北側にはカマドを有するが、煙道部分のほとんどは崩落している。焚口には焼土痕があり、炭化物が検出された。

床面では大型円形土坑１-ｂ、円形土坑、不定形土坑をそれぞれ１基ずつ検出した。大型円形土坑は前述のとおり、遺構１とは切り合い関係の可能性があり、後出のものと考えられる。遺構内からは、フイゴの羽口と木製品が出土した。

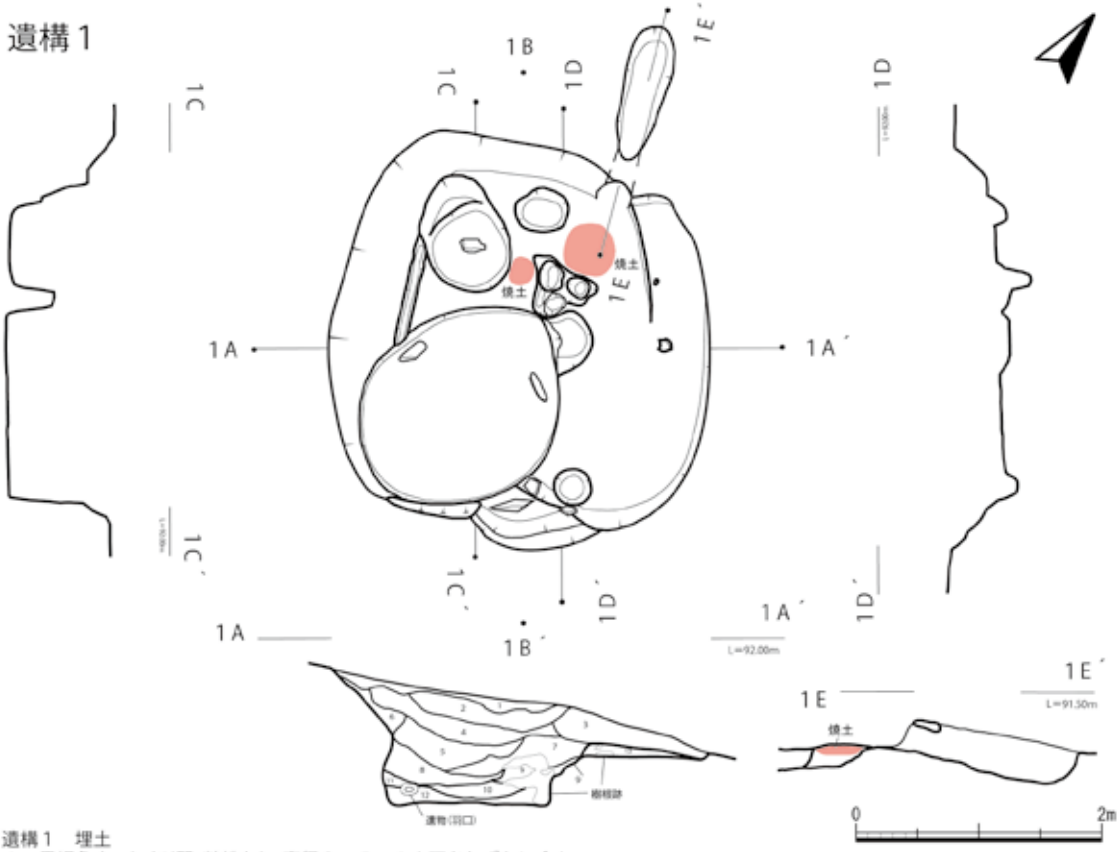
円形土坑からは、金床石が出土している。植林されていた杉の根によって、若干の撹乱がみられたが、良好な状態で残存していた。また、不定形土坑と円形土坑の間に存在する焼土周辺から、粒状滓が出土していることも合わせると、本遺構内で小鍛冶が行われていたことが推測される。

床面では上記のほかに、主柱穴とみられるピット２基と壁帯溝を検出している。

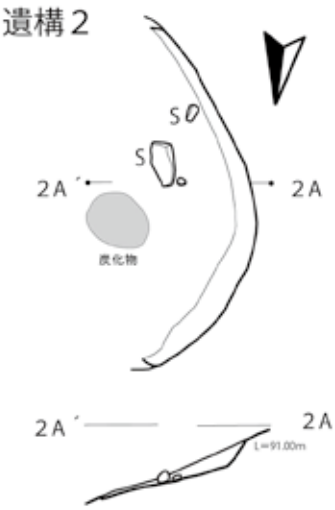
遺構２は、平面形は土坑状であるが、調査地が斜面地であることから、本来の遺構が傾斜に沿って削平されたことによって南西部分が遺存し、本来は方形を呈していたものと推測されることから、竪穴住居状遺構とした。平面規模は約2.9m×1.4m、検出面からの最大深さ約0.2mを測る。床面の東側で炭穴と金床石が出土している。

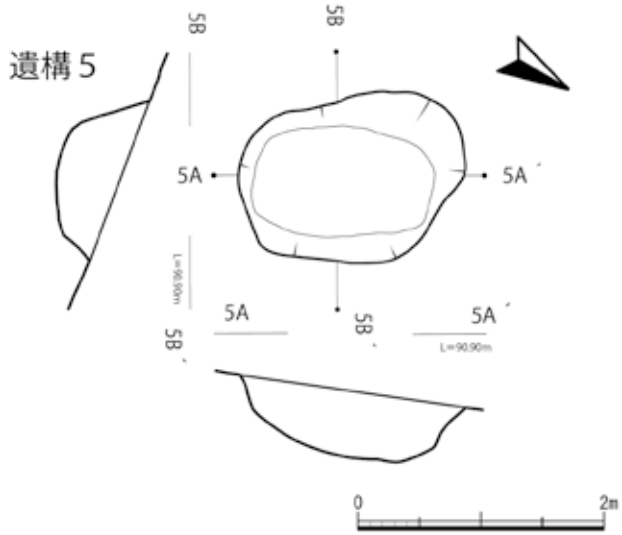


荷竹日影Ⅱ遺跡　遺構配置図

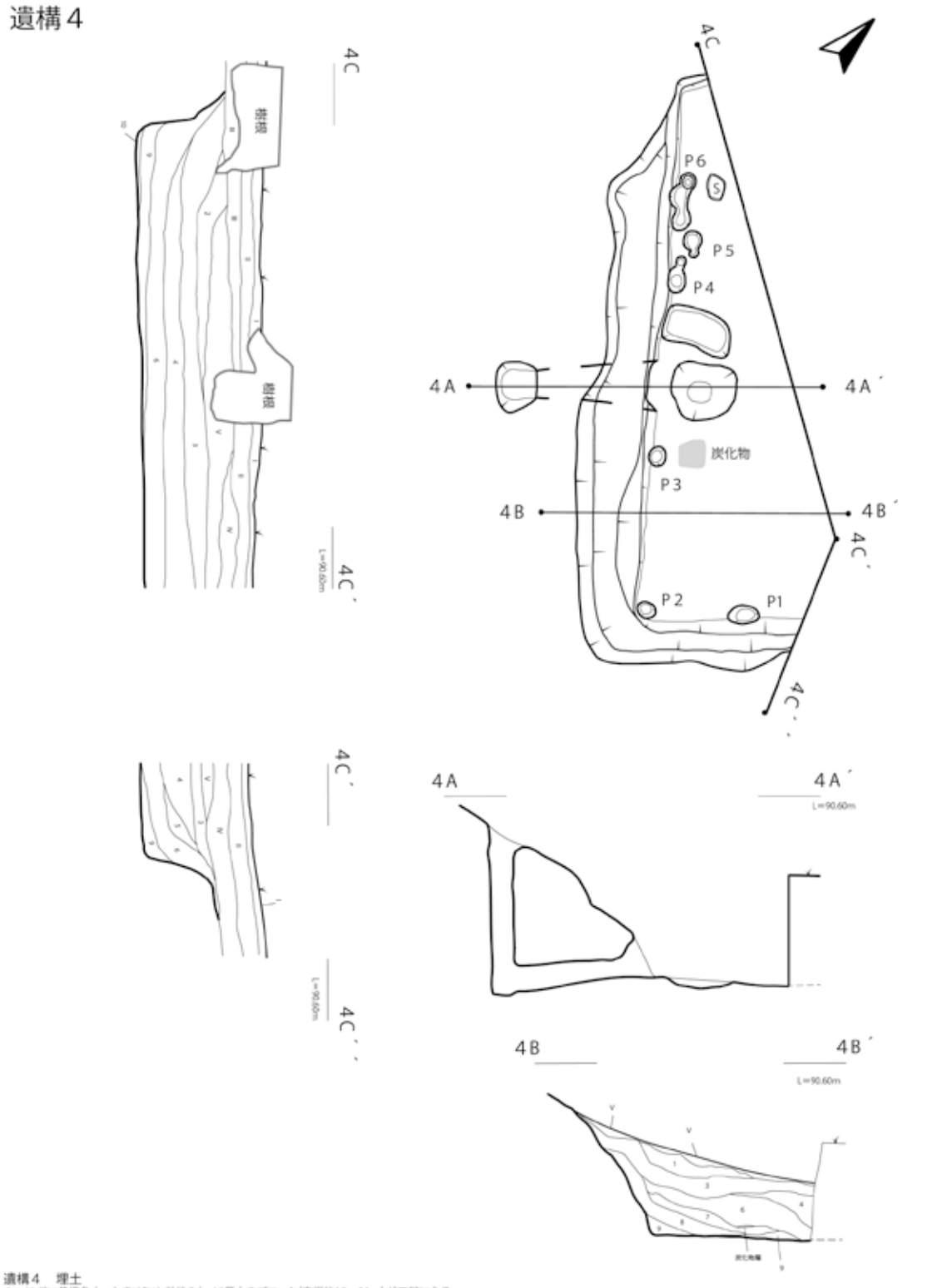


遺構１　埋土
1　黒褐色土　しまり弱・粘性なし。直径２～５㎜の小石をわずかに含む
2　灰黄褐色土　しまり弱・粘性なし。直径５～20㎜の小石を若干含む。直径１～２㎜の炭化物をわずかに含む
3　黒褐色土　しまり弱・粘性弱
4　にぶい黄褐色土　しまり弱・粘性なし。直径５～20㎜の小石を若干含む。直径１～２㎜の炭化物をわずかに含む
5　灰黄褐色土　しまり弱・粘性なし。直径５～20㎜の小石を若干含む。直径１～２㎜の炭化物をわずかに含む
6　にぶい黄褐色土とにぶい黄橙色の混土　しまり弱・粘性なし。壁面からの崩落土。
7　黒褐色土　しまり弱・粘性なし。直径１～２㎜の小石を若干含む。直径２～３㎜の炭化物をわずかに含む
8　灰褐色土　しまり弱・粘性なし。にぶい黄橙色土のブロック（直径約５～20㎜）が多く混入する。本遺構の埋土の中で最もしまりが弱く、混入土が多い。
9　黒色土　しまりやや弱・粘性なし。直径２～10㎜の炭化物を含む
10　黒褐色土　しまり弱・粘性弱。直径５～10㎜の小石を若干含む。直径１～２㎜の炭化物をわずかに含む
11　暗灰黄褐色土　しまり弱・粘性なし。直径２～３㎜の炭化物をわずかに含む
12　褐色土　しまり弱・粘性なし。白色鉱物（直径約１㎜）をわずかに含む
13　灰黄褐色土　しまりなし・粘性なし。本来の貼床





遺構１・２・５　遺構平面・断面図



遺構４　埋土
1　にぶい黄橙色土　しまりあり・粘性なし。Ⅵ層土のブロック（直径約10～20mm）が下部に入る
2　にぶい黄褐色土　しまりあり・粘性なし。直径２～３mmの炭化物をわずかに含む
3　灰黄褐色土　しまりあり・粘性なし。Ⅵ層土のブロック（直径約10～20mm）が入る。直径２～３mmの炭化物を下部に若干含む
4　暗灰黄褐色土　しまりあり・粘性弱。Ⅵ層土のブロック（直径約20～30mm）が入る。直径１～２mmの炭化物を多く含む
5　にぶい黄褐色土　しまりあり・粘性なし。直径２～３mmの炭化物をわずかに含む
6　にぶい黄橙色土　しまりあり・粘性なし。Ⅵ層土に類似。
7　にぶい黄褐色土　しまりあり・粘性なし。直径２～３mmの炭化物をわずかに含む
8　灰白色土　しまりあり・粘性なし。Ⅵ層土に類似　直径２～３mmの炭化物をわずかに含む
9　灰黄褐色土　しまり弱・粘性なし。Ⅵ層土のブロック（直径約50～100mm）が入る。直径１～２mmの炭化物をわずかに含む
10　にぶい黄橙色土　しまり弱・粘性なし。Ⅵ層土に類似。
※　Ⅰ～Ⅴは基本土層

遺構４　遺構平面・断面図

遺構３は竪穴住居状遺構である。平面規模は約3.15m×1.3mで、検出面からの最大深さ約0.12mを測る。床面でピットと焼土をそれぞれ２箇所ずつ検出した。特に、北東側の突出部に関しては、焼土にも近接するため、カマドの可能性も考慮して調査したが、明確にはすることができなかった。遺構周辺から大型釘が出土している。

遺構４は竪穴住居跡で、本調査区で最大の遺構である。平面規模は約5.85m×2.5mで、検出面からの深さ約0.8mを測る。西側にはカマドを有する。床面では、カマドの焚口とみられる土坑や炭化物層、壁面に沿う形で並ぶピットなどを検出した。鉄関連遺物も数点出土しており、碗形滓・無茎鏃・棒状鉄製品などが出土した。特にカマド煙道部分は良好に残存しており、地下でL字形に屈曲し、垂直方向と水平方向は1.6m程度であった。

遺構５は土坑である。平面規模は約1.85m×1.3mで、検出面からの最大深さ約0.6mを測る。底面は平坦ではなく窪む。遺物の検出はなかった。

出土遺物は中コンテナ４箱分であった。ここではこのうち９点を実測し、実測遺物を含む15点について写真撮影を行った。

№１・２・11は土師器の甕である。この中で、№１は底部付近まで残存しており、ほぼ完形の状態に復元することができた。口縁部は上面観が楕円形であり、かつ花弁状を呈する。№２も花弁状口縁である。

№３・10は土師器の甕である。№３は底部で木葉痕が残る。

№４は鞴の羽口で、被熱痕からみて装着角度は45～50°と想定される。ただし、被熱痕の角度にばらつきがみられるので装着角度には誤差を含む。

№５は木製品の一部で、樋もしくは箱形の容器の可能性がある。

№６～９は鉄製品である。№６は五角形を呈する無茎の腸抉鏃で、中央付近に孔を２つ有する。№８は細形の棒状鉄製品で、釣針の可能性がある。

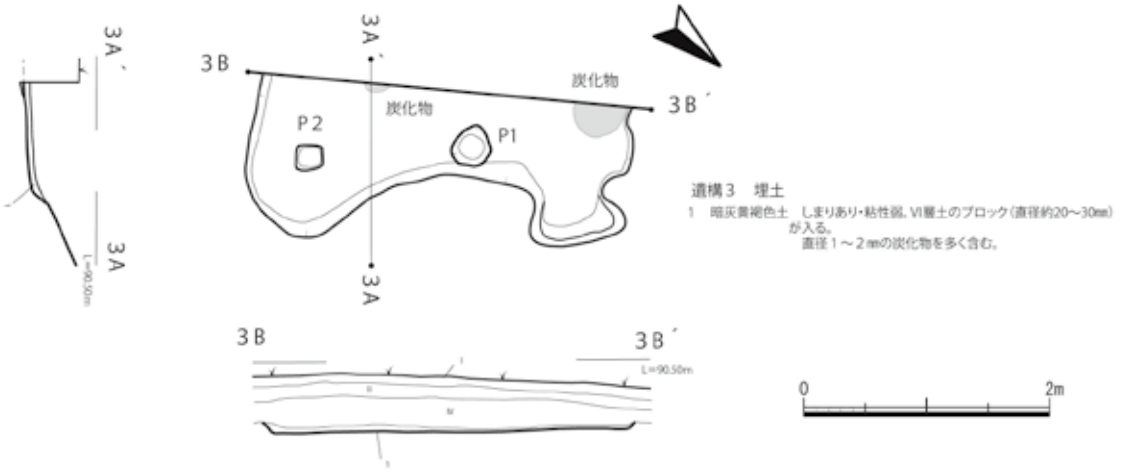
№13～15は金床石で、いずれもわずかな敲打痕や炭化物の付着が観察される。

【まとめ】

調査の結果、荷竹日影Ⅱ遺跡は平安時代（９～10世紀頃）を中心とする遺跡と判明した。

周辺でも、平成27年度上半期には、遺跡の北端部を県埋文が調査を実施している。その際には、ほぼ同時期の竪穴住居跡や鍛冶関連遺構・遺物を検出しているが、今回の調査の成果も同様のものといえよう。粒状滓を伴う焼土痕や金床石、碗形滓、そして鉄鏃・釘等の製品も出土していることから、これらの遺構は鍛冶に関連するものであると考えられる。遺構外からの出土はごく少数であった。

遺構は調査地点外に延び、周辺に竪穴建物跡と考えられる窪みが存在することなどから、遺跡は尾根全体に広がることが推測される。（上床）



遺構３　遺構平面・断面図

荷竹日影Ⅱ遺跡検出ピット　一覧表

遺構名	pitNo.	最大径（cm）	最小径（cm）	深さ（cm）	形状	備考
遺構３	1	33	32	7	円形	
遺構３	2	22	21	39	方形	
遺構４	1	30	17	8	楕円形	
遺構４	2	19	15	9	円形	
遺構４	3	20	16	10	円形	
遺構４	4	36（13）	16（9）	15（10）	双円形	小形の方が深い
遺構４	5	25（19）	17	20	双円形	
遺構４	6	56（17）	19（16）	18	３連	北端のものが最も深い

※　断面図が作成できなかった遺構に限って本表に掲載した
※　深さは床面からの数値である
※　いずれも柱痕跡は確認していない

荷竹日影Ⅱ遺跡出土遺物　一覧表

番号	遺物	器種・部位	出土地点	大きさ（cm）	重量（g）
1	土師器	甕・口縁部～底部	遺構１		
2	土師器	甕・口縁部～胴部	遺構１		
3	土師器	甕・底部	遺構１		
4	鞴の羽口		遺構１－b	23.7×10.1	1,870
5	木製品	樋もしくは箱状か	遺構１－b	26.9×4.8	114
6	鉄鏃	無茎鏃	遺構４	5.9×2.8	10
7	大型釘		遺構４	8.2×2.2	60
8	針形鉄製品	釣針か	遺構４	4.1×１	2
9	棒状鉄製品	釘か	遺構４	7.6×1	12
10	土師器	甕・口縁部	遺構１		
11	土師器	甕・口縁部	遺構１		
12	碗形滓		遺構４	11.3×7.9、厚1.6	488
13	金床石		遺構２	34.4×17.2、厚11.2	9,500
14	金床石		遺構１	42.2×14、厚8.4	6,100
15	金床石		遺構４	19.5×17.5、厚4.8	19.5

遺構・遺物観察表

調査前状況

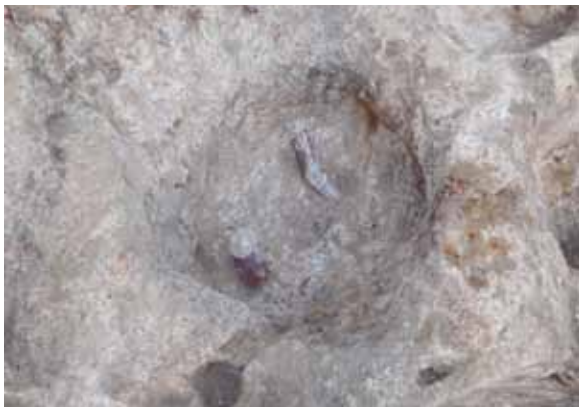
重機掘削

人力掘削

遺構１～５　検出状況

遺構１　検出状況

遺構１　土層堆積状況



遺構１　床面検出土坑及び粒状滓検出状況

遺構１　完掘状況

遺構２　完掘状況

遺構３　土層堆積状況

遺構３　完掘状況

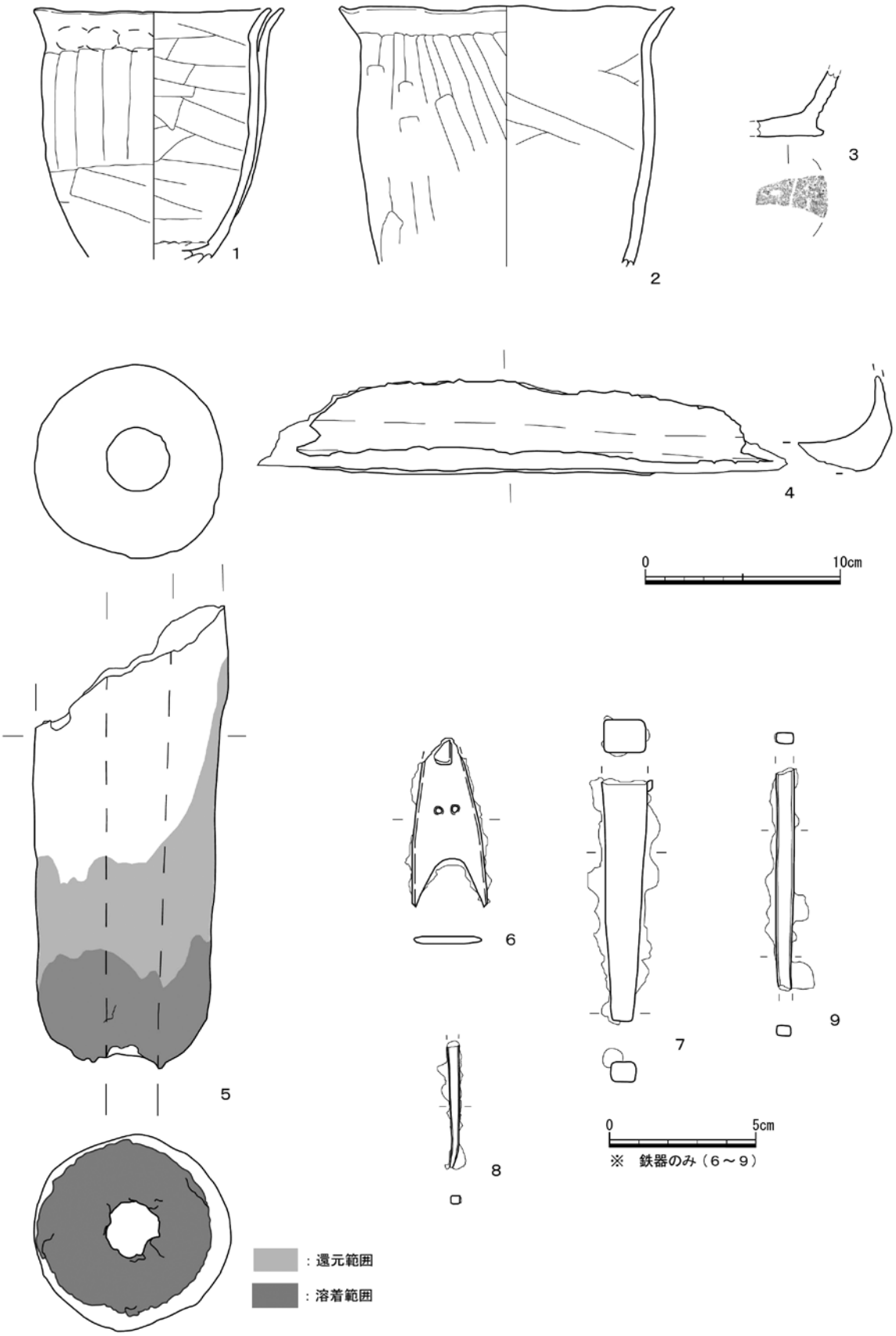
遺構４　土層堆積状況

遺構４　完掘状況

遺構４　カマド焚口検出状況

遺構４　カマド断ち割り状況

調査終了状況



遺物実測図

出土遺物

13　宮古盛岡横断道路（宮古～箱石）

腹帯（はらたい）Ⅳ遺跡

（LG40-2030：新規発見 旧可能性あり６）

【所 在 地】　宮古市腹帯第４地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

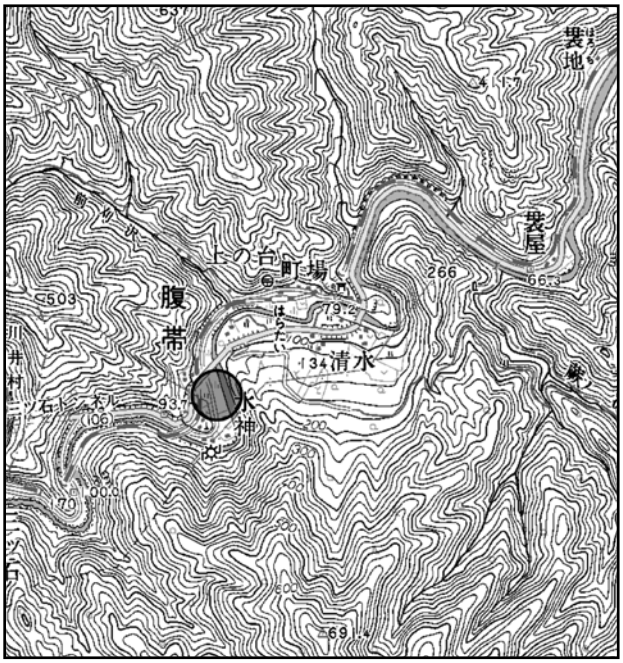
【調査期日】

（試　掘）平成27年７月16日（木）

（本調査）平成27年８月24日（月）
　　～９月４日（金）

【調査面積】　100㎡（本調査）

【調査結果】　調査地は、ＪＲ山田線腹帯駅から南南西へ約0.5kmに所在し、閉伊川左岸の浸食作用により形成された谷部の河岸段丘面上に立地する。南へ約0.3kmに腹帯Ⅲ遺跡（LG40-1099）、北東へ約0.4kmの対岸に腹帯Ⅰ遺跡（LG40-1092）及び宮古市指定史跡の腹帯配石遺構群（LG40-1094）が所在する。



腹帯Ⅳ遺跡 位置図

調査に至る経緯は、平成27年７月16日（木）に可能性あり６として、対象面積5,810㎡にトレンチ11本を設定し試掘調査を実施した結果、約2,500㎡で竪穴住居跡や土坑、遺物包含層などの遺構を確認したことによる。遺構は市道腹帯線をほぼ境界として西側に展開していた。東側は閉伊川の氾濫原となり、遺構・遺物とも確認できなかった。また、当地区は周知遺跡の範囲には含まれず、新発見の遺跡であったことから腹帯Ⅳ遺跡として登録された。

このうち設計の見直し等により本調査が必要となったのは、市道の付替えに伴う仮設道路の掘削範囲約100㎡である。飛地のため南側をⅠ区、北側をⅡ区とした。

本調査区における基本層序は以下のとおりである。

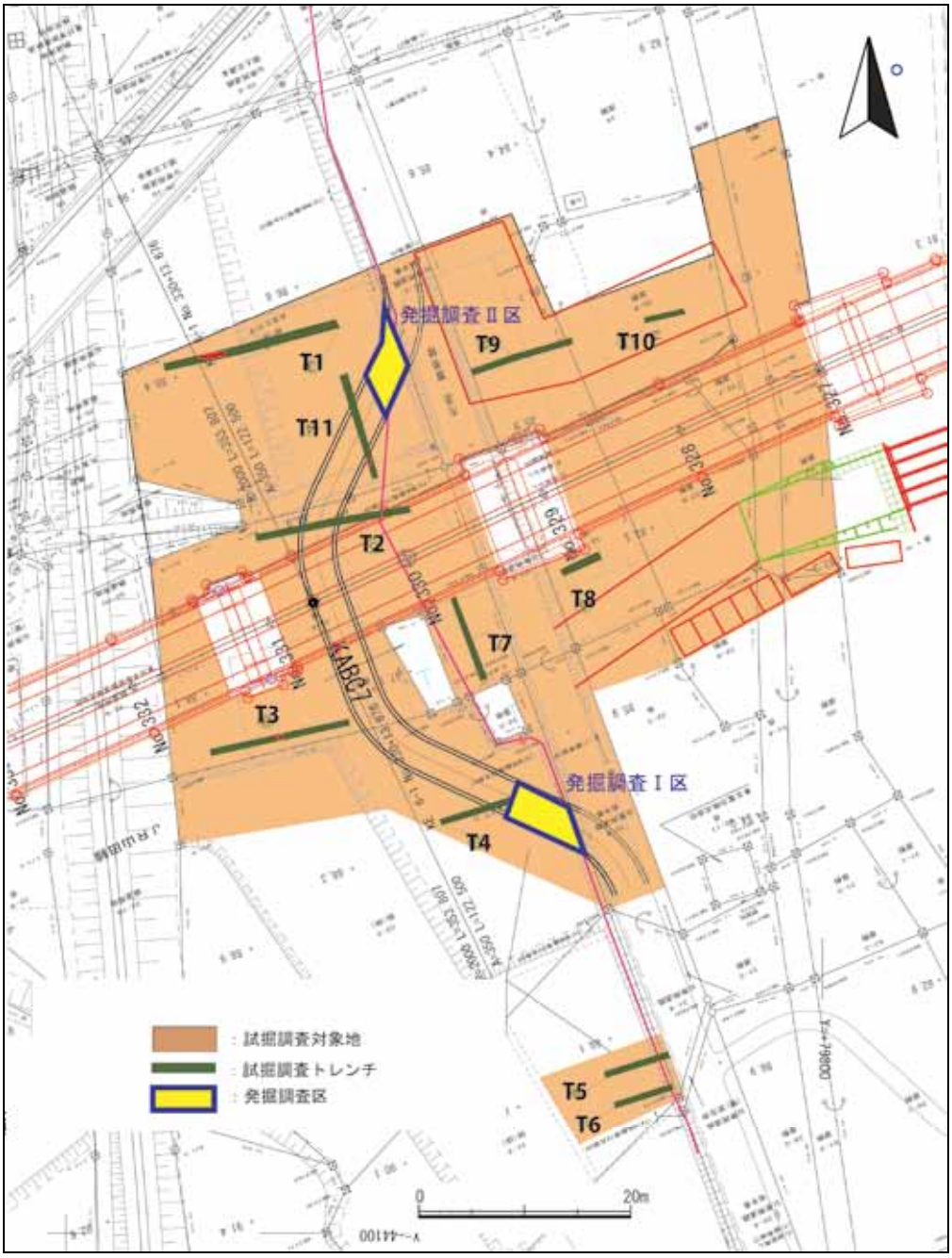
Ⅰ層	表土	層厚50～70cm（耕作土）
Ⅱ層	灰黄褐色土	層厚５～20cm（旧表土）
Ⅲ層	暗褐色土	層厚０～30cm（遺物包含層。土器・石器を含み全体に希薄）
Ⅳ層	オリーブ褐色土	層厚10～20cm（遺構検出面）
Ⅴ層	黒褐色土	層厚５～10cm
Ⅵ層	灰黄褐色土	層厚５～10cm
Ⅶ層	にぶい黄橙色土	層厚５～10cm（十和田中掫火山灰がブロック状に存在）
Ⅷ層	黒褐色土	層厚５～10cm
Ⅸ層	暗オリーブ褐色砂	層厚不明（基盤層・地山）

【遺構の概要】

［Ⅰ区］

Ⅰ区では、縄文時代中期末～後期の土坑７基を検出した。いずれもⅣ層上面からの検出である。径１ｍ前後の円形あるいは長方形の形状をした土坑が中心で、集石土坑や土器を埋設した状況が確認できた。

また、一部拡張した部分で焼土を伴う竪穴住居跡と考えられる遺構の一部を検出したが、工事による掘削影響範囲外であるため、一部の平面検出にとどめた。遺構検出面下層は谷になっており、十和田中掫火山灰が堆積していた。

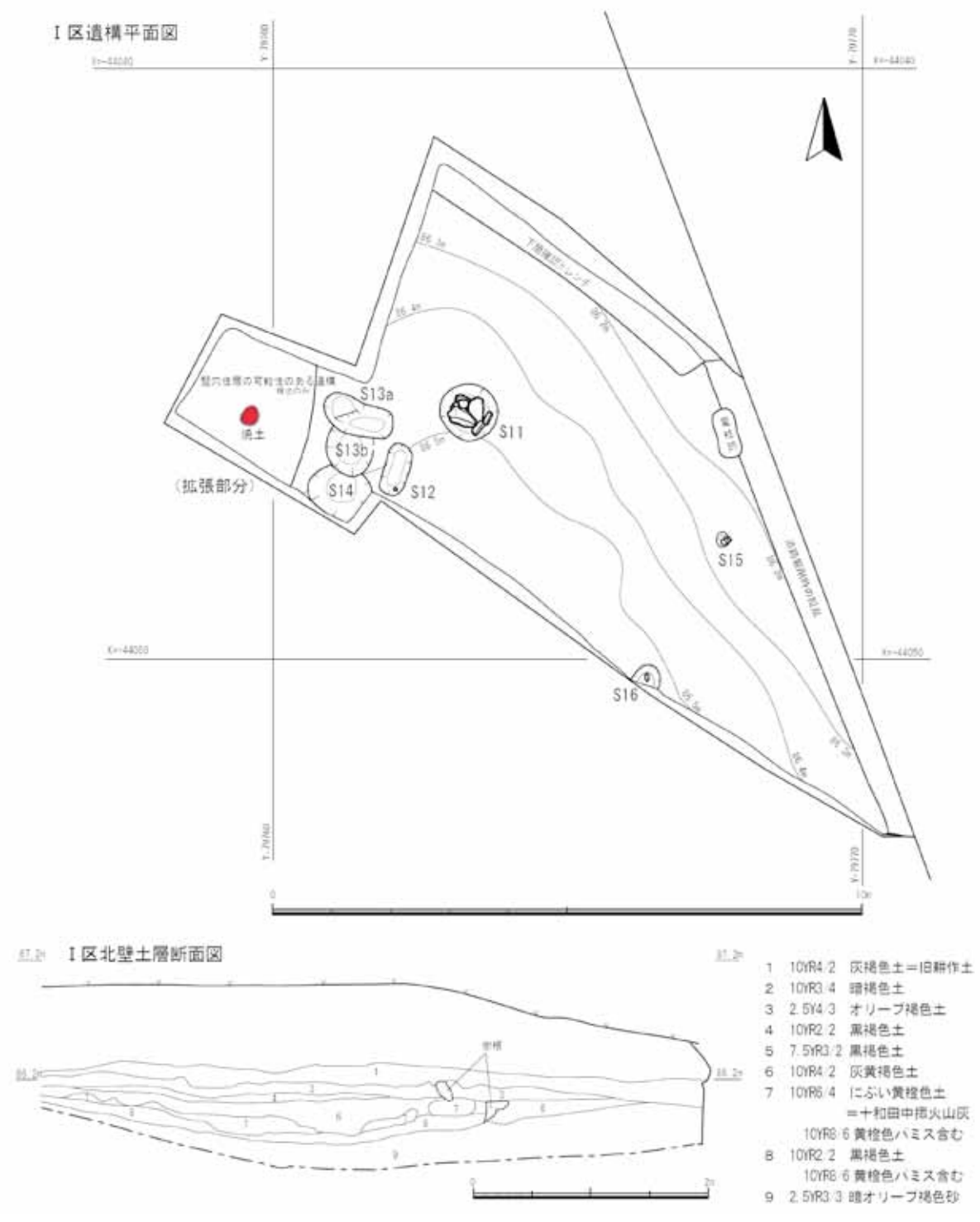


腹帯Ⅳ遺跡　調査位置図

Ⅱ区で遺構は検出されなかったが、南側の一部に包含層が残存しており、縄文土器や石器等の遺物が出土した。北側部分は、遺物包含層は残存していなかった。

Ｓ11土坑

調査区のほぼ中央に位置する。径0.85m前後の円形の土坑で、主軸方位はＮ－36°－Ｗで、時期の確定はできなかった。



Ⅰ区　遺構平面・断面図

Ｓ12土坑

調査区の中央やや西寄り、Ｓ11土坑の南西１ｍに位置する。隅丸長方形の土坑で、主軸方位はＮ－13°－Ｅを示す。残存深度は約0.15ｍである。埋土中から縄文中期中頃と思われる土器２点が出土したが、１点は細片であった。

Ｓ13ａ・13ｂ・14土坑

調査区西隅に位置する３基の土坑の切り合いである。北から順にＳ13ａ・13ｂ・14とした。Ｓ13は隅丸長方形の土坑で北に位置し、最も新しい遺構と考えられる。主軸方位はＮ－81°－Ｗを示し、残存深度は約0.4ｍである。遺構面確認中に縄文中期後半頃の土器が出土した（№２）。Ｓ13ｂはＳ13ａの南に位置し、楕円形の土坑と考えられる。遺構面確認中に縄文時代後期の十腰内式土器片が出土した（№３）。Ｓ14は調査区南東端に位置する土坑で、Ｓ13ｂに切られている。遺構面確認中に縄文時代後期の十腰内式土器片１点と、縄文時代晩期前半頃の土器片１点が出土した（№４・５）。この３基の土坑は遺構検出状況から考えると、Ｓ13ａ→Ｓ13ｂ→Ｓ14となるが、出土遺物から見ると逆の様相を示している。このことから、出土遺物はいずれも流れ込み、あるいは遺構検出面での出土から、遺構上面に堆積した包含層からの出土と考えられる。

Ｓ15土坑

調査区東端に位置する土坑である。確認面での残存径は0.2ｍ前後の円形で、深度も0.1ｍ程度であり残りは悪い。しかし、土坑内には深鉢の胴部から底部にかけての破片が確認された。深鉢は、縄文時代中期の大木10式と思われる（№６）。

Ｓ16土坑

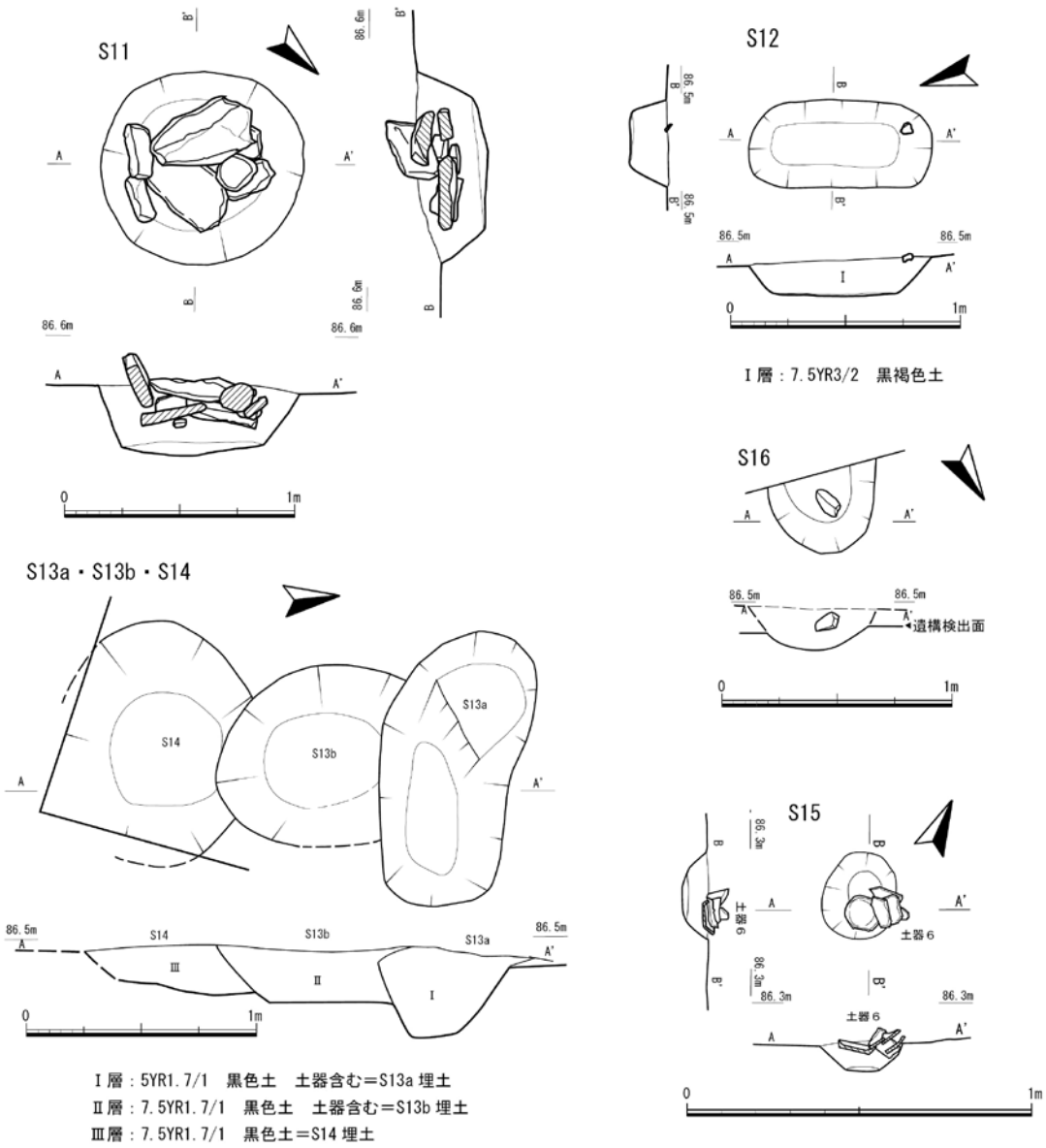
調査区東壁で確認された土坑であり、残り半分は調査区外となる。確認深度は約0.17ｍで楕円形を呈すると思われる。遺物の出土はなく時期は不明である。

Ｓ17住居状遺構

調査区西端で確認された遺構（Ｓ13ａ）の全容を確認するために、拡張した地区で確認された遺構である。遺構検出の結果、住居跡と思われるラインと焼土を確認した。なお、遺構検出中に数点の縄文土器を検出した。このうち２点を図示（№７～９）している。時期は縄文時代中期頃の深鉢と思われる。当遺構は、工事による削平は受けないため、検出にとどめて遺構の掘り下げは行なわず、現地保存としている。

［Ⅱ区］

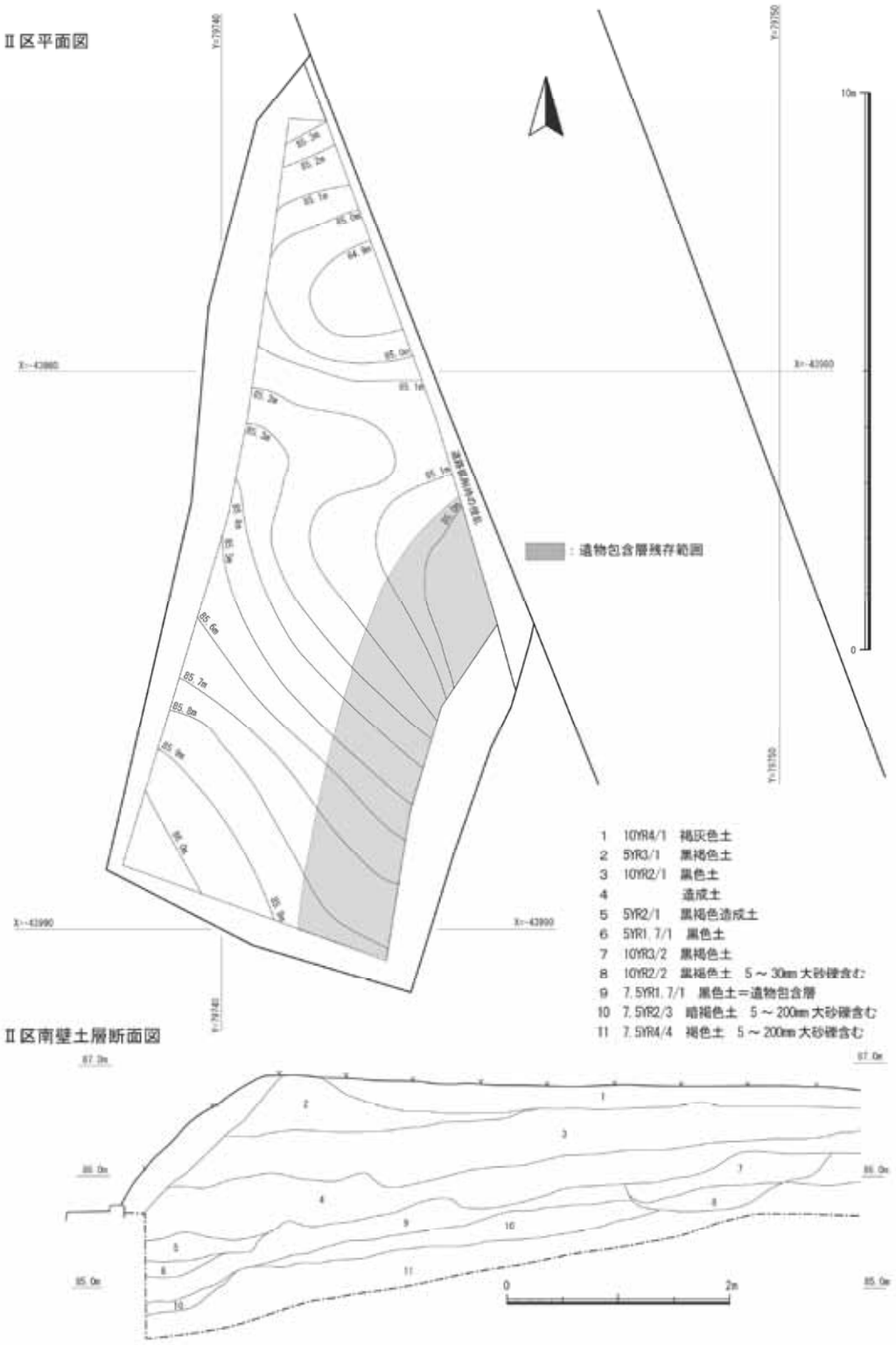
Ⅱ区は、南西から閉伊川に向かって流れ込む谷状の流路部分にあたると考えられる。このため、明確な遺構は検出されなかったが、流路によって形成された黒色土の堆積層が確認された。この堆積層の中に、数点の縄文土器が出土した。図示できるのは２点（№12・13）で、縄文時代中期～晩期頃の土器片と思われる。



●土坑（略号：SK）

遺構番号	平面形状	残存規模（m）			主軸方位	出土遺物	時　期	備　考
		上部(長軸×短軸)	底部(長軸×短軸)	深度				
S-11	円形	0.87×0.85	0.60×0.57	0.32	N-36°-W	礫	不明	集石遺構
S-12	隅丸長方形	0.79×0.38	0.55×0.18	0.15	N-13°-E	土器	縄文時代中期末	土器2点出土
S-13a	隅丸長方形	1.2×0.55	0.58×0.23	0.40	N-81°-W	土器	縄文時代中期末	
S-13b	楕円形？	?×0.79	?×0.41	0.20	N-9°-E	土器	縄文時代中期末	SK-03に切られる
S-14	円形？	不明	0.49×0.48	0.21	N-9°-E	—	不明	SK-04に切られる
S-15	円形	0.25×0.21	0.11×0.1	0.08	N-20°-W	土器	縄文時代中期末	土器埋納？
S-16	楕円形？	不明	不明	0.17	N-24°-E	—	不明	調査区外へ

遺構平面・断面図および遺構観察表


Ⅱ区平面図
：遺物包含層残存範囲
1 10YR4/1 褐灰色土
2 5YR3/1 黒褐色土
3 10YR2/1 黒色土
4 造成土
5 5YR2/1 黒褐色造成土
6 5YR1.7/1 黒色土
7 10YR3/2 黒褐色土
8 10YR2/2 黒褐色土 5～30mm大砂礫含む
9 7.5YR1.7/1 黒色土＝遺物包含層
10 7.5YR2/3 暗褐色土 5～200mm大砂礫含む
11 7.5YR4/4 褐色土 5～200mm大砂礫含む
Ⅱ区南壁土層断面図

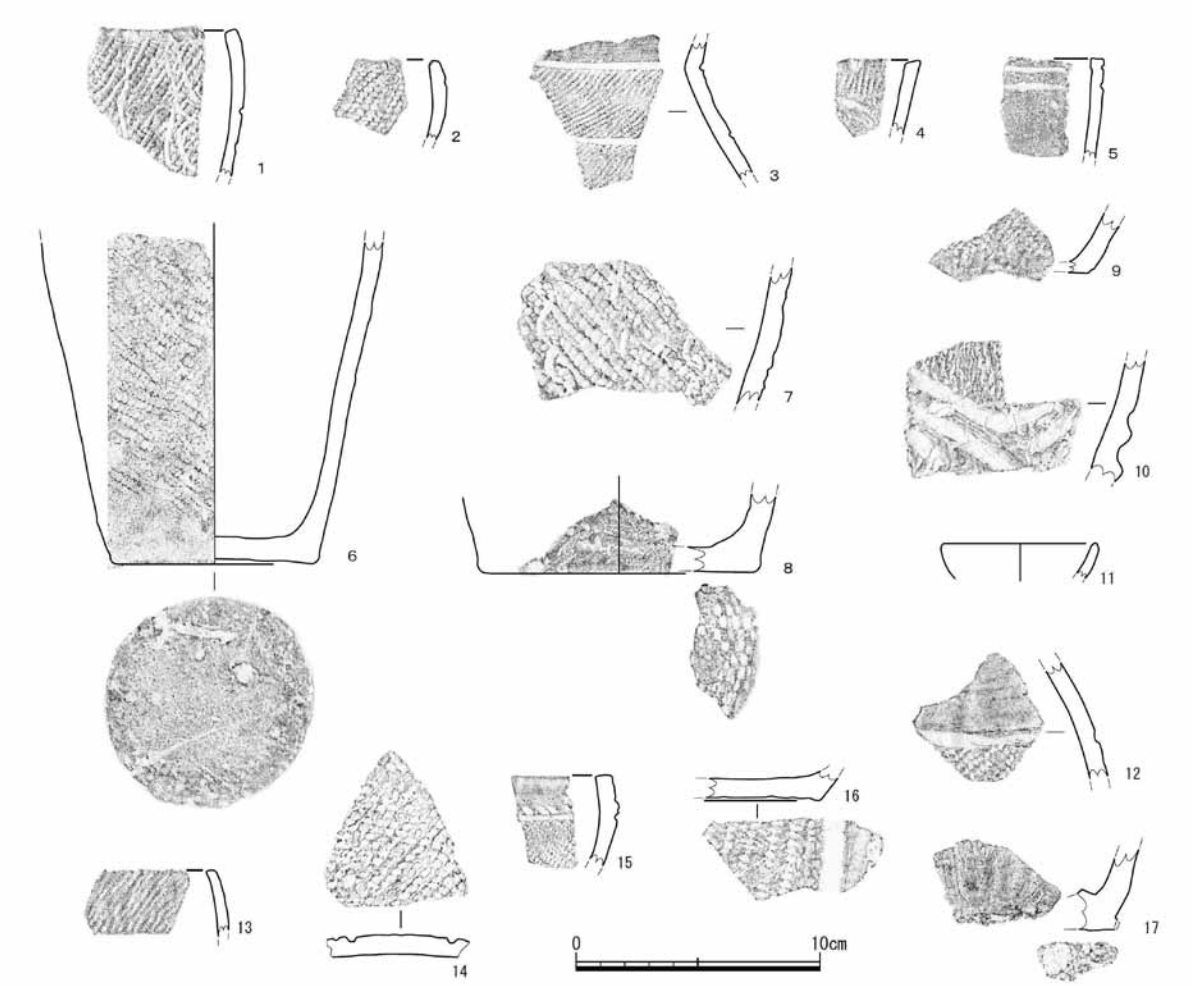
Ⅱ区　遺構平面・断面図

【出土遺物】

№１～11がＩ区出土である。№１はＳ12出土の鉢の口縁部破片で縄文時代中期後葉、大木９式の土器である。№２はＳ13ａ出土の鉢の口縁部破片で、縄文時代中期後半頃と思われる。№３・４はＳ14出土で、縄文時代後期の十腰内式土器破片である。№５もＳ14出土の土器片で、晩期前半頃と思われる。№６はＳ15出土の深鉢の破片で、全体の1/2が残る。時期は縄文時代後期のものと思われる。№７・８はＩ区拡張区Ｓ17出土の深鉢胴部破片で、縄文時代中期頃と思われる。№９もＩ区拡張区出土の破片である。№10～11はＩ区一括資料である。№12・13はⅡ区出土の一括資料である。№12は中期、№13は晩期頃の土器片と思われる。№14～17は試掘調査で出土した縄文土器片である。№14はＴ１竪穴住居跡埋土内からの出土で、中期後半頃の深鉢を転用した土製品と思われる。№15・16はＴ４包含層から、№17はＴ９からの出土である。

【まとめ】

当該地区一帯は、閉伊川によって形成された河岸段丘の肥沃な土地であるとともに、平坦地の少ない当地域から見れば、比較的広範に開けた土地である。このため、縄文時代に人々が定住した状況も納得がいく。今後周辺地の開発にあたっては、周知の埋蔵文化財包蔵地以外であっても、未周知の遺跡が存在する可能性が高いことから、事前の協議が必要と考えられる。（友岡）



出土遺物実測図

調査前状況（北から）

試掘調査時遺構検出状況（西から）

調査状況（手前Ⅱ区）

Ⅰ区　遺構検出状況（東から）

SK01　石検出状況（北東から）

SK01　完掘状況（北東から）

SK02　完掘状況（東から）

SK03～05　完掘状況（東から）

SK06　検出状況（北から）

SK07　検出状況（北から）

Ⅰ区　中撫火山灰確認状況（東から）

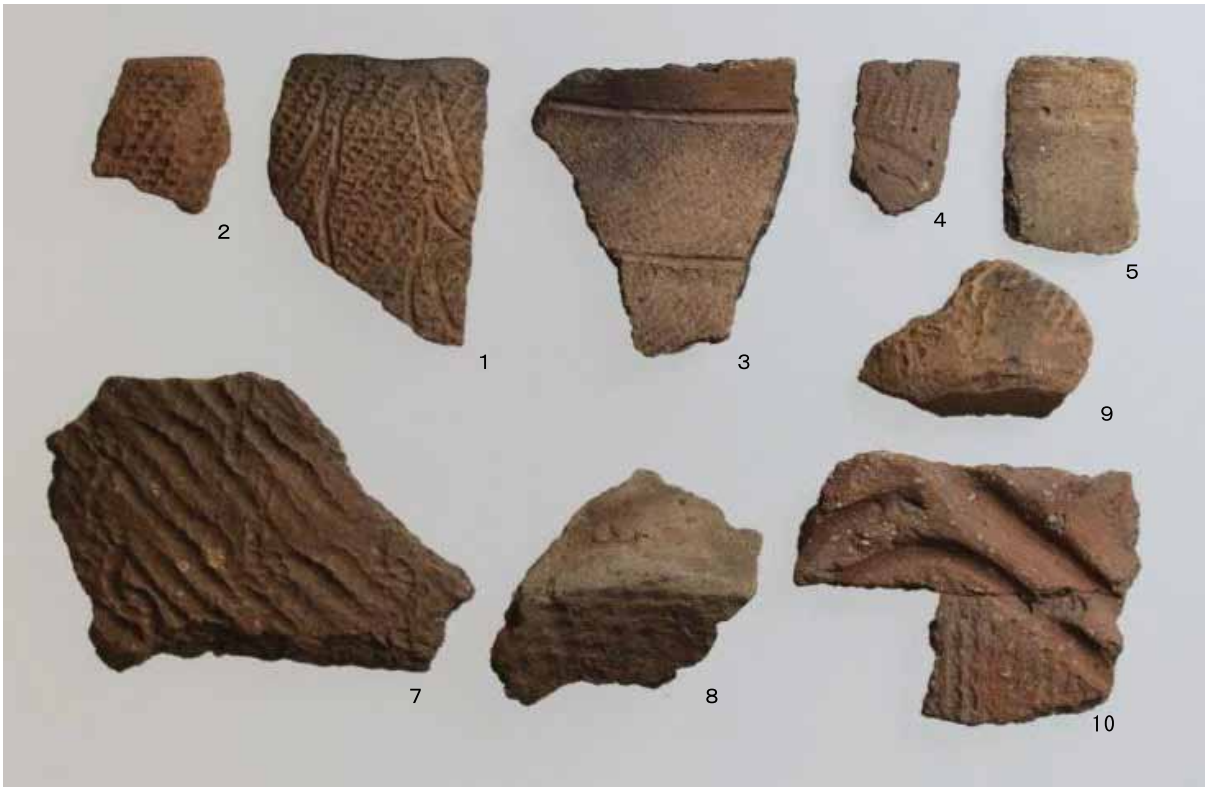
Ⅰ区　拡張区遺構検出状況（東から）

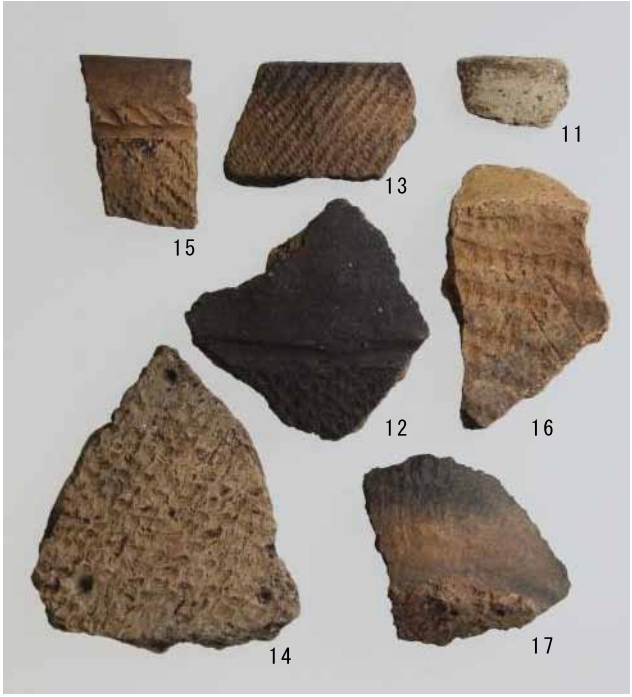
Ⅰ区　北壁土層堆積状況（南から）

Ⅱ区　全景（南西から）

Ⅱ区　北西壁土層堆積状況（南東から）

Ⅱ区　完掘状況（南西から）





出土遺物

平成27年度　派遣専門職員

【後列左から】具志堅清大（沖縄）・長屋敷淳史・鳥居達人（岩手）・篠宮正（兵庫）・岩名建太郎（静岡）・赤井文人（北海道）友岡信彦（大分）
【前列左から】上床真（鹿児島）・小野寺真弓・佐々木務（岩手）・小竹森直子（滋賀）・新海和広（秋田）・半澤武彦高橋祐（岩手）※敬称略

赤井文人氏（北海道）

新海和広氏（秋田県）

岩名建太郎氏（静岡県）

小竹森直子氏（滋賀県）

篠宮　正氏（兵庫県）

友岡信彦氏（大分県）

上床　真氏（鹿児島県）

具志堅清大氏（沖縄県）

分布・試掘・本発掘調査・工事立会
市町村支援一覧

1　分布調査一覧

（1）三陸沿岸道路（三陸国道事務所・南三陸国道事務所管内）

洋野工区（青森県階上～侍浜）

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり1		土師器片		九戸郡洋野町種市第4地割	平成27年5月12日	要試掘調査
2		可能性あり2				九戸郡洋野町種市第3地割	平成27年5月12日	要試掘調査

田老～普代工区

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
3		可能性あり1				田野畑村菅窪	平成27年5月12日	要試掘調査
4		可能性あり2				田野畑村菅窪	平成27年5月12日	要試掘調査
5		可能性あり3				田野畑村菅窪	平成27年5月12日	要試掘調査

宮古～田老工区

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
6		可能性あり1				宮古市田老字青野滝北地内	平成27年6月22日～6月26日	要試掘調査
7		可能性あり2				宮古市田老字青野滝北地内	平成27年6月22日～6月26日	要試掘調査
8		可能性あり3				宮古市田老字青野滝北地内	平成27年6月22日～6月26日	要試掘調査
9		可能性あり4				宮古市田老字青野滝北地内	平成27年6月22日～6月26日	要試掘調査

（2）宮古盛岡横断道路（三陸国道事務所・岩手河川国道事務所管内）

宮古～箱石工区

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
10		可能性あり				宮古市箱石第2地割地内	平成27年4月10日	要試掘調査
11		可能性あり				宮古市区界第2地割地内	平成27年7月29日	影響なし
12		可能性あり1（残土置場）				宮古市小国第2地割地内	平成27年8月19日	要試掘調査
13		可能性あり２（残土置場）				宮古市小国第2地割地内	平成27年8月19日	要試掘調査
14		可能性あり３（残土置場）				宮古市小国第2地割地内	平成27年8月19日	要試掘調査

区界道路

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
15		可能性あり1				宮古市区界去石地内	平成27年7月27日	要試掘調査
16		可能性あり2				宮古市区界去石地内	平成27年7月27日	要試掘調査

（3）一般国道45号三陸沿岸道路（久慈北道路）

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
17		可能性あり				久慈市夏井町鳥谷第5地割地内	平成27年8月19日	要試掘調査

2　試掘調査一覧

（1）三陸沿岸道路

（三陸国道事務所管内：青森県階上IC ～山田IC・南三陸国道事務所管内：山田南IC ～宮城県唐桑IC）

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
1	平成27年4月14日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	乙部遺跡	宮古市
2	平成27年5月12日	三陸沿岸道路（山田宮古道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	沢田Ⅰ遺跡	山田町
3	平成27年5月13日	三陸沿岸道路（普代久慈道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	力持Ⅱ遺跡	普代村
4	平成27年5月13日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	小白浜遺跡	釜石市
5	平成27年5月26日～27日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり22	洋野町
6	平成27年6月18日	三陸沿岸道路（釜石山田道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	大沢川遺跡	山田町
7	平成27年6月18日～19日	三陸沿岸道路（釜石山田道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	辺地ヶ沢Ⅰ遺跡及び隣接地	大槌町
8	平成27年6月24日～25日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	北玉川遺跡（可能性あり21）	洋野町
9	平成27年6月24日～26日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	上のマッカ遺跡	洋野町
10	平成27年6月30日	三陸沿岸道路（山田宮古道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	金浜Ⅱ遺跡	宮古市
11	平成27年7月8日	三陸沿岸道路（普代久慈道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり1・2	野田村
12	平成27年7月16日	宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	腹帯Ⅳ遺跡（旧可能性あり6）	宮古市
13	平成27年7月21日～22日	三陸沿岸道路（田老普代道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	小成Ⅱ遺跡（旧可能性あり4）	岩泉町
14	平成27年8月4日	三陸沿岸道路（山田宮古道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	石峠Ⅱ遺跡及び隣接地	山田町
15	平成27年9月8日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり （高家川工事用道路）	久慈市
16	平成27年10月1日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり	久慈市
17	平成27年10月8日	三陸沿岸道路（釜石山田道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	菖蒲ヶ沢遺跡	大槌町
18	平成27年10月8日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	可能性あり	釜石市
19	平成27年10月20日・21日	三陸沿岸道路（普代久慈道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	芦ケ沢遺跡（旧可能性あり29）	久慈市
20	平成27年10月22日	三陸沿岸道路（普代久慈道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり16	野田村
21	平成27年11月16日～17日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	向新田Ⅹ遺跡 （旧可能性あり・レベルバンク）	宮古市
22	平成27年11月16日～18日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり4	宮古市
23	平成27年11月18日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり3	宮古市
24	平成27年11月18日～19日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり2	宮古市
25	平成27年11月18日～12月8日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり1	宮古市
26	平成27年12月2日・3日	三陸沿岸道路（釜石山田道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	田屋遺跡	大槌町
27	平成27年12月3日	三陸沿岸道路（普代久慈道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	芦ケ沢遺跡（旧可能性あり29）	久慈市
28	平成27年12月15日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり15隣接地	洋野町
29	平成28年1月13日	三陸沿岸道路（釜石山田道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	辺地沢Ⅰ遺跡	大槌町
30	平成28年1月19日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	小白浜遺跡	釜石市
31	平成28年2月3日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	大沢2遺跡	釜石市
32	平成28年2月9日・10日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	小田ノ沢遺跡隣接地	洋野町
33	平成28年2月17日	三陸沿岸道路（山田宮古道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	荷竹日向Ⅰ遺跡	宮古市
34	平成28年2月26日	一般国道45号（岩手45号復興）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	新館遺跡	大槌町
35	平成28年3月10日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	南川尻遺跡（旧可能性あり9）	洋野町

※網掛け箇所は本書で取り上げた遺跡

（２）宮古盛岡横断道路

（三陸国道事務所管内：藤原～箱石・岩手河川国道事務所管内：平津戸～都南川目）

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
1	平成27年4月16日	宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり（事務所・宿舎建造） 茂市雲南遺跡	宮古市
2	平成27年4月16日・6月16日	宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	腹帯配石遺構群	宮古市
3	平成27年5月19日	宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり	宮古市
4	平成27年7月16日	宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	腹帯Ⅳ遺跡（旧可能性あり6）	宮古市
5	平成27年8月5日～7日	宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	可能性あり1	宮古市
6	平成27年9月29日・10月26日～28	宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり1・2・3	宮古市
7	平成27年10月6日	都南川目道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	新道Ⅰ遺跡	盛岡市
8	平成27年10月6日・12月17日	宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり10	宮古市
9	平成27年11月5日・12月17日	宮古盛岡横断道路（宮古箱石道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり3及び隣接地	宮古市
10	平成27年11月10日・11日	宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	腹帯Ⅴ遺跡 （旧可能性あり・工事用ヤード）	宮古市
11	平成27年11月12日・13日	宮古盛岡横断道路（平津戸・岩井～松草）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	岩井沢遺跡（旧可能性あり3）	宮古市

（３）市町村支援関係

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
1	平成27年9月7日～14日	山田町都市計画道路建設事業	山田町教育委員会（県教委支援）	長崎Ⅰ遺跡	山田町
2	平成27年9月9日・15日～17日	山田町都市計画道路建設事業	山田町教育委員会（県教委支援）	関谷Ⅳ遺跡	山田町
3	平成27年9月9日・16日・17日・10月5日～14日	山田町都市計画道路建設事業	山田町教育委員会（県教委支援）	長崎Ⅱ遺跡	山田町
4	平成27年11月25日	村道切牛真木沢線改良工事	田野畑村教育委員会（県教委支援）	真木沢Ⅳ遺跡	田野畑村

３　本発掘調査一覧

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
1	平成27年5月12日～6月2日	三陸沿岸道路（宮古中央～田老）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	乙部遺跡	宮古市
2	平成27年8月24日～9月4日	宮古盛岡横断道路（宮古～箱石）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	腹帯Ⅳ遺跡（旧可能性あり6）	宮古市
3	平成27年10月13日～28日	三陸沿岸道路（山田～宮古）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	荷竹日影Ⅱ遺跡（旧可能性あり2・機能補償道路）	宮古市
4	平成27年11月9日	三陸沿岸道路（田老～普代）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	小成Ⅱ遺跡（旧可能性あり4）	岩泉町
5	平成27年11月24日～12月2日	三陸沿岸道路（洋野～階上）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	サンニヤⅡ遺跡 （旧可能性あり・２号工事用道路）	洋野町
6	平成27年12月3日～16日	村道切牛真木沢線交差点改良工事	田野畑村（県教委支援）	真木沢Ⅳ遺跡	田野畑村

４　工事立会一覧

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
1	平成27年7月3日	宮古盛岡横断道路 （区界～築川　工事用仮設構造物）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	川目Ｂ遺跡	盛岡市
2	平成27年7月17日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	千徳城遺跡群	宮古市
3	平成27年8月18日	一般国道45号岩手45号復興（平田地区）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	平田遺跡	釜石市
4	平成27年8月19日	三陸沿岸道路（普代久慈道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	上泉沢遺跡	野田村
5	平成27年8月24日	三陸沿岸道路（山田宮古道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	根井沢穴田Ⅰ遺跡	宮古市
6	平成27年9月7日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	南鹿兼Ⅰ遺跡	洋野町
8	平成28年2月19日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり（水抜ボーリング）	久慈市
7	平成28年3月2日	村道菅窪和野線側溝改修工事	田野畑村（県教委支援）	菅窪中山遺跡及び隣接地	田野畑村

※網掛け箇所は本書で取り上げた遺跡

報 告 書 抄 録

ふりがな	いわてけんないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	岩手県内遺跡発掘調査報告書
副書名	平成27年度復興関係
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書
シリーズ番号	第149集
編集者名	岩手県教育委員会
編集機関	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
所在地	〒020-8570　岩手県盛岡市内丸10－1　TEL 019－629－6180
発行年月日	平成29年3月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
サンニヤⅡ遺跡	九戸郡洋野町種市第25地割	3507	IF48-2231	40度 24分 36秒	141度 42分 18秒	20151124～ 1202	150	記録保存 調査
小成Ⅱ遺跡	下閉伊郡岩泉町小本	3483	KG63-1048	39度 49分 20秒	141度 57分 42秒	20151109～ 1119	250	記録保存 調査
乙部遺跡	宮古市田老字重津部北	3202	KG84-0069	39度 46分 32秒	141度 57分 48秒	20150512～ 0602	555	記録保存 調査
荷竹日影Ⅱ遺跡	宮古市津軽石第15地割	3202	LG63-0280	39度 33分 14秒	141度 55分 43秒	20151013～ 1028	250	記録保存 調査
腹帯Ⅳ遺跡	宮古市腹帯第４地割	3202	LG40-2030	39度 36分 00秒	141度 45分 44秒	20150824～ 0904	100	記録保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
サンニヤⅡ遺跡	集落跡	縄文・古代	竪穴住居跡・土坑・陥し穴状土坑	土師器	焼失住居
小成Ⅱ遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡・土坑	縄文土器	
乙部遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡・土坑	縄文土器・石器	
荷竹日影Ⅱ遺跡	集落跡	縄文・古代	竪穴住居跡・鍛冶	土師器・鉄製品	
腹帯Ⅳ遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡・土坑	縄文土器	

岩手県文化財調査報告書 第149集

岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成27年度 復興関係）

印　刷　平成29年３月28日
発　行　平成29年３月28日

発　行　岩手県教育委員会
〒020－8570 岩手県盛岡市内丸10番1号
電 話（019）629－6180
編　集　岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
印　刷　（株）興版社
〒020－0816 岩手県盛岡市中野1-4-14
電 話（019）624－3456

© 岩手県教育委員会　2017